

Internship Report

2023



同志社女子大学
キャリア支援部 キャリア支援課
<https://www.dwc.doshisha.ac.jp/>

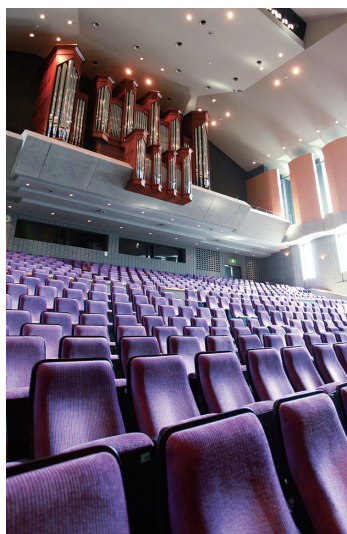
○京田辺キャンパス

〒610-0395 京都府京田辺市興戸
TEL. 0774-65-8415 / FAX. 0774-65-8449
[E-mail] career-t@dwc.doshisha.ac.jp

○今出川キャンパス

〒602-0893 京都市上京区今出川通寺町西入
TEL. 075-251-4135 / FAX. 075-251-4276
[E-mail] career-i@dwc.doshisha.ac.jp

2023年度インターンシップを終えて



キャリア支援部 部長 吉岡 康博

現代社会は、地球温暖化や環境汚染について、国際社会が取り組まなければならない重要な課題があります。さらに、人工知能技術（A I）や情報通信技術（I C T）の急速な発展によりD X人材の育成が急務です。生成A Iへの対応やジェンダーギャップの解消も積極的に取り組まなければなりません。まさに人類の生存と経済活動の両立が必須であり、一刻の猶予もなく、その最適解が求められています。特に今年は、国際情勢の緊迫化による世界経済の不透明さや円安、物価高、人材不足など様々な影響と問題が発生しています。

大学は、課題解決に取り組む現代社会へ学生が円滑に移行できるよう、社会的・職業的自立が継続的にできるよう教育と環境づくりに寄与することが求められています。

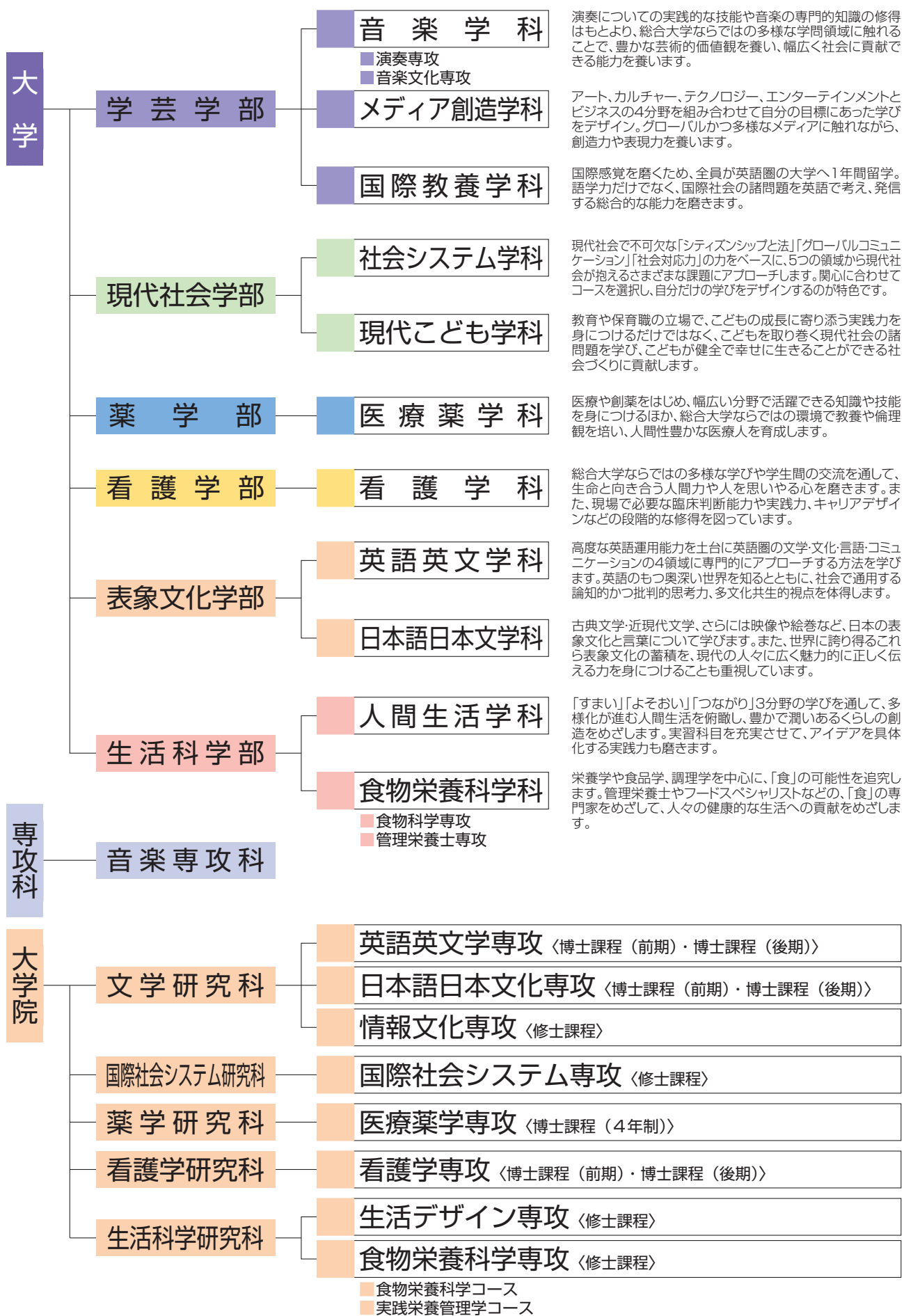
本学のキャリア教育は、主体的に自らを高めつつ、他者のため、社会のために役立つ人物養成を目途に、授業や様々なプログラムを充実させるべく全学体制で取り組んでいます。

インターンシップは、職業現場において、人と学び、人から学ぶことで、創造・問題発見・解決の能力を高めることができます。特にコロナ禍を経験した学生には重要です。そして、自らの将来を見据え、確かな職業観を醸成し、社会的・職業的自立を促すために最も有効であると考えています。1999年度から正課科目として開講しています「インターンシップ」に、今年度は現地あるいはW E B、または、両方によるインターンシップが多数実施され、75名の学生が参加しました。そのインターンシップ実習を効果的に行うため、事前指導講義と事後指導講義も実施しております。

本学は、当プログラムの更なる発展・充実を図る所存ですが、実習先の皆様のご協力なくして、その実現を為し得るものではありません。皆様におかれましては、本冊子をご一読いただくとともに、本学インターンシップに対し、一層のご理解とご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。最後になりましたが、ご多用の中、快く受け入れ、ご指導を賜りました企業・自治体・団体の皆様に心から感謝し、御礼申し上げます。

2024年 2月

同志社女子大学 学部学科・大学院



2023年度 同志社女子大学 インターンシップレポート

CONTENTS

● 2023年度インターンシップを終えて	
● インターンシップ制度について……………	2
● 年間スケジュール／ 事前・事後指導講義概要……………	3
● 実施状況……………	4
● 実習先一覧……………	5
● インターンシップ I A・I B 体験レポート…	7
・ 学芸学部	
音楽学科	メディア創造学科
・ 現代社会学部	
社会システム学科	現代こども学科
・ 表象文化学部	
英語英文学科	日本語日本文学科
・ 生活科学部	
人間生活学科	食物栄養科学科
● オープンインターンシップ(大学協定型) 体験レポート…	47
・ 学芸学部	
音楽学科	メディア創造学科
国際教養学科	
・ 現代社会学部	
社会システム学科	
・ 表象文化学部	
英語英文学科	日本語日本文学科
・ 生活科学部	
食物栄養科学科	
● アンケート結果……………	56

インターンシップⅠA・ⅠB

1. 目的

- (1) 学生がキャンパスの中で修得した知識や理論を現実のフィールドで実践し、体験することにより、キャンパス内での学習効果を一層高める。
- (2) 学生個々の自主性、独創性、協調性を養い、自立心を高める。
- (3) 実社会における企業等の現場を体験し、地についた職業観を形成する貴重な機会とする。

2. 制度概要

(1) 科目設置区分・期間・時間・単位

正規授業科目として共通学芸科目区分に設置しています。

- ・「インターンシップⅠA」 通年1時間1単位（選択）
- ・「インターンシップⅠB」 通年2時間2単位（選択）

※単位が認定されるのは、次の条件を満たす実習に限ります。

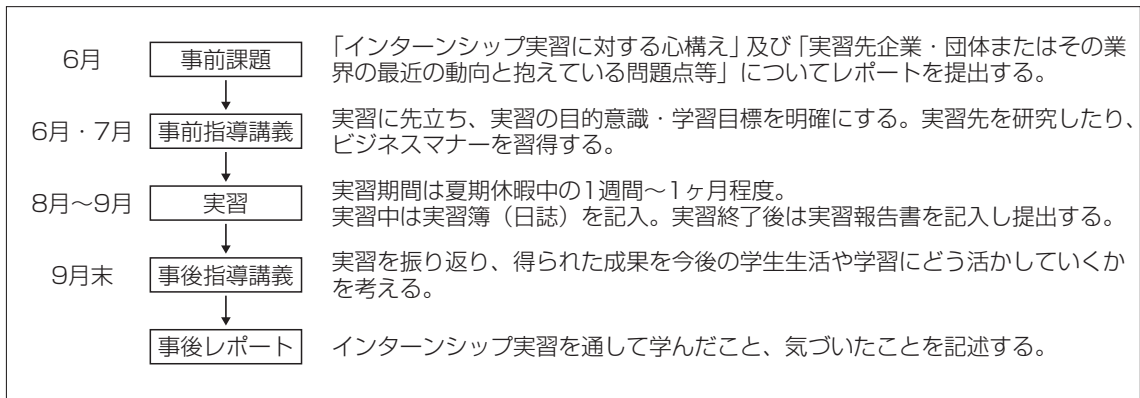
- ①受入企業・団体と本学が直接協定を交わすこと。
- ②夏期休暇中に実施され、原則としてⅠAの場合は「実習日数5日間以上8日間未満かつ総実習時間30時間以上」、ⅠBの場合は「実習日数8日間以上かつ総実習時間48時間以上」の条件を満たしていること。

(2) 対象および履修年次

全学部全学科 2年次生以上

(3) 実施形態

実地での実習だけでなく、学内で実施する事前・事後指導を含めて一連のプログラムとなっています。



(4) 成績

出席状況、実習先からの成績報告書、実習簿および報告書をもとに成績評価を行う。

(5) 実習費

2,000円

オープンインターンシップ（大学協定型）

大学と各地域のインターンシップ推進団体や受入先企業・団体とが協定を締結し、実習生選考から実習までその実習受入先の方針・計画に従って進められます。

同志社女子大学が推奨するその他のインターンシップ

□インターンシップ

公益財団法人大学コンソーシアム京都のプログラムで、ビジネスコース／パブリックコース、長期プロジェクトコースからなる。（正規授業科目として共通学芸科目区分に設置）

□インターンシップⅡ

各学科の応用・各論科目と関連させ、プログラムを策定。企業、自治体などの各行政機関、関連法人等で実習を実施。（正規授業科目として応用・各論科目区分に設置）

インターンシップⅠA・ⅠB、オープンインターンシップ(大学協定型) 年間スケジュール

実習以外は学内実施

月	インターンシップⅠA・ⅠB	オープンインターンシップ（大学協定型）
4月	●実習生募集説明会	
5月	●募集 出願 実習生選考（書類、面接） 選考結果発表	●学内で実習生募集 ↓
6月	●事前指導講義（2日） ↓	●インターンシップ推進団体または実習先による選考 ●事前指導講義（2日） ↓
7月		
8月	●インターンシップ実習 ↓	●インターンシップ実習 ↓
9月	●実習生から実習報告書提出 ●実習先から成績報告書提出 ●事後指導講義（1日）	●事後指導講義（1日） ↓
10月		
11月		
12月		
1月		
2月		
3月	●実習生へ単位授与（該当者のみ）	
備考		●各地域の推進団体によりスケジュールは異なる ●春期インターンシップを実施している地域もあり

インターンシップⅠA・ⅠB、オープンインターンシップ(大学協定型) 事前・事後指導講義概要

	講義名	講義内容	学習目標
1	事前指導講義 ①	インターンシップ概要説明	インターンシップに対する理解を深める
2	事前指導講義 ②	目標・課題設定	・インターンシップ実習で何を学ぶのかを理解する ・インターンシップ実習に参加するにあたっての目標・課題設定を行う
3	事前指導講義 ③	目標・課題設定 組織／企業(団体等)研究	・目標達成、課題を解決するための、インターンシップでの取り組み方について学ぶ ・組織／企業（団体等）研究の方法について理解し、レポートを作成する
4	事前指導講義 ④	ビジネスマナー講習 ＜基本編＞	言葉遣い、電話対応、来客対応などのビジネスマナーを身につける
5	事前指導講義 ⑤	ビジネスマナー講習 ＜応用編＞	言葉遣い、電話対応、来客対応などのビジネスマナーを身につける
6	事前指導講義 ⑥	実習前準備、実習にあたっての確認・注意	実習前の準備、実習にあたっての注意事項を確認する
7	事後指導講義 ①	実習振り返り	・事前目標・課題に対する到達度を振り返る ・インターンシップ実習を今後に活かすために、下記①～④について整理する。 ①仕事内容を整理する／仕事に求められている力を整理する ②働く魅力を考える ③実習先や業界の今後の展望を考える ④訪問後の気づきをまとめる
8	事後指導講義 ②	グループディスカッション及び発表	学生同士で実習状況や目標への到達度合いを話し合い、確認することで、自らの学びをブラッシュアップし、インターンシップ実習のまとめを行う。
9	事後指導講義 ③	全体総括・今後に向けて	

※2023年度プログラム。

①インターンシップⅠA・ⅠB

都道府県別

ブロック	都道府県	受入先数	実習先数	実習生数
関東	東京都	10	9	18
東海	岐阜県	1	0	0
東海	静岡県	1	1	1
東海	三重県	1	0	0
近畿	滋賀県	3	3	3
近畿	京都府	15	10	15
近畿	大阪府	24	17	27
近畿	兵庫県	3	2	2
近畿	奈良県	3	2	2
四国	高知県	1	1	2
海外	マレーシア	1	1	2
海外	オーストラリア	1	1	3
	合計	64	47	79

業種別

業種	受入先数	実習先数	実習生数
建設業	1	1	2
製造業	1	1	2
放送業	2	2	3
情報サービス業	4	2	4
運輸業	2	1	1
小売業	11	6	9
卸売業	3	2	2
金融業	6	4	9
映像・音声・ 文字情報制作業	1	1	1
専門サービス業	1	1	1
宿泊業	6	4	6
飲食店	1	1	2
旅行業	1	1	2
その他の生活 関連サービス業	2	2	4
技術サービス業	1	1	2
学校教育	5	3	5
医療業	2	2	2
その他の 事業サービス業	2	2	3
政治・経済・ 文化団体	1	1	2
地方公務	11	9	13
合計	64	47	75

②オープンインターンシップ（大学協定型）

都道府県別

ブロック	都道府県	希望者数	実習先数	実習生数
関東	東京都	4	2	3
関東	茨城県	1	1	1
東海	静岡県	1	1	1
東海	岐阜県	1	0	0
東海	三重県	1	1	1
北陸	福井県	3	4	4
近畿	大阪府	1	0	0
近畿	兵庫県	2	1	2
近畿	和歌山県	2	2	2
中国	広島県	1	0	0
中国	山口県	1	2	1
四国	愛媛県	1	0	0
合計	延人数	19	14	16
	実人数	19	14	13

業種別

業種		実習先数	実習生数
印刷・同関連業		1	1
卸売業		1	1
広告業		1	1
宿泊業		2	2
学校教育		1	1
国家公務		3	3
地方公務		5	6
合計	延人数	14	16
	実人数	14	13

合 計

	実習先数	実習生数
①インターンシップⅠA・ⅠB	47	75
②オープンインターンシップ（大学協定型）	14	13
合計	61	88

①インターンシップ I A・I B

ブロック	企業・団体名称	ブロック	企業・団体名称
関東	株式会社IMAGICA Lab.	近畿	大阪トヨベット株式会社
関東	岡三証券株式会社	近畿	金井ホールディングス株式会社
関東	株式会社共立メンテナンス	近畿	亀屋良長株式会社
関東	株式会社スタジオアリス	近畿	株式会社関西マツダ
関東	株式会社ノバレーゼ	近畿	京都中央信用金庫
関東	株式会社パソナグループ	近畿	株式会社きんでん 京都支店
関東	丸三証券株式会社	近畿	株式会社グルメ杵屋
東海	静岡工フエム放送株式会社	近畿	株式会社神戸ポートピアホテル
近畿	和泉市教育委員会	近畿	株式会社サカイ引越センター
近畿	茨木市教育委員会	近畿	株式会社西武・プリンスホテルズワールドワイド ザ・プリンス京都宝ヶ池
近畿	芦屋市役所		医療法人社団石鎚会
近畿	近江八幡市役所	近畿	TAKAMI HOLDINGS株式会社
近畿	香芝市役所	近畿	谷税理士法人/有限会社タックス・プランニング
近畿	岸和田市役所	近畿	トヨタユニテッド奈良株式会社
近畿	木津川市役所	近畿	ナビオコンピュータ株式会社
近畿	京田辺市役所	近畿	株式会社ハヤシゴ
近畿	豊中市役所	近畿	富士フィルムビジネスイノベーションジャパン株式会社
近畿	彦根市役所	近畿	株式会社平和堂
近畿	守口市役所	近畿	株式会社ホテル京阪マネジメント
近畿	社会医療法人愛仁会 高槻病院	近畿	オリックス・ホテルマネジメント株式会社
近畿	株式会社内田洋行		ホテルユニバーサルポート
近畿	SMBC日興証券株式会社	四国	株式会社テレビ高知
近畿	株式会社エスワイシステム		株式会社JTBマレーシア支店
近畿	一般財団法人大阪教育文化振興財団	海外	株式会社Konomi Kindergarten International
	キッズプラザ大阪	海外	

②オープンインターンシップ（大学協定型）

ブロック	企業・団体名称	名 称
関東	—	国土交通省国土地理院
関東	—	経済産業省
関東	—	内閣官房内閣人事局
東海	—	津市役所
東海	—	沼津市役所
北陸	福井経営者協会	OOKABE GLASS株式会社
北陸	福井経営者協会	学校法人金井学園
北陸	福井経営者協会	株式会社グランディア芳泉
北陸	福井経営者協会	福井市役所
関西	兵庫県経営者協会	兵庫県警察
関西	和歌山県経営者協会	OUTDOOR TRIP株式会社
関西	和歌山県経営者協会	和歌山県
中国	山口県インターンシップ推進協議会	大村印刷株式会社
中国	山口県インターンシップ推進協議会	株式会社ケイ・アール・ワイ・サービスステーション

インターンシップ I A・I B 目次

【あ】

社会医療法人愛仁会 高槻病院……………32

芦屋市役所……………26

和泉市教育委員会……………25

茨木市教育委員会……………37

株式会社IMAGICA Lab.……………40

株式会社内田洋行……………21

SMBC日興証券株式会社……………19, 21, 35

株式会社エスワイシステム……………10, 12, 15

近江八幡市役所……………37

一般財団法人大阪教育文化振興財団
キッズプラザ大阪……………28, 39

大阪トヨペット株式会社……………24

岡三証券株式会社……………23, 32, 38

【か】

香芝市役所……………15

金井ホールディングス株式会社……………22, 26

亀屋良長株式会社……………45

株式会社関西マツダ……………29

岸和田市役所……………29, 36

木津川市役所……………12, 18, 43

京田辺市役所……………11, 36

京都中央信用金庫……………25

株式会社共立メンテナンス……………41

株式会社きんでん 京都支店……………40, 42

株式会社グルメ杵屋……………19, 44

株式会社神戸ポートピアホテル……………27

Konomi Kindergarten International ……16, 31

【さ】

株式会社サカイ引越センター……………30

株式会社JTB マレーシア支店……………22, 33

静岡エフエム放送株式会社……………8

株式会社スタジオアリス……………9, 14

株式会社西武・プリンスホテルズ
ワールドワイド ザ・プリンス京都宝ヶ池
……………14

医療法人社団石鎚会……………20

【た】

TAKAMI HOLDINGS 株式会社……………8

谷税理士法人/有限会社タックス・プランニング
……………9

株式会社テレビ高知……………13, 41

トヨタユナイテッド奈良株式会社……………16

豊中市役所……………30

【な】

ナビオコンピュータ株式会社……………11

株式会社ノバレーゼ……………13, 17, 35

【は】

株式会社パソナグループ……………17, 20

株式会社ハヤシゴ……………28, 38

彦根市役所……………34

富士フイルム
ビジネスイノベーションジャパン株式会社
……………10

株式会社平和堂……………44

株式会社ホテル京阪マネジメント……………27, 33

オリックス・ホテルマネジメント株式会社
ホテルユニバーサルポート……………18, 23

【ま】

丸三証券株式会社……………24, 42

守口市役所……………34

オープンインターンシップ(大学協定型) 目次

経済産業省……………52

国土交通省国土地理院……………52

津市役所……………55

内閣官房内閣人事局……………53

沼津市役所……………55

兵庫県経営者協会 兵庫県警察……………50, 54

福井県経営者協会 OOKABE GLASS株式会社
……………48

福井県経営者協会 学校法人金井学園
……………48

福井県経営者協会 株式会社グランディア芳泉
……………49

福井県経営者協会 福井市役所
……………49

山口県インターンシップ推進協議会 大村印刷株式会社
……………51

山口県インターンシップ推進協議会
株式会社ケイ・アール・ワイ・サービスステーション
……………51

和歌山県経営者協会 OUTDOOR TRIP株式会社
……………50

和歌山県経営者協会 和歌山県
……………54

インターンシップ I A・I B
体験レポート ● ● ●

音楽学科

企業

「インターンシップの大切さ」

学芸学部 音楽学科 3年次

【静岡エフエム放送株式会社】

私は「静岡エフエム放送株式会社」に行く前に3つの目標を立てていました。

1つ目は「行く前よりも詳しくなる」です。目標達成できたと考えます。実習では毎日2～3時間ごとに部署が変わり、5日間を通してすべての部署を見学、また体験することができました。部署ごとに、ついでくださる社員の方々のお話を聞き、そして直接現場を見ることが行く前よりも確実に「静岡エフエム放送株式会社」について詳しくなったと自信を持って言えます。実習前までラジオ局はラジオを行っている場所であって、社員の方は皆様ラジオの放送を行っている方なのかという風にぼんやりとしか分かっていませんでした。しかし、実習に行くときそうでないことを知りました。総務の方、プロモーション事業部の方などは直接ラジオの放送には関わっておられませんが、その方々がいることでラジオ局は成り立っています。ラジオ局で直接実習を受けたことで会社について深く知ることができました。2つ目は「たくさんの質問を社員の方々にし、直接行くことに意味があるようにする」です。実習担当者が毎回、同じ社員の方ではないからこそ、たくさんの質問ができました。しかし、その場でパッと「質問ありますか」となった時、すぐに出てこないことを後悔しました。聞きたいことはたくさんあるのにその場で出てくず、後になって出てくるのはもったいないと思いました。3つ目の「行ってよかったという充実感や達成感を得る」もとても感じる事ができた5日間でした。インターネット上の情報だけではその職場は分からないということを実感しました。5日間で今のラジオ業界について知り、社員の方々の仕事についての思いも知り、とても充実していました。

その上で改善点が2つあります。1つ目はラジオについて、会社については調べてはいましたが、実際に「静岡エフエム放送株式会社」の独自の放送番組を視聴していなかったということです。私はラジオについて詳しくなければ困らないと思っていましたが、会社独自の番組には会社独自のカラーや取り組みがあり、そのことを事前に知っておく必要があったと感じました。実習前に視聴して、その後実習で直接生放送を視聴した方が、行く前後の違いや感動が生まれていたと思いました。2つ目は受け答えを速く、頭の回転を速くすることです。社員の方が「この時間までに考えてください」や「これについての意見を出してください」という時間がありました。その際、私は意見が早く出る方ではありますが、完璧なものや私独自のものをすぐには出せません。この力は働くとなるとどの仕事でも大事だと考えました。

私はインターンシップに参加できたことがとてもいい経験になりました。このインターンシップは全学生が行くべきものだと感じました。1DAYのインターンシップではないからこそ深く知ることができ、事前後の講義があるからこそ自信をもってインターンシップに行けました。

企業

「インターンシップを終えて」

学芸学部 音楽学科 3年次

【TAKAMI HOLDINGS株式会社】

私は、以前からブライダル業界に関心があり、今回のインターンシップでは、結婚式を挙げるお客様の衣装をコーディネートするスタイリストという職業を経験させていただきました。

8日間の中で、ウェディングドレスに加え、カラードレス、タキシード、色打掛、モーニングコート、小物合わせなど、様々な接客を見学させていただきました。中でも、新婦様のウェディングドレスのご案内が印象に残っています。ウェディングドレスにも、色味やデザインの種類が数多くあり、お客様と共に衣装を選び、試着した中から、お気に入りの一着を決定していきます。実際に、接客に付いてみて、スタイリストの方々はお客様がご希望するドレスに加え、当日の会場に合う衣装をイメージし、お客様との会話を通して雰囲気や掴みながら、提案をしていることが分かりました。ただ、似合うドレスを提案するのではなく、新婦様のご体型や季節に合う素材感、トレンドを考えた上で、ヘアメイクやブーケ、小物をも提案し、一人一人に寄り添われていることが伝わってきました。結婚式を挙げる何か月も前からお客様は衣装をスタイリストとともに準備していくため、スタイリストはお客様に安心感を与え、信頼される存在であることが大切なのではないかなど、お客様との接し方や関わり方を改めて考えさせられました。また、お客様が一生に一度の結婚式で「この衣装にして良かった」と満足していただけるように、接客後には試着された衣装やお客様との会話を記録し、次回ご来店された際の提案に繋がるよう、力を尽くされている姿が多く見受けられました。

一方、スタイリストの仕事はお客様の衣装をコーディネートするだけではなく、その衣装を他店に出荷、他店から入荷する作業があります。ドレス一着でも重さがあり、一日に何度も運ぶため、力仕事も多いですが、それ以上に新郎新婦や親御様の衣装を共に選び、幸せの瞬間に立ち会えることにやりがいを感じる事ができると思いました。

この8日間のインターンシップの中で、様々な接客に付かせていただき、スタイリストの方々のお客様には見えないところでの努力や何度も試行錯誤しながら提案されている姿を知り、大切な一着を決めたお客様の笑顔を見たときは、感動と同時にスタイリストという仕事の喜びや楽しさを感じた瞬間でした。また、インターンシップ期間でスタイリストの方々に就職活動の相談をさせていただいたところ、親身に耳を傾けて、アドバイスして下さったことが有り難く、参考になりました。8日間という短い間でしたが、様々なことを経験させていただき、充実したインターンシップでした。この夏、学んだことを今後の学生生活や就職活動で活かしていきます。本当にありがとうございました。

企業

「社会人になるために」

学芸学部 音楽学科 3年次

【谷税理士法人／有限会社タックス・プランニング】

私は本インターンシップで、「当たり前のことを当たり前に行うということ」の大切さについて学んだ。インターンシップに参加するまで、社会に出て働くためには今までとは違う何か大きなものを得る必要があると考えていた。しかし、インターンシップに参加して、社会人として働く人々に関わってみて、人を大切にする、目的のために自分のことができることや足りない部分を補うために努力することが社会で働いていくために必要なことだと考えた。働く際、必ず誰かと関わることになる。それがよく知り得た仲の相手のときもあれば、初対面の相手のときもある。どちらにせよ、相手に対して、丁寧に誠意を持って関わっていかなければ、信頼関係を築くことができない。また、職場内でも職場外でも気遣いや思いやりは必要だ。気遣いや思いやりがなければ、気分良く仕事をする事ができない。仕事を円滑に行っていくためには、対人関係もとても大切だと実感した。

本インターンシップで特に印象的だったのは、毎朝出社した人が手分けして掃除されていたことだ。手分けして掃除をすることで、お互いがきれいな環境で気分良く仕事をする事に繋がっていると感じた。また、掃除をする人もいる中で、会社の方それぞれのマグカップに飲み物を入れてデスクに配る人もいた。これも思いやりだと思った。他にも、お客様が来られたときも、丁寧に話を聴きながら真剣に答えておられる様子や、電話がかかってきたときも、丁寧に対応されていた。この様子を見聞きして、職場のどの方々もとても人を大切にしておられるんだと感じた。また、職場の人同士でいろいろなことを確認し合いながら仕事される姿を見て、細かくコミュニケーションを取ることで、仕事内でのミスも減るのかと思った。私もわからないことは、どんなに些細に思うことでも素直に質問した。そうすることで、大きなミスは無くインターンシップを終えることができた。これらのことから、当たり前のことが当たり前に行うことがとても大切だと考えた。当たり前のことは、誰もができるように感じるが、気遣いや思いやりは人によって形が変わってくる。知識、技術、経験、価値観等さまざまなものがかけ合わさって対人関係は成り立っている。だからこそ、相手の立場に立って発言したり行動したり、素直に人と関わったりすることも大切だと考える。時に質問することが恥ずかしかったり怖かったりするときもあるが、自分のことばかり考えていてはいけないと感じた。常に関わってくれる人のことを思い、自分の言動に責任を持つことが大切だと考える。今回、当たり前のことの大切さに改めて気づくことができたので、残りの大学生活の中で、自分が大切だと感じることを実行しながら、他の人のいいと思う部分も吸収し、当たり前のことが当たり前に行うような大人になっていけるよう努力したいと思う。

企業

「実習を終えて」

学芸学部 音楽学科 2年次

【株式会社スタジオアリス】

私は、今回のインターンシッププログラムで、実習先で生かすことのできた自分自身の強みや改善すべき課題を把握して、自己理解を深めたいと思い、参加しました。また、仕事をする現場で実際に求められる能力を理解して、身につけて向上させることを自分の目標としていました。

実習期間は5日間で、着付けやヘアセット、撮影などをする現場を経験しました。初日はマニュアルを見て会社の概要の把握や、他のスタッフの方々が仕事をされている様子の見学をすることが多かったのですが、2日目以降は着付けや撮影のアシスタントといった実践的な仕事をしました。実際に来店されるお客様に対してマニュアル通りに接客をしようと思っても十分にできず、特に来店されるお子様は年齢や性別、性格も異なるため、お子様に応じてどんな対応が最適なかを判断することは非常に難しかったです。しかし、スタッフの方々の様子を見ていく中で、お子様に対して同じ目線に立って声掛けをすることの重要性に気づきました。撮影をする際に、緊張した様子のお子様には近くにしゃがみ言葉をかけたり、落ち着かない様子のお子様にはぬいぐるみを使って話したりなど、笑顔にするために様々な工夫があることを知った貴重な機会でした。実習を終えて、来店されたお客様の状況に応じて柔軟に対応することが重要であると感じました。

そして、この仕事をする上で重要であると感じたのは、能動性と積極性、コミュニケーション能力です。私は実習の中で、スタッフの方々の仕事の様子を見てメモを取るだけで何もできなかった場面がありました。「何かできることないか」と自分で聞き実行するべきであったと反省しています。指示されたことだけを行うのではなく、自分で何をすべきか考えながら取り組む能動性と積極性が必要であると感じました。またお客様やスタッフの方々と積極的にコミュニケーションをとろうと心がけていましたが、実際は緊張で表情が硬く会話を続けられない場面もありました。スタッフの方々は、お客様だけでなくスタッフ同士のやりとりにおいても笑顔で明るい声のトーンで話をされていたことが印象に残っています。こうしたコミュニケーションの取り方を普段から行うことが重要なのだと思いました。

このインターンシッププログラムを通して、社会人として働くことの大変さを身に染みて感じました。しかし実習先で学んだことは多く、今後の学生生活での対人関係やアルバイトでの接客に生かしていきたいと思いました。学生生活では多くの人と接する機会があるため、自分が相手の立場であつたらという客観的な視点をもちコミュニケーションをとっていききたいと思います。また、アルバイトでは周りの状況を把握して、柔軟に対応できるようにしたいと思います。困っている様子のお客様に対しては、自分から積極的に声を掛け笑顔での接客を意識して行いたいです。

メディア創造学科

【富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社】

企業「インターンシップを通して」学芸学部メディア創造学科3年次

私は今回のインターンシップに「働くことのイメージを明確にすること」「自分の強みと弱みを発見すること」を目標として参加しました。

働くことのイメージを明確にすることは、実習中の顧客訪問や社員の方との懇談会で達成することができました。実際にお客様の課題やニーズを理解して、解決につながる商品の提案をさせていただく実習を通して、コミュニケーションの重要性を実感しました。

お客様の抱えておられる問題点をチームの中でしっかりコミュニケーションを取り、商品のアイデアだしをしていくことで、要望に寄り添った内容にしていけるのだと学びました。今回の実習でチームの中でしっかりコミュニケーションをとり、お客様の課題が共有できたことで、担当の方が良い反応をしてくださり、一番のやりがいを感じました。また顧客訪問を通して、何よりも会話のキャッチボールであることを忘れてはならないと思いました。自分たちが解決に導けると思った提案でも、お客様は別の提案を求めておられるかもしれないからです。臨機応変にコミュニケーションをとり、会話を広げられるようになることで、潜在的ニーズも発見できるようになるのだと実際に体験して学びました。さらには何度も考え直しより良い提案をしていく必要があることも理解しました。

そして、懇談会での「働くことは大変だけれど、それ以上に小さな楽しいの積み重ねがあって、すごく楽しい」と先輩社員の方がおっしゃっていたことがとても印象に残っています。私はそれまで働くことに対してマイナスなイメージを持っていました。しかし、日々お客様のために勉強をし、知識をつけていくことは、自分が今まで知らなかった世界を知り、関わっていくことができるのだと学びました。

2つ目に得たことは自分の新たな強みと弱みを発見できたことです。強みの部分では協調性や傾聴力があることに気付くことができました。メンバーが出してくれたアイデアに反応できていたり、チームの状況を把握しながら自分にできるサポートを行っていたからだと考えます。営業をしていく上で、協調性と傾聴力はとても大切だと社員の方に教えていただいたので、この強みをさらに伸ばしていけるよう行動していきたいと思います。一方で弱みとして消極的で自信がない点を見つけることができました。もっと自分から意見を発信していけるように今後、授業やゼミ活動で意識して取り組んでいきたいと思います。

5日間と短い間でしたが、インターンシップで貴重な体験をしたことで、働くことや自分について新たな一面を発見することができました。このインターンシップで学んだことを今後の学生生活で活かしていきたいです。

【株式会社エスワイシステム】

企業「自信につながった10日間」学芸学部メディア創造学科3年次

私がこのインターンシップに参加したのは、夏休み中に企業での仕事を経験し、今後本格化する就職活動に活かしたいと思ったからです。また、株式会社エスワイシステム様を選んだ理由は、大学でHTMLやCSSについて学んだことがあり、ウェブサイトのプログラミング実習に興味を持ったからです。

インターンシップに参加するにあたり、2つ目標を決めました。1つ目の目標は、初対面の学生や社員様と交流し、コミュニケーション力と適応力を磨くことです。2つ目は、企業での仕事を通じて、企業の環境や仕事がどのようなものなのか学ぶことです。

1つ目の目標は、残念ながらあまり達成できなかったと思います。私はインターンシップでは、他の学生や社員様と明るく自信を持って話そうと思っていました。しかし、いざ実習が始まると、慣れないオンラインでのコミュニケーションが難しく、過度に緊張してしまい、明るく自信を持って話す余裕はありませんでした。2つ目の目標に関しては、社員様との交流会などで仕事について質問することができました。

今回、人に聞くことの重要性、そして辛くなったら誰かに相談すればいいということを、何よりも痛感しました。実習中は、主に、グループでウェブサイトのプログラミングをしました。しかし、過度の緊張や、オンラインでのコミュニケーションの取りづらさもあり、作業で分からないことがあってもなかなかグループの人に聞く勇気が出せませんでした。そうすると、当たり前ですがどんどん分からないことが積み重なっていき、作業が他の人より遅れてしまいました。上手くやろうと気負いすぎていたのも良くなかったのかもしれませんが。その結果、難しく考えすぎてしまい、余計に何をすればいいの分からなくなっていたようにも思います。何をやればいいの分からなくなったら、無理せず誰かに聞いてみて、できることからやっていけばよかったです。

また、先ほど述べたようなことで悩み、一時は実習を続けられる自信がなくなり、とても不安になっていました。そこで、思い切って行動を起こし、まずは大学のキャリア支援部の方に電話で相談し、その後、企業の担当者様とも一对一のZOOMで正直に気持ちをお話ししました。そして、落ち着いて、改めて自分の考えを整理することができ、最後まで続けようと決め、最終日まで実習をやり抜くことができました。担当者様やキャリア支援部の方をはじめとした、様々な人に話を聞いていただけたことはとてもありがたいことだと思います。

今回のインターンシップでの経験を活かし、今後の学生生活でも、分からないことがあればできるだけ早く、正直に聞くということを心がけたいです。上手くやろうと一人で気負いすぎないことも大切だと思います。何よりも、最後まで実習を続けられたことが、大きな自信につながると思います。

【ナビオコンピュータ株式会社】

企業「インターンシップ実習を終えて」学芸学部メディア創造学科3年次

今回インターンシップに参加した理由は、社会や就職活動について知らないことが多くどのように進めていけば良いかも分からなかったため、社会で働くことについて知識を深めたいと思ったからです。進みたい業種も定まっていなかったのですが、今回は興味のある情報サービス業の中から授業でも経験のあったWebデザインを仕事として体験できるナビオコンピュータ株式会社を志望しました。

今回の実習に参加して特に良かったことが2つあります。1つ目は、新卒は専門的なスキルよりもコミュニケーション能力や積極性が主に求められていると理解できたことです。大学のガイダンスで自主性が求められていることは知っていましたが、就職活動にあたって誇れる資格やスキルがないことに不安を感じていました。しかし、実習を通して、他の実習生や社員の方とのコミュニケーションがWebサイト作成に関する知識よりもずっと重要であると実感しました。2つ目は、他の実習生との横の繋がりができたことです。1つ目のコミュニケーションの大切さと通じることもありますが、仕事における助け合いの大切さを知ったこと、また今まで学外の同年代と関わる機会がなかったため、様々な大学に通う同年代の人たちと就職活動について情報を交換できたことは良い経験だったと思います。

おおまかな実習内容としては、クライアント役の社員の方から要望を伺い、進捗のプレゼンテーションを挟みつつWebサイトを作成するというものでした。今まで授業内で作成したWebサイトは全て自由に作ったものだったため、相手の頭の中にあるイメージを形にする今回の体験は難しくも非常にやりがいがあるものでした。プレゼンテーションは3回行ったのですが、回を重ねるごとに成長を実感するだけでなく新たな改善点に気づくことができました。最後のプレゼンテーションである成果発表でクライアントの方に喜んでいただけた時は達成感と自己成長を感じることができました。

初めは10日間のインターンシップは長いと思っていましたが、他の実習生と親交を深めつつ協力して業務ができたこと、成果発表で得られた達成感は2週間という期間だからこそだと実習を終えて感じます。この実習を通して社会について知識を深めることができ、就職活動に対する不安を払拭することができました。また、自分の強みや足りない能力に気づくことができました。この経験を学生生活や就職活動に生かすだけでなく、他のインターンシップやボランティア活動に参加することで足りない部分は伸ばせるよう努力したいです。

【京田辺市役所】

官公庁「インターンシップでの気づきと学び」学芸学部メディア創造学科3年次

私は8日間、京田辺市役所のインターンシップに参加した。8日間の中で学べることは多く、将来を考える上でとても貴重な経験となった。インターンシップを通じて気づいたこと、学んだことは主に4つに分けられる。

まず、1つ目は業務に関することだ。市役所の業務はコソコソ行う仕事というイメージだったが幅広い業務があり、想像していた以上にたくさんの人とコミュニケーションをとり連携をしながら、仕事を行うと知った。例えば、単純な軽作業のような細々とした業務から外部の人に取材を行うなど外に出る業務まで、様々な業務があった。一つ一つの業務が積み重なって、社会を動かしたり、市民のためになったりするのだなと思った。そのように考えると、単純な作業も仕事を進めていく上で大切で、当たり前かもしれないが意味のない仕事はないのだと気づいた。様々な業務を行う中で、新聞を使った情報収集の方法や写真の撮り方やデザインの方法など実践的な広報誌の制作方法、生活リズムを整えて定時に出勤することなどを学ぶことができた。また、市役所は幅広い年齢や立場の人が働いており、長く働ける環境なのだろうと思った。

次に2つ目が、人との関係に関することだ。市役所の業務は、予想外のトラブルが起こることがあったり、広報誌を読む人がどう感じるかななどを考えて広報誌を作らなければならなかったりと、様々なことを考えながら業務を行わなければいけないとわかった。日々、様々なことを自分の頭で考えることが大切だとわかった。また、市役所の業務は様々な人とコミュニケーションをとりながら協力して、業務を進めていくことが多いと知った。業務を円滑に進めるために、周りの人の状況や立場などを見たり、想像しながら働くのが大切だとわかった。

そして、3つ目が、社会人としての働き方に関することだ。社会人として働く人は、礼儀がきちんとしていたり、時間管理・体調管理ができていたり、責任を持って仕事に取り組んでいたりと、自分の考えを持っていたり、学生にはないスキルを持っていると感じた。社会人として働いている人たくさんお会いし、私が社会で働くのに足りないことがわかったし、自分も改善できるようにしたいと思った。

最後に、4つ目が働くことについてだ。私は、インターンシップに参加するまで働くことにあまりいいイメージを持っていなかったが、実習を通して新しい経験をさせてもらったり、いろんな人の話を聞いたりして、働くことは楽しいことばかりではないと思ったが、楽しさを感じられることもあるとわかった。例えば、自分が得意なことや持っている知識を発揮できたときや、仕事をして感謝されたときは嬉しかった。また、市役所で働いている人は楽しそうにやりがいを持って働いている人が多く、私もそんなふうに関きたいと思った。今回の実習は、私の将来の働き方や過ごし方を考えるのにとっても良い経験になった。

〔木津川市役所〕		
官公庁	断つ事ない就活を目指して	
	学芸学部	メディア創造学科 3年次

今回のインターンシップ I A・I Bを履修して、私が訪れたインターンシップ先は木津川市役所の危機管理課であった。危機管理とは、災害の対策としての防災から、再発生時の対応、その後の復興まで包括して取り組むことである。私は現在木津川市に住んでいるため、市の地理や地形に基づく防災の視点、活動組織、また行政側としては議会の仕組みや現在行われている公助の内容などを学ぶことができたのは、大変興味深かった。

元々、災害や環境問題に関心を持っていたということもあり、今回より身近な地域という単位で、危機管理課の防災に関する業務について実態を持って知ることができたのは、自身の知識を深められたという点においても大きな成果だったと言えるだろう。

実習先の方々は大変優しく接して下さり、研修を通して、職員の方々は「危機管理」という面から市民を守るため、常にできることはないかとその役割に徹していた。問題解決も政策も一日では成り立たない。だからこそ市役所では常に多くの職員が様々な分野で、様々な立場になり勤めに徹し、市の治安を維持しているのだと改めて感じられた。一方、市民と行政の橋渡しとなるのも市役所職員の役目である。いくらその役目を懸命に務めていても、雇用主である「行政」の名札を正面につけて責めを追わなければならない時も必ずある。このインターンシップに行かなければ、この働くことの大きさを身にしみて感じることはできなかっただろう。

この実習期間内、危機管理課の職員の方の発言で印象に残ったものがある。今回できた繋がりをインターンシップの枠で終わらせてはしくない、せっかくインターンシップに来たのだから周囲の人の話を聞いて、たくさん利用して欲しい、というものである。正直、市役所へのインターンシップ実習に申し込んだ理由として、現在気になっている公務員の職務を体験し、自身に適性があるのかどうか判別したい、という考えもあった。大学ではデザインなどモノづくりに関わることを学んでいるため、将来はそのクリエイティブ系の方向か、また官公庁のどちらか、という検討をつけていた。しかし、今回の実習で市の防災訓練のポスターの制作を依頼される機会があり、官公庁の職場でもクリエイターの役割は必要とされていて、自身の大学で得たスキルは存分に発揮できるのだと達成感を持って知ることができた。また、反省点として、緊張した場での進行役としての振る舞いや、相手の話を引き出す傾聴力・伝える力など自身の力の不足を痛感する場面もあった。ただこれらはおそらく経験で培われるものだろう。デザインか、官公庁か、このような枠組みで縛られず、もっと多種多様なインターンシップに申し込み、社会経験を積みつつ、同時に多くの人の話を聞き相談する機会も自身で設けていくべきだと感じた。

少なくとも、私はしばらく木津川市に在住する予定であり、今後の就活、人生においても今回の、そしてこれからの繋がりは大変重要なものとなっていくはずだ。今回のつながりも含め、感じたこと、発見、それを断つことなく行動できるかが、次に自身に課せられた課題である。

〔株式会社エスワイシステム〕		
企業	「インターンシップを通して学んだこと」	
	学芸学部	メディア創造学科 2年次

株式会社エスワイシステムで5日間にわたりインターンシップ実習をさせていただきました。この実習ではコミュニケーション力を身に付けること、受け身にならず主体性を持って行動できるようになること、社会で働くとはどういうものなのか、イメージとリアルのギャップを知ることの3つを目標としていました。他の実習生と話す機会が少なく慣れるのに時間がかかったため、先に述べた2つはあまり達成できなかったと感じていますが、3つ目については社員の方々のお話を聞いてより理解が深まったと思っています。

私は今回の実習を通してコミュニケーション力の重要性やキャリアプランニングについて学びました。システムエンジニアという職業にはあまり人と話さないイメージがあったのですが、架空の会社のホームページ改修の実習や社員の方々との交流を通してチーム内の連携だけでなく顧客との擦り合わせをするのにコミュニケーション力が必要であるのだと知ることができました。特に株式会社エスワイシステム様は駐在のお仕事が多く、相手の方々との人間関係の構築がより重要であるのだと思いました。

社員の方々とお話できる機会があったのですが、働き方の答えは一つではないのだと改めて思いました。元々IT業界に興味を持っていたけれど、まずは自分の弱みである接客能力を向上させるために接客業に就いたとおっしゃった方がおられ、目からウロコでした。これまで学校で行われた講座に来られた外部講師の方々の経歴を聞いてみると、皆さん働いている中である分野に興味を持たれて、それに関する仕事に転職されていました。ステップを踏むのに転職を視野に入れ、まず別の業界・職業に就くということを思いつきもしなかったからです。自分の足りない部分を客観的に理解し、それを克服する実践的な方法を考え実際に行動するというのは簡単なことではないですが、キャリアプランニングの方法の一つとして視野に入れたいと思いました。

また、自分のことを見直す機会にもなりました。実習を通して自分が思っていたよりも知識が身につけられていなかったのだと痛感しました。授業で何回かwebサイトを作ったことがあり、基本的なところは少し分かっていると思っていたのですが、実習では思ったようにコードが打てずに、これまではアプリの予測変換やエラー表示に助けられていたことが分かりました。このことだけでなく、見落としている自分の弱みが他にあると思うので、就職活動をするまでに自己分析をし、克服もしくは解決する方法を探し出さなければいけないと感じました。

今回のインターンシップでは反省点が多くありましたが、これからの自分の課題として今後の成長に繋げていきたいと思います。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

〔株式会社テレビ高知〕		
企業	テレビで「伝える」現場から学んだこと	
	学芸学部	メディア創造学科 2年次

10日間の実習では、取材から番組放送までの業務や、中継の現場などを見学、体験させていただき、テレビ局には予想以上に幅広い業務があることに気づきました。報道制作部で主に体験させていただいた取材や原稿執筆などの業務だけでなく、例えばカメラマンの方からは、取材撮影時には現場にいる人の立場関係や何が行われているのかなどを視聴者がひと目見てわかるように構図を工夫されていることなどを学びました。また、美術分野では字幕のタイポグラフィや図、グラフのインフォグラフィック、イラスト制作などが行われ、視覚的に伝わりやすい映像作りを支えていることがわかりました。さまざまな職種が連携をとりながら番組が作られる現場を見学させていただいたことで、自分の興味のある職種や分野を具体的に考えるようになりました。どれくらい専門的な仕事に関わりたいのかを考え、幅広い業務を行う職種を目指すのか、あるいは専門的な業務を極めていくのかという視点も持ち、キャリアを考えたいと思いました。

実習では特に、自分の作成した原稿がオンエアに出るという体験をさせていただいたことが印象に残っています。この体験から、自分の伝えたことに責任を持たなくてはならないということを強く意識し、気の引き締まる思いになりました。原稿を書く際は、事象や取材先からの資料などを正確にわかりやすい言葉でまとめるだけでなく、起承転結や、伝えたいことの核とその背景をはっきりとさせるなど、情報を伝えるために気をつけることを学びました。今後の学生生活で、伝えるための文章やデザインの質を高められるよう励みたいと思いました。また、取材する現場や内容によっても、原稿の書き方や撮影などで意識することや工夫することは全く異なりました。情報を伝えるときは、どのように伝わるのかを考えたさまざまな工夫や配慮が必要だということを学び、色々な考え方や背景を想像して、物事を多角的に見ることができるようになりたいと思いました。さらに、どのような現場でも打ち合わせや調整、情報共有といったコミュニケーションを大事にされていると感じました。自分の理解や認識が周囲と違ってないかを確認する際にも、伝え方を工夫することが大切だと学びました。インターンシップを通して、働くことに対する考え方に変化がありました。

実習を終えて、その仕事を何のためにするのかということと向き合うことが大事だと思いました。例えばテレビ局には、放送を通して県民の生命や財産を守るという使命があり、そのために貢献できているかということを意識されていることを知りました。同時に、「自分のやりたいことに少しでも近いことで役に立つことができるのかということも重要だ」というお言葉をいただいたこともあり、自分がどんなことをして役に立っていきたいのかを知るために、今後もインターンシップなどの色々な体験をして視野を広げたいと思いました。

社会システム学科

〔株式会社ノバレーゼ〕		
企業	誰のために働くのか	
	現代社会学部	社会システム学科 3年次

私が今回のインターンシップを通して、働く上で相手の立場になって考えることはとても重要であることを強く実感した。

今回、ブライダル関係のインターンシップに参加をしたが、主に披露宴でのレストラン部門を担当した。まず、私が実習中に一番衝撃であったことが、アルバイトやインターンシップ実習生が、披露宴で一人一卓から二卓を担当していたことである。そこでは、昼からアルバイトやブライダルの専門学校からの長期インターンシップ実習生が多く、比較的学生が多い職場であった。そのため、インターンシップ実習生だから出来なくても仕方ないという甘えは通用しなかった。正直、私はその時までお客様気分であり、研修で沢山のブライダルに関する知識を得たが、実際は結婚式の見学等がメインで、責任重大な仕事は与えられないであろうと思い込んでいた。しかし、研修日の次の実習日には一卓を担当し、実際にその卓のお客様の対応をした。初日は椅子引きも満足に出来ず、卓のお客様に伝えなければならない内容が緊張と焦りから飛んでしまい、お客様だけでなく実習先にも迷惑をかけてしまった。

そこで、2日目からは反省を生かし、私の周りの卓を担当している方は、どのように対応しているのかをよく観察した。そこで気付いたことが、一見普通に対応しているように見えるが、よく見るとお客様第一に対応しているということであった。例えば、卓のお客様への説明の際は、何度も同じことをお客様に説明しないように、一度に大きな声で卓全体に伝えるような工夫をしていたり、歳の召した方への対応の際は、なるべく近くで対応をしたりと、その気遣いの仕方がわざとらしくなく、あまりにもスムーズであったため、初日では気付くことが出来なかった。特に、私は話す時に早口になってしまいがちで、披露宴から帰宅するお客様にお花を渡すという仕事を任された際に一言付け添えて渡さなければならなかったが、相手の方に早くて聞き取れなかったからもう一度言ってもらってもいい？と聞き返され、とても焦ってしまった。この時に相手の立場になって考えてみると、披露宴が終わってお客様がお話しながら帰宅している中、周りも騒がしくなっているのに早口で伝えられたら確かに聞き取りにくいであろうと理解した。今まで、相手の立場に立って考えるということは、自分がして貰ったら嬉しいことや、されたら嫌なことばかり考えていたが、されたら困ることは意外と考えていなかったため、もっと考え方を深めなければならないと感じた。これにより、実習最終日には初日と比べるとテーブル対応だけでなく別のお客様への対応にも少し慣れ、周りを見て動くことが出来た。

最後に、インターンシップに参加したことで、働く上での自覚や責任感だけでなく、今まで無かった考え方や視野を広げることが出来た。特に、相手の立場になって行動するというのが、意識下ではなく無意識に出来ているのを見て、私もまずは日常的に相手の立場になるということを意識して行動したい。

【株式会社西武・プリンスホテルズワールドワイド ザ・プリンス京都宝ヶ池】

企業「インターンシップを通して」

現代社会学部 社会システム学科 3年次

私はザ・プリンス京都宝ヶ池のインターンシップに5日間参加しました。かねてより観光客をおもてなしたいという夢を持っているため、その夢が叶えられると思われる職業として興味のあったホテルのインターンシップに参加でき、嬉しかったです。

私はこの実習に向けて目標を2点立てました。1点目は社会人としての自覚を持ち積極的に行動することです。社員様方とのコミュニケーションを大切にし、円滑に業務を遂行したいと考えました。2点目はメモを取ることです。それぞれの業務から感じたことや失敗した点、社員様方のお姿を拝見して気付いた点についてメモを取り、よりよいおもてなしと自己理解に繋げることを目標としました。これらの目標の達成度は高くなく、悔しさが残りましたが、働くことの難しさを知り、一層気が引き締まりました。

5日間の実習を通して学んだことは2点あります。1点目はホスピタリティについてです。実習前、ホスピタリティは人と人との触れ合いの中で生まれるものだと思っていました。しかし、実習中に実施していただいたホテルツアーで、ザ・プリンス京都宝ヶ池では建物の設計や家具のデザインなど、お客様にリラックスしていただくための工夫が随所に散りばめられていることを知りました。その工夫を伺い、ホスピタリティをより深く感じることができ、嬉しく思いました。そして、人だけでなく空間や物もホスピタリティの大きな要素になっていることに気付きました。このことから、物や空間に込められたホスピタリティをしっかりと理解し、それを丁寧にお客様に伝えることでより質の高いおもてなしができると学びました。2点目はお客様からは見えない業務に対する考え方についてです。実習前は、ただ事務作業や裏方の仕事という認識でした。しかし、レストランでの実習の際に、お客様から見えない仕事もお客様を気持ちよく迎えるための大切な仕事であると教えていただきました。この考え方は私にはなく、お話を伺って衝撃を受けました。考え方が変わったことで裏方の仕事に対する向き合い方が変わりました。実際にアルバイトで事務作業をする際にもお客様の顔を思い浮かべられるようになり、接客時と同程度の熱量を持って取り組めるようになりました。

実習を通して、ホテルではお客様の様子に注意よく観察して、求められるであろうサービスをこちらから提供することが必要だと感じました。そして、自分もそうできるよう意識するうちに、自分から行動できた際には達成感があることに気付きました。このような経験から、ホテルでの仕事をより魅力的に感じるようになりました。

最後になりますが、お忙しい中、私を受け入れて指導してくださったザ・プリンス京都宝ヶ池の皆様、このような機会を提供してくださったキャリア支援部の皆様に心から感謝申し上げます。この経験を通して得たことを就職活動や将来に活かしていきます。誠にありがとうございました。

【株式会社スタジオアリス】

企業「インターンシップを通して変化したこと」

現代社会学部 社会システム学科 3年次

私が今回参加したインターンシップ先は、株式会社スタジオアリスです。

実習では、スタジオアリスの従業員の方たちがどのような心構えでお客様に接しているのか、洋装と和装の着せ方、メイク・ヘアセットの仕方、撮影アシスタントが一体何をしているのか、使用しているものの説明など、スタジオアリスがどのように仕事をしているのかを教えていただきました。私達インターンシップ実習生は、主に子ども達の着替えや、撮影の見学、片付けなどをしました。

私が実習を通して特に印象に残っているのは、衣装の着せ方を教わったことです。特に和装の着せ方が印象に残っています。和装は、七五三のとき男の子に着せる羽織の着せ方、3ヶ月の赤ちゃんがお食い初めの時に着る和装の着せ方を学びました。和装の着せ方を学ぶ機会がこれまでに一度もなく、子ども用に比較的簡単に着せられるような構造の衣装になっているにも関わらず、難しいと感じました。特に羽織が難しく、綺麗に見えるように着せるとなると、マネキンを相手に練習しても、時間をかなりかけてしまいました。実際にお子様相手に羽織を着せる体験もさせていただきましたが、ゆっくり着せることも出来ず、私のできる限りの速さで綺麗に着せましたが、やはり少し着物がズレてしまいました。限られた少ない時間で綺麗に着せられるスタジオアリスの従業員の方たちはやはりすごいと改めて感じました。

私が今回の実習を通して気づいたこと、得たことは、「働くこと」というのは「楽しむことが大事」である、ということです。

「働くこと」はこれから先の私たちの人生の時間のほとんどを占めています。その時間を「つまらない」「嫌だな」と思いながら働くことは、とてももったいないことだと思いました。私は、普段子どもと接する機会がなく、インターシップ中は常に緊張していました。まだ自分で立てない程小さなお子様相手の着替えになると、どれぐらい力をいれているのか分からず、あたふたすることも多かったです。とても大変でしたが、子ども達がおめかしをして写真を撮っている姿はとても可愛らしく、実習をしている間は笑って過ごしていました。笑顔で仕事をするができる、仕事を終えることができるということは、とても良いことだと身をもって分かりました。そして、笑って仕事が出来るということは、モチベーションを高く保つことができるということでもあります。お金を貰うことだけをモチベーションにせず、仕事の内容そのものに高いモチベーションをもつことが出来たのなら、それは人生のほとんどの時間を、楽しく過ごせるということになるのではないのでしょうか。

このような新しい考えを、今回のインターンシップで持つことが出来ました。このように、自分の持っていなかった考えを知る、持つことが出来るようになることがインターンシップに行く意義の一つなのかもしれないと分かりました。

【株式会社エスワイシステム】

企業「インターンシップ実習を終えて」

現代社会学部 社会システム学科 3年次

今回お世話になった株式会社エスワイシステムでは、5日間のインターンシップ実習に参加させていただきました。私は、実習に参加するにあたって目標にしていたことが3つあります。1つ目は、企業の方や他大学のインターンシップ実習生と話す時に、自信を持って話すことができるようになることです。自分の考えを伝える時に緊張してしまい、相手に上手く気持ちを伝えられないことがあります。そういった部分を変えるためにも、自信を持って話せるようになることを目標として設定しました。実習期間中は自宅で作業を行う日があり、リモートでチームメンバーと話し合う機会がたくさんありましたが、プログラミングの知識が浅かったためアイデアを提案することができず、発言が控えめになってしまいました。一方、企業の方との交流会や課題作成中に分からないことがあった時には、自分が聞きたいことを明確にしてたくさん質問することができました。その時に新しい知識や技術を得ることに楽しさを覚え、話すことに対して少し自信を持つことができたので、その点は目標を達成できたと思います。2つ目は、実習に参加することで、働くというイメージを自分の中で明確にすることです。今回の実習では出社する日とテレワークの日がありました。現在はテレワークという働き方も主流になってきている時代なので、経験できてとても良かったと思っています。また、リモートで会議や打ち合わせを行うとなると、普段よりもより時間を意識しなければならないということに気づくことができました。このような気付きも含め、実際に働くことを具体化することができました。3つ目は、IT業界を目指す今、今後自分がどれだけの技術や知識を身につけるべきか、自分に適した仕事かどうかを知ることです。私自身、元々IT業界での仕事は個人で行う作業が多いと思っていたのですが、実際には仲間やお客様とのコミュニケーションがとても大切であることを、今回の実習で学びました。IT業界で今後活躍するためには、コミュニケーション能力を更に鍛えることが必要だと考えます。また知識や技術面では、実習期間中にまだまだ不足している部分があると実感したので、基本情報技術者試験などの資格取得やプログラミング技術の勉強に励みたいと思います。

5日間という短い期間ではありましたが、このインターンシップ実習に参加してたくさんの学びを得ることができ、私にとって大きな経験となりました。そして、自分の弱点をよく知ることや、積極的に行動し自分をアピールする力が必要であると分かり、今後の新たな課題となりました。これからの就職活動をより良いものにするために、もう一度自分を見つめ直して、今回のインターンシップ実習で学んだことを活かしながら、更に自分自身を成長させていきたいと考えます。

【香芝市役所】

官公庁「働くということ」

現代社会学部 社会システム学科 3年次

将来自分はどのように生きたいか、どのような人間になりたいか。将来を考える上で、就職は大きな影響を及ぼす選択だと感じる。その分、就職先を考えることに慎重さが増し、自分に出来ることだけで視野を狭めていたように思う。今回の実習を通して、自分にできること以外に、こんな風に働きたい、そのために準備すべきことは何か、など視野を広げて見つめ直すことが出来たように思う。

実習では、人事課、児童福祉課、文化財課といった、3つの課にて業務を行わせてもらった。市役所と一言で表しても、その業務内容は様々で、求められる知識も全く異なることを知った。今回実習した課は、市役所の中のほんの一部にすぎないものの、それぞれの特色や業務内容を知り市役所の役割の幅広さを理解した。また、各課で共通することを感じた。周囲と一緒に働く人を大切に思う気持ちだ。実習をする中で、職員の方が話す様子を見聞きしていると、一人が質問すると周囲の方が何名か集まり、一緒に考える様子を何度か拝見した。職場の和やかな雰囲気はもちろん伝わったが、それと共に、常に他人事ではなくチームとして協力していることが、とてもいいと感じた。周りの誰かのために、あるいは市民の方のために、思いやりを持ち相手の立場で考え動くことは、働く上で一番大切なのではと思う。働くことは、今後の生活の大部分を占め、生きがいともなりうる。そのような他者を大切にする職場環境であれば、長く働きたいと思え、作業効率を上げることにもつながると思う。また、感謝の言葉も多く聞こえた。何か小さなことであっても、してもらったことに対して感謝を言葉で表すことは重要である。見方ひとつで何事もありがたいと思える。その考えを大切に持っておこうと思う。

職場の環境の次に感じたことが、自身の働き方である。業務を通して健康診断の受付を行い、作業自体は難しいものではなかったが、いくつか状況に合わせて対応を変える必要があった。そして分からないことが起こると、次の人が並んで待っており、手早くしなくてはと焦ってしまい、職員の方に上手く報告することが出来なかった。その時に、状況を論理的に分かりやすく説明する能力が自分には不足しているのだと感じた。仕事をする上で、問題はあって当たり前なのだと思う。そのような時こそ落ち着いて、解決策を素早く見つける能力を養いたい。また、職員の方とお話する中で、エクセルの知識を持っていると、確実に業務が効率化することを知った。トラブルの時以外においても、業務の場面で目の前のことにとらわれるのではなく、何のためにするのか、順序立てて行動することで効率的に動くことが出来ると思った。

今回の実習で、自分の将来像や働き方といった価値観、業務に必用なスキルや能力を見つけることが出来た。今後、エクセルなどの知識を身に付けると共に何のためにするのかを意識的に考え、順序立てて物事を進めていきたいと思う。

〔トヨタユニテッド奈良株式会社〕

企業「インターンシップを終えて」現代社会学部 社会システム学科 3年次

私はトヨタユニテッド奈良株式会社に8日間の実習に行きました。そこでは、3日間の実習と4日間の店舗実習、最後の1日は振り返りを行いました。初めは自動車業界について何も知らないまま実習に行ったのですが、トヨタの歴史や自動車業界について教えていただき、車って面白いな、と興味を持ちました。私は愛知県出身なので、トヨタの車をなんとなく身近に感じていたのですが、その気持ちがさらに強くなりました。また、営業のお仕事、お客様心理についても学び、今まで自分が客側として受けてきたサービスを提供する側として、新たな視点で見つめなおすことが出来ました。説得力のある話し方も重要ですが、それ以上に初めの第一印象が何よりも大切なのだと学びました。なぜなら、来店されたお客様は不安な気持ち、スタッフに対して警戒心を持っているので、そんな気持ちを和らげるために大きな声でのあいさつや、明るい接客はとても大切だからです。そういった第一印象を意識すること、丁寧な言葉遣いは、ただやるだけではなくその根底にあるのは相手に対する気遣いから生まれるものと学びました。だからこそ気遣いは気が付くだけではなく、行動に移さなければ意味はないのだと実習を通して反省しました。また、自分は話すことが得意だと思っていたのですが、相手に興味を持ち、話を聞くことが苦手なのだと気が付きました。ただ一方的に自分の話をするだけではなく、相手の話を引き出すために自分の話を初めにするのだと教わりました。積極的傾聴法というものを教わったので、そのなかでも「共通の話題を探す」という項目を意識して日ごろから様々な人と会話をして、つながりを増やしていきたいと思いました。

店舗実習では、研修で学んだことを活かせるよう意識しました。その中でも、大きな声であいさつをするということは意識出来ました。しかし、言われた通りに動くことに精一杯で、気になったことを質問する、職場を見て学ぶ、といった周囲をよく見ることが出来ませんでした。もっと積極的に自分から動ければよかったと反省しています。商談に何度か同席させていただいたのですが、営業スタッフの方一人一人異なった接客をされていたのが印象的でした。私は接客に対して苦手意識があったのですが、その姿を見て、自分も強みを生かした自分なりの方法で、お客様に合わせた対応が出来るかもしれないとポジティブな気持ちを持つことが出来ました。柔らかな雰囲気を持っている、と言っていたので、これからも自分の中にある相手に対する気遣いや思いやりの気持ちを大切にしようと思いました。実習を通して学んだ「人に対して興味を持ち、関わること」を今後意識し、配慮や気遣いのできる人物になれるよう日頃から生活していきたいです。

〔Konomi Kindergarten International〕

学校「自分を知ること、相手を知ること」現代社会学部 社会システム学科 3年次

私は今回のインターンシップを通して、自己達成目標にも挙げていた「多文化共生に対する意識」を今まで以上に深めることができたと感じている。

オーストラリアが多民族国家だということは事前に知っていたものの、Konomi Kindergarten Internationalにはアジア、ヨーロッパ、欧米、と様々な国籍の子どもたちがいて、実際にその様子を見てみると、正直最初は凄く不思議な感じがした。日本の幼稚園でこのような様子を目にすることはなかったからだ。しかし、日を重ねていくにつれ、同じ幼稚園やクラスに国籍の違う子どもたちがいることは、意味のあることなのだと実感した。例えばアフタヌーンティーの時間に、オーストラリアの子どもたちはベジマイトを選ぶ子が多いのに対し、日本やアジア系の子はジャム&マーガリンを選ぶ子が多かったこと。昼食の時間の何気ない会話の中で、髪の毛の色や肌の色の話になった時も、子どもたちはその違いを特に気にすることもなく、お互いを「いいね!」「そっちもいいね!」と認め合っていたこと。幼い頃からこのように一人一人の個性や違いを知り、尊重し合うことは、彼らが成長していく中で広い視野や価値観を持つきっかけになるのだろうと、率直に私は羨ましくなった。

また、園長先生からのコメントや、先生との会話の中で、子どもたちとの信頼関係が大事だと知った。それは実習を通して、私が実感したことの一つでもある。実習初日、私の言うことや注意はあまり子どもたちに伝わっていないようだった。しかし、毎日子どもたちと全力で遊び、時間を共にしていくと、子どもたちが私のことを受け入れてくれているのを感じるようになった。初日は話しかけてもあまり反応がなかった子どもが、実習後半、帰る間際に「stay here!」と手を繋いでくれた時、私は胸がいっぱいになった。また、私は幼児教育についての知識や経験がなく、幼稚園を訪れる前は「上手くやれるのだろうか」と正直不安な気持ちがあった。しかし、毎日子どもたちと過ごしていると、「上手く」やる必要はなく、不器用でも自分らしい接し方や過ごし方が、一番子どもたちと自然な姿で関わる方法なのだと分かった。私は私のやり方で、子どもたちと楽しく時間を過ごせたと振り返って思う。

そして子どもたちとの関わりの中で感じたのは、この職業にはマニュアルや手本がないということだ。もちろん接し方や教育方法に教科書はあるにしても、子どもたちは毎日すごいスピードで成長していく。幼稚園教諭という仕事は、その場その場で、子どもたち一人一人に合った関わり方を、日々模索していかなければならないのだと思った。今回実習を通して、私は「働くこと」とは、金銭を得ることや地位・名誉を得ること以上に、自分の成長のために必要な事なのだと気付いた。子どもたちと一緒に成長し、日々学びと気付き、出会いを経験することができるこの職業を、私はとても魅力的に思う。

〔株式会社ノバレーゼ〕

企業インターンシップ実習レポート現代社会学部 社会システム学科 3年次

私はインターンシップ実習を通して①プライダルサービスとは②働くとは③自己課題の3つについて学び、気付くことが出来ました。

まず①プライダルサービスとはです。私はインターンシップに参加するまで、働くうえで最も重要なのは効率の良さではないかと考えていたのですが、一生に一度のお祝いの中では、効率や時間を重視しすぎずにお客様の気持ちになってゆったりとしたサービスを提供することも大切であることを学びました。実際に、進行とお料理の状況を見て一番お客様が結婚式に集中できるように、しかし、それ以外の部分では効率も重視しながらとマニュアル通りに行動するのではなく、お客様に合わせてタイミングを変えて行動することが大切であると気付くことが出来ました。これより、社員の方々の指示には一つ一つに意味がある為、その意味を考えながら行動することで自分もより積極的に行動するだけでなく、実際に指示をするという立場になった時に自然と意識出来るようになるのではないかと考えました。

次に②働くとはどういうことなのかについてです。仕事というのは一人で行うのではなく分担してチームで行うことが大切であると学びました。特にリーダーのポジションについた時、全て自分で完璧にこなすには厳しくらいのマルチタスクになってしまい、ミスが生まれる可能性が高くなってしまいます。ですから、自分一人で仕事を背負いすぎずに頼れる部分は周りに割り振って頼り、自分は自分にしか出来ない仕事をするのが大切であると学びました。その割り振りの中では優先順位をつけて細かい部分まで指示しておくことで、自分が確認するだけでミスを防ぐことにも繋がるのではないかと考えました。それに加えて、周りを頼ることでリーダーとそれ以外の人との間にコミュニケーションと信頼関係が生まれ、よりよいチームへと繋がっていくのではないかと考えました。

最後に③自己課題についてです。実習を通して、私は自分の強みと弱みに気付くことが出来ました。まず、私の強みはコミュニケーション能力と主体性です。働く中で分からないことや気になることが多く出てきましたが、その度に色々な人とコミュニケーションを取り課題を解決することで、様々な視点から物事を見て新たな気付きを得ることが出来ました。また、学びが増えることで今の状況をより早く把握できるため、主体的に動けるという部分に繋がったのではないかと考えました。一方で、弱みとしては状況把握の遅さや思考の短さが挙げられます。イレギュラーが起きた時に状況把握が遅いことで、自分で考えて今すべきことを見つけないということが出来ずに右往左往してしまう、考える前に何をすればいいか聞いてしまうことが多いことに気付きました。今回の経験から弱みを強みで補うだけでなく弱み自体を克服する方法を探し、社会に出た後に活かせるようにしていきたいと思います。

〔株式会社パナソニックグループ〕

企業インターンシップでの学び現代社会学部 社会システム学科 3年次

私はこのインターンシップを通して、自身の視野を広げ、自主性を養うことを目標としていました。これまでの学生生活やアルバイトにおいては、出された課題や業務に対しては最後までやり切り、良い評価をしてもらえることが多かったのですが、自分から意見を発信したり提案したりすることに苦手意識を感じていたため、誰かの指示を待つのではなく、自分から行動することを心がけていました。

この目標に対して、人材業界についての知識を増やすことができたと同時に、職場の雰囲気を感じられたことにより、実際に働くイメージを掴むことができたという点から、自身の視野を広げるという目標については達成できたと感じています。自主性に関しても、分からないことや疑問に思ったことは積極的に質問することができました。

反省点としては、2日目から4日目に同じ営業所になった学生とはたくさんコミュニケーションを取ることができたのですが、初日と最終日のみしか会うことのできなかった他大学の学生とはあまり話すことができなかったのも、積極的に声をかけて関わりを持つべきだったと思いました。

そして、この5日間で温かい人に囲まれた職場で働くことに大きな魅力を感じました。2日目から4日目は大阪の営業所で営業同行させて頂いたのですが、担当して下さった方全員に「パナソニックグループに入って1番良かったと感じることはどんなところですか?」という質問をしました。すると、全員が口をそろえて「本当に人が良いところ」と仰っていました。たとえ仕事でミスがあったとしても、先輩が手厚くフォローして下さったり、悩みを打ち明けられる同期や後輩がたくさんいたり、全員が人の心を思いやる気持ちを持っていて、誰もが働きやすい職場であると実感しました。

仕事をしていく中でのやりがいについてもお話を伺うと、相手に心を開いてもらえて、笑顔になってもらえた時には大きな達成感を得られると仰っていて、人の笑顔を引き出すことができる職に就きたいと強く思いました。

実習の最終日に、担当者の方から「物事に一生懸命取り組んでいれば、必ず誰かが見てくれるよ」という言葉を頂き、とても心に残りました。成果が目に見えるまでには時間を要するかもしれないですが、諦めそうになった時も、やると決めたことはしっかりと最後までやり切りたいです。

私は今回人材サービス業界のインターンシップに初めて参加して、「相手の気持ちを考える」ことの重要さを改めて学ぶことができました。DX化が進む昨今、事務作業や入力作業はほとんどがロボットやAIに任されてしまうかもしれませんが、相手の気持ちを汲み取ったり、相手に最適な提案を行ったりすることはやはり人にしかできません。人と人との関わりを大切にしながら、今回のインターンシップで学んだことを今後の学生生活や就職活動に活かしていきたいです。

【オリックス・ホテルマネジメント株式会社　ホテルユニバーサルポート】

企業

「インターンシップ実習を終えて」

現代社会学部　社会システム学科　3年次

私は8日間のホテルユニバーサルポート様のインターンシップを通して大きく2つのことを学びました。1つ目はホテル業界についてです。この実習を始める前、ホテルでの仕事についてお客様と関わる人が多い仕事なのだと考えていました。実習を進めていく中で、この考えは間違っていなかったと同時に想像以上に体力仕事だと驚きました。お客様の重い荷物を預かるときや荷物を裏へ運ぶ作業はとても大変で、その中でも笑顔で業務をしている従業員の方々にはとても驚きました。早朝勤務が多く、朝の7時半から笑顔でお客様の対応をしたり、歩き回ったりすることは並大抵のことではないと考えました。しんどいはずなのに、いつも笑顔で明るくお客様に接する姿や私に教えてくださる姿はとても勉強になりました。また海外のお客様と関わる機会も多く、英語での対応が求められますが、私は最初緊張して対応することができませんでした。しかし、伝えたいという気持ちと従業員の方の真似をすることで最後は一人で対応することができ嬉しかったと同時に積極的に動く勇気が必要なのだと学びました。ホテル業界ではお客様と関わる以外にも、お客様が快適にお部屋で過ごされるために行っている業務が沢山あるのだと学びました。2つ目は社会人としての責任です。働くうえで必要なことはお客様に信頼、信用してもらうことが大切だと学びました。実習の中で特に印象的だったことが報告、連絡、相談の多さです。誰が何をしたのかインカムや用紙で伝え、落とし物や忘れ物もいつ、どこで、何を、誰が、など誰が見ても分かるように詳細を伝えていました。何かわからないことがあると自分で勝手に考えて動くのではなく相談していることが印象的でした。この報告、連絡、相談を怠ってしまうと業務がうまく進まなかったり、クレームに繋がったりするのだと考えました。また、「これぐらい大丈夫」、「たかがこれだけ」という思いや小さなミスが大きな問題に発展してしまうことも学びました。例えばお部屋移動の際に見つけた飲みかけのペットボトルや食べ物は捨ててもいいと思ってしまうがちですが、もしお客様が後で飲もう、食べようとしていた場合、捨ててしまうと取り返しのつかないことが起こってしまいます。万が一のことを考えて行動することが大切なのだと考えました。

この8日間では大学生活をしているだけでは味わえない貴重な経験をさせて頂き、ホテル業界について、ホテルユニバーサルポート様の接客の仕方についてと働く上での責任を深く学ぶことができました。今後の学生生活でも忘れず、これから活かしていきます。

【木津川市役所】

官公庁

インターンシップでの学び

現代社会学部　社会システム学科　3年次

私は今回、約2週間にわたり木津川市役所危機管理課にてインターンシップに参加してきました。参加前は、市役所の仕事の雰囲気を知りたい、という漠然とした気持ちでした。参加後は、それ以上の経験や知識を得られたと実感しています。

まず、危機管理課ということで主な業務内容は防災に関することでした。防災に関する知識はほとんどなく、対策していかなくはいけないと分かっているものの、行動に移すきっかけがありませんでした。そのような私が、今回のインターンシップ期間で防災を促す立場になりました。自助、共助、公助について学ぶところから始まり、新しく増えていく知識に戸惑いながらも、どのようにしたら災害時に木津川市民の命を守るのかについて毎日考えました。その中で、市役所の難しい部分がわかりました。それは、いくらこれは市民のためになると思いついたことも、自由にお金を使えるわけではないことです。民間企業でももちろんそうですが、市民の税金によって賄っている分、そのハードルが高いです。公助には限界があり、最低限の助けであると認識することが、かえって市民自身の命を守ることにもつながります。なんでもやってもらえる、助けてもらって当たり前だと考えられがちであるのも現状です。しかしそれでは、いざ災害が起きたときに、自助が十分にできません。公助よりも自助、共助であると市民に認識してもらう難しさを感じました。

このインターンシップの最終目標は、提言をまとめることでした。私は主に、ハザードマップの改善案について担当しました。自助を促すためのハザードマップにしたいという思いから、さまざまな意見をまとめました。パワーポイントでスライドを作成して発表することは、授業でもあまりしたことがなく緊張しましたが、職員の方々によかったと言ってくただけて、達成感を得られました。このような発表ができるまでになれたのは、お忙しい中丁寧な研修を行っていたのおかげです。

特に印象に残った研修は、防災ジュニアリーダー講座です。開催に向けて準備を手伝い、当日も補助を行いました。イベントを行う側に立ったことが初めてで、裏側では様々な準備があり、工夫があることを知ることができました。本講座は中学生に向けたものでしたが、私も一緒になって学ぶことができました。

最後に、私は木津川市役所の危機管理課でのインターンシップ体験ができて、本当に良かったと思っています。何となく公務員は楽だと考えがちな世間であると思いますが、そんなことはありませんでした。市民の命を守るため、いつ来るかわからない災害に備えて日々働いておられました。その姿にあこがれる気持ちも芽生えました。今後進路を決めていく中で、市役所職員は自分の中での有力な選択肢です。どのような職に就いたにしても、今回見た職員の方たちのように責任感をもって働いていきたいという、働き方の理想ができました。

【SMBC日興証券株式会社】

企業

インターンシップを終えて

現代社会学部　社会システム学科　3年次

私は10日間のインターンシップで掲げていた目標は主体性を持って行動すること、金融業界の理解をすること、毎日振り返りを行い自己分析を深めることの3つです。

まず1つ目の主体性をもって行動することに対しては、グループワークの中で目標を達成することができました。この目標を掲げた理由は自分自身、主体性が足りないなと感じていたからです。学校のグループワークや日常生活において受け身になる形が多く、この実習を機に変えていこうと決心しました。最初の2、3日は緊張していて行動することができていませんでしたが、時間が経つに連れて緊張もなくなり主体的に行動できるようになっていました。主体的に行動するとは具体的に言うなら自ら進んで手をあげたり、グループワークの中で一番に発言したり、できそうできていなかった小さなことから始めました。この行動に移すことができたのは、事前に目標を立てることができていて、毎日意識していたからです。

2つ目の金融業界理解を目標に設定した理由は、インターンシップに参加するまで全く知識がなかったからです。私は就職活動をしていくうえでまだ業界を絞り込めておらず、幅広くいろんな業界を見て深く金融業界について知ることができていませんでした。この実習先に決めた理由は、毎日金融基本講座があり、金融について深く知ることができると思っからです。実際に働かれている社員の方が講義を行ってくださるので、単に知識を得るだけではなく、実体験を踏まえながら教えていただけるので、具体的に知ることができました。金融業界は専門的な知識が必要になってくるため、やはり理解するのが難しい部分もありましたが、社員の方に質問をすると快く答えてくださるので、とても学びやすい環境でした。また、証券会社に求められる人材も同時に理解することができました。私が一番大切だと思ったのは信頼関係を築いていくことです。証券会社は形のないものを販売し、お客様の大切な資産をお預かりして資産形成を提案するという点で信頼関係が重要です。日々変化し続ける市場について勉強をし、働く身としても成長し続ける意欲を持っていることが信頼関係につながり、それが求められているものだと感じました。

3つ目に挙げた毎日振り返りを行うことは、簡単にできそうできていないと感じていたために設定しました。この目標は毎日行うことができました。振り返りを行い、整理をすることで自分自身の反省点や、良かった点に気づくことができました。毎日絶対に自分の長所や短所が現れると考えているので、続けることによって自分がどんな人間なのか分かるようになると思います。

インターンシップを終え、これから就職活動が本格的に始まりますが、10日間で得られたことにさらに磨きをかけて頑張っていきたいです。

【株式会社グルメ杵屋】

企業

インターンシップで学んだこと

現代社会学部　社会システム学科　3年次

私はこの5日間のインターンシップを経て社会人としての責任感、主体性、協調性を磨くことができました。

一分一秒単位で時間をきちんと守ること、挨拶をきちんと行うこと、10分前集合を心がけることなど、どれも今まで言われてきたことではありますが、実際に自分自身がインターンシップに参加したことで、身をもってその大切さに気づくことができました。それと同時に、いかに自分自身が今まで時間にルーズであったのかを痛感する機会となりました。社会人になるにあたって大事な基礎の部分をこのインターンシップで再確認することができたと感じています。

さらに、主体性に関しては、失敗を躊躇わずに挑戦していくことがどれほど大切なのかということを学ぶことができました。失敗を恐れるよりも挑戦して自己成長する機会をつかみとり、自分自身に与えてあげることがどれだけ素晴らしいことであるのかを知ることができました。実際にインターンシップで担当してくださった方が「チャンスは自分で掴みにいくのだ」という言葉を教えてくださいました。それは、皆に課題として準備してくるように言われていたプレゼンテーションの時間に先着4人のみ発表ができると伝えられた場面でした。学生の間であれば努力する土台というのが皆に平等に提供されてそこからの試合となります。しかし、社会人となればその土台は皆に平等に確保されるわけでも受動的に与えられるでもなく、自らが行動してその土台を確保しなければなりません。その社会の現実をインターンシップで担当してくださった方は教えてくださったような気がします。実際に私自身はその4人の枠を勝ち取ることができ、インターンシップ内で習得したプレゼンテーションスキルを取り入れながら完遂することができました。このことは自分の中で大きな自信となっています。

最後に協調性に関してはグループワーク内で培われました。インターンシップでは新しい店舗創造プロジェクトを行ったのですが、その際に何度か行き詰まることができました。しかし、その状況を打破してくれたチームメイトがいました。彼はこの状況を変えようとして行き詰まった点は一旦置いておき、新しい視点から考え直さないかと考案してくれました。おかげでグループワークは再び進みだし、皆で切磋琢磨してプロジェクトに取り組んだ結果、実現可能な店舗に選ばれました。このことからグループワークを進めるにあたって人の意見を尊重することの大切さやリーダーシップ力、それに加えて提案力というものが求められるのだと気づきました。チームに協力する姿勢を忘れずに、かつワークが円滑に進めるようサポートする人ことがグループワークを行うにあたって重宝される人なのだと感じました。このことは就職活動におけるグループディスカッションに求められることと近いものであると感じているので、今回学習したことをこれからの就職活動に活かしていきたいと思います。

5日間という短い間でしたがこのインターンシップで非常に自己成長できたのではないかと感じています。このインターンシップで得た経験は非常に有意義なものでした。この気づきをこれからの就職活動や様々な生活の場面で活かしていきたいと考えています。

【株式会社パソナグループ】

企業「インターンシップを通して学んだこと」現代社会学部 社会システム学科 3年次

私がインターンシップに参加して大切だと考えたことは2点あります。

まず1点目は自分事として捉えることです。インターンシップに参加すると、指導を受けることや同じインターンシップ実習生と交流する場が用意されていますが、その際に一歩引くのではなく、自らの力で情報を掴み取る姿勢が大切であることに気がきました。インターンシップ参加前は自分の中で線引きをしまい、私には関係ないからと言って枠の中だけで考えようとする癖がありました。インターンシップを通して、枠を超えて自分と向き合い経験値を高めることが重要であることを学びました。インターンシップの業務内容として営業部での営業同行を主にしており、先輩社員の方と一日を過ごしていました。営業同行につかせていただいた担当者の方が親身になって話を聞いてくださり疑問点に答えていただきましたが、求職者の方と面談をした際に急な質疑応答に対応することができませんでした。その経験から、常に疑問を持ちながら自分事として傾聴する姿勢が大切であることを実感しました。また、欲しい情報は自分から行動を起こし、発信できないと手に入れないことも再認識しました。

2点目として、得たいものを明確化することが大切であると学びました。インターンシップの中で教えていただいた内容ですが、人は意識して取り組んだ目標にしか集中できない。唯一、ひとつしか選べない目標を明確化して、それだけは手に入れると強い意志を持って行動することで、自己成長に繋がれると教えていただきました。私は「自信を持って行動すること」を一つの目標に掲げ、インターンシップに参加しました。この目標を設定した理由として、私自身消極的に考えてしまうことが多く、自信を持って自分の意見を発信することに苦手意識があったからです。それを克服すべく、最終日インターンシップ実習生同士で最終プレゼンテーションが行われましたが、失敗を恐れず、学んだことを共有しあい、一人ひとりの学びを全員で分かち合うことで、何倍もの成長が感じられました。目的意識を持ち、何故を積み重ねながら物事を考えることで、充実した有意義な時間を過ごすことができたことを確信しています。

インターンシップは、限られた時間の中でいかに躊躇なくスタートダッシュを切れるかが重要です。後悔がないよう事前準備を念入りに、疑問を抱きながら質を深めていければと思っています。今後の学生生活において受け身ではなく、自分発信でうまくアウトプットしていけるように、インターンシップでの学びを活かして成長していきたいと強く感じました。

【医療法人社団石鎚会】

企業「インターンシップを通して」現代社会学部 社会システム学科 3年次

私は今回の10日間のインターンシップで、事務職を中心に病院内の様々な部署の見学や体験をさせていただきました。日々の病院スタッフを支える仕事、患者さんや家族を支える仕事、法人全体の経営を支える仕事など、幅広い業種の仕事を知ることができました。それぞれの部署によって行う業務内容は異なり、事務職となると、あまり目立たないものもあると思います。しかし、実際に働いている方々は、必要とされている自分の仕事の役割を理解し、それを果たすべく真剣に取り組み、縁の下の力持ちとして活躍されていました。

特に印象に残っているのは、「何のためにこの仕事があるのか」ということを考えて、業務を行うことが大切である」ということです。書類の整理や電子カルテへの記載、物品の管理などの事務作業においては、誰が見ても分かりやすいような工夫が行われ、データや書類一つ一つの記載内容に間違いがないかどうかの徹底した確認が求められました。中には、国に提出する重要な資料や病院の経営に関わるものも存在するため、より正確さや専門知識が必要となる場面が多いということが分かりました。それらの業務を行っていく際、ただ淡々と作業をこなすのではなく、「この仕事は何のためにあるのか？」と仕事の中の意味とポジションを考えて行っているということを知りました。一つ一つの意味を考えてから行動に移すことによって、ミスも減り、工夫をすることで効率的な仕事へと繋げることができると学びました。電話対応においても、伝言があるときは口頭で伝えるだけでなく、きちんとメモに残して直接渡し、勘違いや患者誤認を防ぐ工夫がされていました。

また、今回の実習で様々な部署に行かせていただけたため、実際に働く方々の話を幅広く聞くことができました。業務内容のことはもちろん、今まで働いてきた中で経験したことについてもお話してくださいました。特に相談員の方のお話が印象に残っています。病院には様々な事情を抱えた患者さんがたくさん来院されるため、私の想像を超えるような事情を持つ患者さん多いらしいということでした。実際にあったお話を聞いたときは非常に衝撃的でしたが、私が聞くことのできたのはほんの少しだけであり、もっと色々な事情を抱える患者さんがたくさんおられるということを知りました。これを通して、相談員の方の仕事の理解だけでなく、現代社会の抱える問題の理解と解決が求められると思いました。

私は今回の実習全体を通して、自分の中の働くことへのイメージを明確にすることができました。働くことは単にお金を稼ぐためではなく、誰かのためになることに自分のベストを尽くすことであると理解しました。この経験で得た学びや反省点をしっかりと自分のものとし、今後の就職活動や学生生活で活かしていけるよう精進します。

【SMBC日興証券株式会社】

企業「SMBC日興証券株式会社インターンシップを終えて」現代社会学部 社会システム学科 3年次

今回の10日間のインターンシップを通して毎日様々な刺激を受け、大きく成長できたと感じています。当初期待していた経済・金融の知識を得ることや就職活動をするにあたって、金融業界・証券会社への理解が深まっただけでなく、グループワークを通じて自分の強み・弱みを理解し、また働く上で何を大切にしていけるべきか、改めて考えさせられる機会となりました。達成目標として課題に挙げていた「言語化して人に伝えること」では、社員の方やインターンシップ実習生らの話し方を意識して聞き、日経新聞の発表などで実践的に行ったことで、以前と比べて上手な伝え方を身につけられたのではないかと感じています。また新しい課題として、先を見る力、思考力が自分に足りていないことに気がつきました。今回は機に、日経新聞を読む習慣をつけ、経済や社会の動向について日々知識を得て、考える習慣をつけようと思います。

今回の実習で一番大きな収穫だと感じたことは、「働くこと」に対しての解像度が上がったことです。現在、手探りの状態で就職活動を行っている中で、「働くこと、社会人になるということ、自分は何のために誰と何がしたいのか」などに対して、今回参加するまでは全く想像できず、考えられませんでした。実習の中で、社員体験談や業務紹介などで何人もの社員の方とお会いすることができ、実際の業務経験から働く上での大変さ・やりがいや、就職活動のお話や入社理由など、沢山のお話をお聞きする中で、「働くこと」への解像度が上がりました。特に「仕事は目的ではなく手段」というお話が印象的でした。働くことは長い人生の中で幸せになるための1つの手段・方法であり、働き方によって自分の幸福度も大きく変わってくるのだらうと感じました。ライフプランを長期的に考え、自分が本当にやりたいことや、仕事をする上での優先順位、どこに重きを置くべきなのか、ということのをこれからも考え続けていくことが必要であると理解しました。今後、就職活動を行う上でとても参考になりました。

最終発表では、「10年後に最も成長率の高い銘柄を選びプレゼンテーションをする」という内容を行いました。内容としても難しく、準備時間の限られた中での発表はとても大変でしたが、班のメンバーと協力し、それぞれの得意分野を活かした発表ができたと思います。私は社会学部での学びを活かし、10年後の社会はどうなっているのかについてを担当しました。結果は6位中3位と、なんとか入賞することができて良かったです。

今回はとても濃い、充実した10日間を過ごすことができたと感じています。このような機会に参加できて本当に良かったです。得られた学びをしっかりと自分のものとして吸収し、これからの就職活動や社会に出たときに活かして行動していきたいと思います。

【株式会社内田洋行】

企業「株式会社内田洋行のインターンシップに参加して」現代社会学部 社会システム学科 3年次

今回のインターンシップでは、5日間を通して商品提案のプレゼンテーションを作成するというものだった。初日から4日目にかけて、実習先で行われている事業内容やどのような製品を取り扱っているかを教えていただいた。そして、最終日には社員の方々と大学関係者を招いた成果発表会が行われた。

今回の実習において設定した自己達成目標は大きく2つだ。1つ目は「実現可能な範囲での提案を出す」、2つ目は「多くの人に納得してもらい説明ができるようになる」であった。これら2つを達成することで、社会人としての基礎的な考え方を培っていくと共に、就職活動において自分の中の理想と現実のギャップを埋めていくことができると考えていた。私はこれら2つの目標を達成できたと感じている。

達成に向けて実習期間中に行ったことを具体的に述べると、1つ目の目標では、活躍されている社員の方々に意見や考えを聞くことで、事業に対してどのような姿勢で取り組まれているのかを理解し、達成するに至った。2つ目の目標では、人に意見を聞くことと疑問を出して、自分なりの考えを出すことで達成できたように思う。目標以外で得られたこととして挙げられるのは、KJ法やブレインストーミングを用いたアイデアの出し方である。今までも大学の授業で扱ったことはあったが、テーマに沿ったアイデアだと判断できたものしか書きだすことができず、アイデアが少ないという状況になることが多かった。しかし、今回の実習を経て「とりあえず思いつくものをすべて書き出す」という作業を行うことで課題となる部分を素早く見つけることができた。

実習期間における反省点は、「考えすぎて行動が遅れてしまうこと」であった。特に座談会などの場では、周囲の状況を気にしすぎるがあまり質問が終盤までできないという事態になり、他にも担当者に中間報告を行う際にも同様に考えすぎて、報告の予定時刻を過ぎてしまうことがあった。思い返すと、普段の生活でもそのような行動をとることが多く、結果として、いつの間にか期限が近くなって焦るという状況になっていることに気が付いた。そのことから、「考えると同時に行動に移す」で動くことが、自分にとって丁度いいのだと知ることができた。今回の実習を終えて、社会人としての考え方を身につけると同時に「営業」という職種への理解も深まり、自分がどの業界でどういった仕事をしていきたいのかを明確にすることにつながった。また、実習期間でいただいたフィードバックは、どれも自分一人では発見できなかったものばかりであるので、良い点も反省点も先の就職活動に向けて活かしていきたい。

【金井ホールディングス株式会社】

企業 インターンシップを通して学んだこと

現代社会学部 社会システム学科 3年次

インターンシップに参加するまで自分は何をしたいのかがわからず、社会人として働くことのイメージを持てずにいました。そのため、今回参加するにあたって社員の方や実習生と積極的にコミュニケーションを取って働く実感を得るとともに、働くうえでの自分の立ち位置を明確にするという目的を心がけながら行動しました。その結果、このインターンシップを通して、大きく分けて2つの学びを得ました。

まず1つ目に、仕事はひとりでするものではなく協力しながらやり遂げるものであることを学びました。この気づきは「二割共有」が大切だと教えていただいたことから感じ取りました。私が所属していた班は、考えた企画を社員の方に相談せずに中間発表準備に取り掛かっていました。そのため、最初の発表後のフィードバックでは初歩的な部分への指摘をもらう形となっていました。その後、二割共有の大切さを教えていただき、二割できた段階で上司に報告することで、初期段階で修正を加えることができるため、効率的に作業を行えることを学びました。オンライン開催だったこともあり、社員の方に声をかけることを遠慮してしまうこともありましたが、随時報告や質問をして、早い段階で軌道修正することができることで、円滑な企画立案につながると学びました。

2つ目は、自分の意見を発信する重要性です。私は、場の雰囲気や流れが変わることを躊躇して、考えを持っていても黙っていることが多くありました。今回のインターンシップでも、沈黙の時間が長く、会議の進め方が良くないと感じていても、最初はそのまま会議を進めていました。しかし、このままでは参加している意味がないと思い、考えていることを素直に話し、改善策を提案しました。これがきっかけとなり、班内での意見交換が活発になり、自分自身も新しいアイデアを不完全でも発案していくことができました。自分のアイデアを中心に会議が進み、ブラッシュアップされていく過程を経験できたことは達成感と自信にもつながりました。また、私は自己分析が苦手で、自分の強みは何なのかを理解できずにいました。しかし、私の発言を通して、周りを俯瞰して見られていること、軌道修正を促す発言ができていることをフィードバック内で言っていただき、強みを考えるきっかけにもなりました。このように、積極的に発言していくことで周囲の人から反応を得られ、自分の存在価値を見つけ出すきっかけにもなりました。

5日間という短い期間でしたが、働くうえで考えるべきことや仕事への向き合い方など、体験しなければ学べない貴重な経験を行うことができました。この学びは、社員の方に協力していただいた上で、自らが積極的に学ぶ姿勢をもって行動できたからこそ得られたものだと考えます。今回得られた学びを活かして、今後の学生生活に活かしていこうと思います。

【株式会社JTB マレーシア支店】

企業 マレーシアでのインターンシップを経て

現代社会学部 社会システム学科 3年次

株式会社JTBマレーシア支店様のインターンシップに参加した理由は旅行が趣味であることはもちろん、自己成長を続けるため海外就職に憧れを持っており、海外に拠点を持つ日系企業だからこそたくさんの比較ができること、そして何よりマレーシアという多民族・多国籍国家の現地の方とともに働き、日本で生活するからこそ気づけないこと、自身に足りない能力を再確認する機会にしたいと思ったからです。

私は留学経験が一切なく、海外旅行経験も豊富ではなかったために怖さや不安も多くありましたが、今回の海外インターンシップに参加してよかったと心から思っています。なぜなら、コロナ禍が落ちつき、今後さらに需要が増えると予測される旅行業界で、マレーシアから日本に旅行されるお客様、反対に日本からマレーシアへ旅行されるお客様それぞれのニーズに合わせた業務を体験し、「ホスピタリティ」の重要性、「責任感」について今一度考える機会となり、加えて旅行業界に対する理解が格段に深いものとなったからです。また業務内容だけでなく、最終日にマラッカツアーに同行し、マレーシアと日本を含む外国との歴史や名残をこの目と肌で感じました。特に日本は単一民族なので日本語という共通の言語や普段生活しているとあまり大きな違いがみられない文化や価値観を持つ国家です。一方、マレーシアはマレー系、中華系、インド系などの多民族が生活しているので、一人一人が多言語を習得する必要があり、さらにイスラム教、仏教、キリスト教など宗教も異なるにもかかわらず、それぞれの文化（例えば、食事の仕方や食べ物、服装など）を強要せず受け入れ、尊重し、そして視野を広く持ち他者への思いやりであふれてます。このマレーシアの「多文化共生」の素晴らしさに何より感銘を受けました。現地生活をされている方と実際に会話をし、食卓を囲むことで普段いかに自分は小さな視点で過ごしているのかということを実感しました。また参加する前までは海外就職について漠然としていて、遠いイメージを持っていたのですが、今回の経験を踏まえしっかりと向き合っていきたいと思えるくらいに到達しました。

先ほども述べたように、株式会社JTBマレーシア支店様のインターンシップに参加して心から満足しています。日本を出て海外に挑戦するということは、大切な人から少しの間、離れなければいけません。そして母国語も通じません。しかしながら、様々なバックグラウンドを持つ人たちに出会うことが出来ます。そのような環境でインターンシップを行うということは、業務について理解を深められるだけではなく、自分を見つめ直す非常に貴重な機会になります。決して旅行では味わうことが出来ないものです。今回のプログラムで学んだことを就職活動だけでなく今後の人生の糧にしたいです。

【岡三証券株式会社】

企業 「インターンシップを通して学んだこと」

現代社会学部 社会システム学科 3年次

私がインターンシップを通して学んだこと、気づいたことは大きくわけて3つある。
1つ目は分からないことは恥ずかしいことでは無いということだ。私は就職活動の中で幅広く業界を考えていたので、今回のインターンシップ先である金融関係の専門的な知識はあまり無かった。そのため実習の前は不安な部分も多くあった。自分自身で事前学習はしたものの、やはり株や投資信託など普段自分が触れていないものを扱う仕事ということもあり、しっかり理解出来たとは言えなかった。しかし実際、実習を受けてみると私たちの身近なことに置き換えて研修をしてくださったり、普段の生活に金融は深く関わっていることを教えて貰ったりして、実習前に一人で考えていた得体の知れないものというイメージは完全になくなった。また、分からないと思った部分も質問すると丁寧にお答えいただき、質問をすることで相互理解につながり、自分の身につく学習になるというアドバイスもいただいた。そこで分からないことは悪いことではなく、反対にわからないことはその場で解決し定着させることで自分自身の成長に繋がるということを強く感じた。

2つ目は私が想像していたより女性が多く活躍している会社であったことだ。営業職と言うとなんとなく男性が多いのかと思っていたが、私の実習先の京都支店は支店長も女性の方で、管理職も女性の方の割合が多かった。社員の方のお話では京都支店は岡三証券株式会社の中でも女性の管理職が多い支店だが、他の支店でも女性が活躍しているところは多くあるとのことだった。女性活躍社会と言われる現代ではあるが、やはり私の周りでは男性の店長やマネージャーなどが多かった為、今回の実習で女性が活躍している場を実際に見て、勇気ももらった。社員の方との座談会で岡三証券株式会社は男女、年齢関係なく結果を出せばしっかり評価してくれる会社だというお話を聞き、実力を評価してくれるのはやりがいに繋がるなども感じた。

3つ目は社会人になると傾聴力が重要な要素になるということだ。これは私が実際実習を受けてみて様々な社員の方とお話させていただいたが、どの方も私の目を見て相槌をうちながら話を聞いてくださり、それだけで緊張が少しほぐれたことから感じた。就職する前の就職活動の面接、グループディスカッションでも、つついつい発言する方に力を入れてしまいがちになるが、実は話を聞く力も同じくらい大切なので、今後傾聴力を伸ばしていきたいと思った。また、営業という職種もおお客様の要望を聞いて提案するという仕事内容なこともあり、いかにお客様に寄り添うことができるかが重要で、もし営業以外の職種に就職したとしても絶対に人と関わることはあるので傾聴力を鍛えて、円滑にコミュニケーションを取ることができるようにになりたいと考えた。

【オリックス・ホテルマネジメント株式会社 ホテルユニバーサルポート】

企業 「ゲストへのサービスについて」

現代社会学部 社会システム学科 3年次

私は、インターンシップを通して、ホテルのゲストサービスという仕事を経験し、ゲストの求めるサービスを見つけ、笑顔で丁寧に対応することが、良いサービスになるのだと気づきました。また、ゲストサービスをする上で、周りの変化に気づくこと、相手の喜ぶことを考えることが大事であるということを経験しました。

ゲストの荷物を運ぶとともに部屋まで案内する「アテンド」をした際に、対応において、ゲストを笑顔にし、楽しんでもらえるよう対応をすることが大事だと感じました。実習指導者の方にアテンドの際に伝えなければいけないことや注意することを教えてもらい、実際に、私が初めてアテンドをしたときに、ゲストを楽しませるというよりはゲストに自分が覚えたホテルの案内を伝えることしかできませんでした。その時に、実習指導者の方が、ホテルの案内をしっかりすることも大事だけれど、ゲストとのフリーストークでゲストに楽しんでもらう方が大事だとアドバイスをもらいました。このアドバイスを活かし、2回目のアテンドでは、ゲストとエレベーターや部屋までの廊下で楽しくフリーストークをすることができました。また、子どもが2人いるファミリーの方だったので、ホテルのシールをあげると、子どもはとても喜んでくれました。全てのゲストに対して、アテンドをするわけではないけれど、アテンドについたゲストには、「このホテルに泊まってよかったな」「このホテルの人たち親切でよかったな」などと、明るい気持ちで過ごしてもらえるように、ゲストサービスがいるのだと思いました。

ゲストサービスは、ゲストをホテルにお出迎えする中で、ゲストの様子をみて、ゲストが求めるサービスを見つけ、自ら行動することが、ゲストの笑顔とやりがいに繋がっているのだと理解しました。私は、ホテルのロビーに置いてあるミニオンのオブジェの前で、女の子とお母さんを撮影するお父さんのある光景を見ました。思い出に3人で撮ってあげたいと思い、私は声をかけ、ミニオンのオブジェと3人の写真を撮りました。女の子が少し恥ずかしがっていたので、少し仲良くなろうと思い、シールをあげると、とても笑顔になってくれました。親子3人の素敵な写真を撮ることができて、とても喜んでもらえて、私もとても嬉しかったです。

ホテルの中には、様々なサービスがあり、ゲストサービスはホテルでの楽しい時間のためにサービスをする中で、ゲストもホテルのスタッフも笑顔になれているのだと考えました。ゲストへのサービスは、笑顔で丁寧に対応することが一番大事だと思いました。また、ゲストサービスを通して、直接、相手からの感謝や笑顔を見ることができ、ゲストサービスのやりがいを感じることができました。また、その中で、人との関わりの重要性や人と関わり合う仕事の大切さを学ぶことができました。これから人と関わる仕事をしたと考えているので、この実習を通して学んだことを活かして、笑顔に丁寧に対応していきたいと思いました。

〔丸三証券株式会社〕

企業

仕事に対する意識の変化

現代社会学部 社会システム学科 3年次

証券会社を選んだ理由は、もともと関心があったからではなく、関心がないからこそ視野を広げるためにも参加してみたいと考えたからです。とはいえ、金融や証券に関する知識がないことに加え、初めてのインターンシップということもあり、当日を迎えるまで不安と緊張しかありませんでした。しかし、そんな心配とは裏腹に、実習を終えて今思うことは“こんな会社で働きたい”ということです。そう思うきっかけとなったのは、社員の方々のお客さまへの想いの強さでした。

お客さまにとって本当に良いものを提供するためには、商品に関する知識に加え、過去現在未来における意思意向への理解が必要であり、さらにその理解を深めるには信頼関係の構築が欠かせず、アフターフォローをしっかりと行うことが関係継続につながることをグループワークにて学びました。このグループワークでは学びや発見を多く得られながらも、言葉にして伝えることの難しさや世の中に関する知識の不足といった自身の未熟さに気付かされました。そんな中、社員の方々はワークを進めやすくなるよう「こんな人もいるから私ならこうするかも」という実体験に基づくアドバイスをくださいました。他にも、座談会では私たちが質問しやすいように話を振ってくださるなど、お客さまが安心して委ねられるのは、こういった小さな気遣いと人柄があってこそなのだと実感しました。証券会社で働く上での知識やマナーをはじめとし、得られたことは数多くありましたが、5日間を通して一番印象に残ったことは、やはりこの“相手を考え抜き尽くすこと”の奥深さでした。

また、今回の実習を経て、仕事や就職活動に対する意識がマイナスからプラスへと変化したと感じます。今まで仕事や就職活動をどこか義務のように捉えてしまっていたため、資格取得も説明会も目的を持たず、数をこなすことに満足していました。しかし、いざ振り返ってみて、自分がどう変わり今後どう役立つかと聞かれると即座に思いつくことはあまりありません。様々なお話を伺う中で、将来の夢がなくても家族との時間を大切にしたいなどの小さな目標を集めるだけで、現在すべきことが自ずと決まり、目的のない行動とで得られるものの重みが全く異なることを学びました。資格取得等はただの手段であるにもかかわらず、いつの間にか目的として捉えてしまっていたことに今更ながら気付きました。仕事に関することだけでなく人生における“小さな幸せ”を書き記すことで、本当に必要なこととそうではないことを可視化し、ゴールから逆算して考えること。これが就職活動をする上で大きな指標となると考えます。今後は、自分自身の過去を振り返り、現在未来を考えた上で、しっかりと一つ一つの行動に目的意識を持って取り組んでいきます。

〔大阪トヨペット株式会社〕

企業

「インターンシップで学んだ事」

現代社会学部 社会システム学科 3年次

私はインターンシップ I A・I Bで「どのような環境下でも結果が求められ、その結果を出すためには」を学びました。まず、なぜこのインターンシップ I A・I Bに応募したかという、インターンシップではどのようなことをすればよいのか、社会に出る前に何を知っておかないといけないかなど、わからなかったからです。事前指導講義で、インターンシップでは企業はどのようなことを考えて受け入れているのかなどを学ばせていただいてから、実際に企業に訪問し、事後指導講義で振り返りをするといった手厚いサポートがあったからです。学年関係なくインターンシップに不安を感じている学生は積極的に参加すべきだと考えます。

私は車が好きです。就職するなら自動車業界と決めていたため、車を販売している企業に応募し、その中で第一希望の大阪トヨペット株式会社にインターンシップ実習生としてお仕事の一部を体験させていただきました。そのお仕事の一部とはお客様のお出迎え、案内、お茶出し、整備士や営業担当者への受け継ぎでした。このお仕事は会社の一番のメインとなる目的の車を販売、乗り続けてもらうことへのサポートになりますが、何百万円もする高い買い物をしていただくためには、会社や営業担当者の努力がよくわかる仕事でもありました。会社としてはお客様に納得して買っていただきたい、買って満足していただきたいと考える一面もありますが、やはり数字や結果を重視するため、売り上げ台数、売上高などの目標を達成するために、そして大阪トヨペットグループの中での店舗別売り上げランキングを求められている中で、どのようにして結果を出せるかを日々探求して営業しているように見えました。車はメーカーを跨いで同じフレームを使っている車、同じシリーズや同じ用途の車が沢山あるため、条件で車を絞ったとしても何種類も候補が出てきます。自分のメーカーの車を買っていただけるには、その中でも少しでも単価をあげ、買った後も納得して乗り続けていただけるかを考えています。比較する、メリット・デメリットをはっきり伝える、自分のメーカーはここがすごいとアピールするということが必須となりますが、やはり売上を沢山上げている営業担当の方はそれだけでなく、お客様の特徴や好みや詳細を覚えておられ、文章にできないような心理的なところも合っているかも求めており、その場面を見て仕事はただ流れ作業のように同じ作業を繰り返すのではなく、その他の部分がどれだけ行えるのかが自分の成長や結果を出せるポイントだということに気づきました。

私はインターンシップ I A・I Bに応募してよかったと思います。その他のメインとなる社会に出ることとはというのはある程度知っていたということもあり、勉強になる部分に気づくことが少なかったので勿体なかったと思いました。

〔和泉市教育委員会（池上小学校）〕

学校

「インターンシップで学んだこと」

現代社会学部 社会システム学科 3年次

今回、小学校のインターンシップに参加して、学びがたくさんあった。

現在、小学校は運動会シーズンで、私は運動会練習 1 日目から参加していた。1 日目はすぐに演技の練習を始めるのではなく、目標を考えたり、自分が頑張ることを話し合ったりしていた。ただ恒例イベントだから行うのではなく、目的意識を持って行っていた。最初に目標や頑張りたいことを決めることで、児童のやる気につながっていると考えた。5・6 年生のルールの一つに「マイナス発言をしない」があり、先生がふと「今日めっちゃあつー」とおっしゃったときに「あ、マイナス発言したらあかんわ」とすかさず指摘していたので、先生も児童と同じように熱意を持って運動会練習に取り組んでいるから、児童もその姿を見て頑張れることができると考えた。

運動会練習は3 週間という時間が少ない中で行っていたが、1 週目の金曜日にはどの学年も順調に進行していた。その背景に ICT 活用があり、「今日練習した分はパソコンで確認しといてね。明日復習しないで次進むからね」と言う声かけがどの学年でも最後に聞こえ、1 人一台のパソコンで休み時間や家などで練習できるようになっていた。ICT 活用と児童の努力が組み合わさり、少ない時間でも着々と進んでいると理解した。

社会の時間でも人物を調べるときにパソコンを使っていた。社会は先生からの説明だけの受け身な授業のイメージが強く、話し合いなども行った記憶がない。でも自主的に調べたことは頭に残りやすいと聞いたことがあるので、調べるなかで自分が気になったことを見つける授業はとても参考になった。理科の授業では、児童が説明動画をつくるという授業をしていた。教科書に載っている画像をパソコンで撮って説明の声をいれるなど、パソコンを使いこなしていて、とても驚いた。この授業も説明動画をつくる中で、振り返ってわからないことがあったら調べてどんどん知識がつくし、主体的で良い授業だと感じた。

このように ICT 活用の現状を知ることができたことが一番の学びであった。他にも小さな気づきはたくさんあり、3 年生の板書は空白を開けてほしいところは丸を書いてわかりやすくしていたり、1 年生はしゃべりながら起立したらもう一回やり直したり、大学で教えてもらうのではなく、教育現場でしか発見できない細かな指導方法を知ることができた。通級指導教室という支援学級とは異なる支援も初めて知り、その児童への対応を教えていただいた。この実習を通して教師になりたいという気持ちを再確認でき、勉強を頑張ろうと思った。

〔京都中央信用金庫〕

企業

「インターンシップで得た学び」

現代社会学部 社会システム学科 3年次

京都中央信用金庫様のインターンシップに3つの自己達成目標を設定し、参加しました。1つ目は、職員の方と実際に接し、多様な業務を体験することによって金融業界で働くイメージをつかむことです。2つ目は、何事にも主体的に取り組む、積極的に質問することです。3つ目は、金融に関する知識をしっかりと学んだうえで、常に自分の考えを持つことです。これらの目標を設定したことで、常に意識しながら積極的に行動することができ、より多くの学びを得ることができたと感じています。グループワークや取引先の企業訪問など、非常に貴重な経験をさせていただきましたが、その中で得た学びは大きく分けて3つあります。

1つ目は、地域のお客様に対する姿勢です。インターンシップ参加前は、預金・融資などの定型業務のみを行っていたといった堅いイメージを持っていましたが、実際は正反对で、地域の活性化とお客様の笑顔を最優先に考えていることが、本業支援業務、グループワークや職員の方との座談会から、よく伝わってきました。取引先の企業様に訪問させていただいた際に、企業の方が京都中央信用金庫様に対する信頼や感謝を何度も口にされていたのが、とても印象に残っています。これらの体験を通して、人から感謝される働き方をしたいと思いましたし、京都中央信用金庫様の雰囲気や働き方を知り、社会人として働く具体的なイメージをつかむことができました。

2つ目は、自分に足りていない能力を発見できたことです。5日間の中で、自分の考えを聞き手に対して分かりやすく簡潔に伝えることが苦手だと感じました。グループワークや発表をする機会も多く、その際に必ず自分の意見を持ち、なるべく要点を絞って人に伝えることを常に心がけていました。他の学生の要点がまとまっている発表を聞き、感心すると同時に自身の未熟さを実感しました。今後、普段の生活の中でも簡潔に伝えることを意識し、改善していきたいです。

3つ目は、多角的な視点を持ちながら、幅広い分野に関心を広げ、常に学ぶ姿勢でいることの重要性です。職員の方が「就職しても日々勉強」とおっしゃっていたのが非常に印象的で、受け身でいるのではなく、様々なことに興味を持ち、積極的に学ぶことが自身の成長にとっても重要であると学びました。ワークや様々な部署の講義を通して、できないからと諦めるのではなく、お客様のことを第一に考えた支援を最大限模索することが何よりも大切だと感じました。

今回のインターンシップで、自身の成長につながる多くの学びを得ることができました。毎日が新たな発見の連続で、充実した5日間を過ごすことができました。就職活動の軸である働くうえで大切にしていきたいことも明確になり、インターンシップに参加して本当に良かったと感じています。学んだことを今後の学生生活においても実践していきたいと思っています。

企業

「社会人としての意識」

現代社会学部 社会システム学科 2年次

【金井ホールディングス株式会社】

このインターンシップに参加した理由の一つに様々な職種を知りたいという目標があった。金井ホールディングス株式会社の実習では、いくつかの部署の方々と関わる機会があり、部署の内容について知るができた。また、私は現在2年次生であり、就職活動に対する知識がなく、社会人としての行動やマナーを身に付けたいと思い参加したが、実習を通して仕事の進め方や、社会人としてあるべき姿を学ぶことができた。

私はこのインターンシップで多くのことを学んだ。まず、仕事の受け方・進め方である。その中で重要と感じたことは、時間管理とスケジュールリングだ。決められた時間に目標まで到達するため、仕事の始めとして期日に間に合うスケジュールを作成する必要がある。計画を立てることで効率的に考えたり、動いたりできるようになったと感じる。次に、疑問点はすぐに確認を取ることで。仕事は抽象的に伝えられる場合もあり、自己判断で行ってはいけないということを学んだ。しかし、上司の方にも都合があるため、質問をするタイミングを判断することが難しかった。また、対立する意見を発言する際の言葉の選び方が気を付けられるようになった。ブレインストーミングで相手の意見を批判しないことが大切だと学び、相手の理解できない部分を聞き、相手の主張を肯定する形で発言できるようになった。

実習の中での反省点は二つある。一つめはグループの中で役割を決められていなかったことだ。二つ目は、プレゼンテーションの話し方である。今回のグループワークは役割を決めておらず、グループ内でみんなが意見を出す方に回ってしまい、意見をまとめることが難しかった。最初は円滑に進めていても、全員同じ立場では、発言する順番を回せない、収束に向かえないなどの問題が生じた。今後は、役割を決めて取り組みたいと思う。もう一つの改善点であるプレゼンテーションの話し方は、ストーリー性のある話し方と相手に向かって話す姿勢が大切だと教えていただいた。プレゼンテーションの際に緊張してしまい、スライドを見ながら話してしまったことが反省点である。聞き手の心に響くためには、目を見て話すこと、興味の湧く話し方をする必要があるだと学んだ。自分が考えたアイデアを伝えるには、インパクトや簡潔な表現が必要だと考える。これからの大学生活での練習の機会を大切に、相手へのアピール方法や話し方について探求していきたい。

インターンシップを通して成長したと感じることは、時間を意識するようになったことと、グループで協力する姿勢だ。金井ホールディングス株式会社では、タスクの進め方を教えていただき、時間を区切って作業を進めていくことを実践できた。その経験から、これまでの時間内に進めるところまで作業するという姿勢から、目標を決めてどのように作業していくかを考える姿勢へと変化した。時間を有効に使えるようになり、計画性も生まれたと思う。また、私はグループワークが苦手だったが、五人で協力することを通じて協調性が成長した。

金井ホールディングス株式会社の実習を通して、社会人の考え方や仕事の進め方などを学び、貴重な経験ができた。そして、学生の私にはビジネス的視点の知識が不足していると感じ、これからの大学生活で学んでいきたいと思う。この実習で未熟だと感じた点を成長できるよう努力していきたい。

企業

「インターンシップに参加して得たこと」

現代社会学部 社会システム学科 2年次

【芦屋市役所】

官公庁

私は将来、漠然と公務員になりたいと考えている。しかし実際にはどのような業務をしているのか、またどのような雰囲気の中で働いているのかなど、疑問が沢山あった。今回のインターンシップは市役所で働くイメージを掴むこと、自分の適性や課題を知ることを目的に参加を決めた。実際に5日間すべて異なる部署へ実習に行き、体験や見学を通して公務員の業務は多種多様であること、どの部署でも市民の方々を第一に働いているということがよく理解できた。また、私は公務員のイメージは事務作業や窓口での業務がほとんどだと思っていたが、部署によっては外回り仕事が多いところや、力仕事が必要な場面など様々であることが分かった。そして、実習のなかで職員の方から、公務員や市役所のことにに関して貴重なお話を沢山聞くことができた。今回のインターンシップで沢山の職員の方々と出会い、一緒に仕事をすることや、コミュニケーションをとる中で、私は誰かと接することが好きだと改めて気づくことができた。さらに実習の際、大学で主に学んでいる法律や公共政策、社会福祉に関する知識を活かすことができる場面、役に立つことが多々あり嬉しく思った。私は新しい環境が苦手なまでに凄く時間が掛かるが、それを克服するために積極的に質問をして疑問点をなくすこと、職員の方々の様子を観察して真似してやってみることで、実習先の部署について事前に情報を集めるなど様々な工夫をした。その結果、新しい環境での不安の解消に繋がり、落ち着いて行動することができたと思う。私は働くことに関して、インターンシップに参加するまでは全て自分の生活のためであると考えていた。しかし、実習先での体験・見学や職員の方々がどのような気持ちで働いているのかというお話を聞いて、働くことは自分のためだけではなく、誰かの助けや幸せに繋がること、周りの人々と協力が不可欠で自分自身を成長させるきっかけになるのだと考えるようになった。

このインターンシップで発見した自分自身の課題として、まず一つ目は、PCスキルがまだ全く足りていないということが挙げられる。実習先でExcelを使用する場面があったが、作業に時間がかかってしまった。公務員は文書やグラフの作成などを、丁寧にかつ素早く作成しなければならない。これからPCスキルをもっと上げなければならないと感じた。二つ目は失敗してしまうと焦り、周りが見えなくなることがある点だ。ミスをしてしまうと落ち込んでしまうが、なぜそれが起こったのか、防ぐためにはどうするべきかを考えることで、次回に生かすことができると実習の中で学ぶことができた。

私はこのインターンシップでの実習を通して、以前よりも視野を広く持てるようになったと感じる。また、市役所で働くというイメージも掴むことができ、不安や疑問点も解消することができた。今回の貴重な経験と学んだことを活用して、これからの学校生活を有意義に送りたい。

企業

インターンシップに参加して学んだこと

現代社会学部 社会システム学科 2年次

【株式会社神戸ポートピアホテル】

私がインターンシップに参加して学んだことは主に、4つあります。1つ目は、正社員で働くということがアルバイトとは比べものにならない責任を伴うということです。アルバイトとして働いている時は、重大な業務を任されるようなことはあまりなく、何かあった時も正社員の方がフォローしてくださる場面が多かったように思います。しかし、今回のインターンシップで正社員の方々と同じような業務をさせていただき、上司の方はいらっしゃいましたが、基本的に社会人は、自分で問題を解決することを求められているのだと感じる場面が何度もあり、社会に出て働くことの厳しさややりがいを知りました。

2つ目は、お客様に喜んでいただくための行動は、正解が一つであるとは限らないということです。これはインターンシップのオリエンテーションの際に、人事部の方からお話いただいたことなのですが、今回のインターンシップで何度も身をもって感じるができました。インターンシップ期間の前半、ゲストリレーションシップという部署でお荷物を預かったり、お部屋まで案内したりとお客様対応を体験させていただきました。沢山のお客様の対応をしているうちに、何度かお部屋まで荷物を持っていかなくてもよいとおっしゃるお客様がいらっしゃいました。私はオリエンテーションでのお話通り、お客様の対応をする際、「よろしければ～いたしませんか？」とお伺いしていたので、そのようなお客様の考えにも対応することができました。このような経験から、ホテルには本当に様々なお客様が来られるので、自分の勝手な決めつけで、お客様も同じ考えだと思っはいけないのだと理解しました。

3つ目は、自分からお客様にお困りごとを聞くことも勿論大切ですが、お客様が質問しやすいような雰囲気を纏っていることも大切なことだということです。これもゲストリレーションシップでお仕事体験をしている際に感じたことなのですが、働いていらっしゃる方々が笑顔で対応されていたので、お客様も質問しやすいそうでしたし、私自身もわからないことがあれば、聞きに行きやすいような雰囲気がありました。この気づきから、お客様が質問しやすい雰囲気の重要性に気がつきました。

4つ目は、優先順位は周りの状況などにより変化するという事です。私は、インターンシップの後半、スカイグリルbuffet「GOCOCU」というレストランで、お皿を下げたり、机を片付けたりといった業務を体験させていただき、buffet形式なので沢山の皿を下げる必要がありました。その際に、お客様が帰った机を片付けるよりも先に、今いらっしゃるお客様のお皿を下げるようにとの指示があり、何を優先すべきなのかが考えられているのだと感じました。インターンシップに参加する前の自分は優先順位を決める時に、一度決めたら固定してしまっていると感じ、もっと柔軟に考えようと思いました。

企業

「やりがいを得るための働き方」

現代社会学部 社会システム学科 2年次

【株式会社ホテル京阪マネジメント】

私はインターンシップを終えて、働くことのやりがいは自分自身の積極性によって得るものだと気づきました。8日間、ホテルのレストランで、朝食buffetのご案内や配膳作業、昼のランチ営業ではお料理の提供やご予約席のテーブルセッティングなどの業務をさせていただきました。お皿の持ち方や効率の良い配膳の仕方、お客様への配慮が整ったテーブルセッティングの仕方、お料理を置く配置など様々なことを丁寧に教えていただきました。

始めの3日間は業務に慣れることに精一杯で、周りの社員の方の様子を伺いながら、こんなことをしていいのか、この行動はしない方がいいだろうと勝手に考え積極的に働くことができず、指示を待っている場面が多くあったように思います。そうしていると、働かされているだけの状態にあって、あまり自分にとって得られるものが少なく、やりがいを感じることはできませんでした。そこで、やりがいを持つために、一日一日実習を終えるたびに反省点を明確に見つけて、次の日に全く同じ働き方をするのではなく、少しずつ工夫をしながら働くように心掛けました。例えば、携わっていた朝食buffetの業務において、始めは海外からのお客様が多かったので、英語があまり得意ではなかった私は、海外のお客様を避けがちになっていました。しかし工夫をするように心掛けると、どんどん積極的に自分から外国人の方に挨拶をしたり、使えそうな英語を事前に調べて、それを用いながら配膳作業をするようになりました。また、業務に携われなかったことでも、気になることは積極的に社員の方に伺い、自ら意欲を高めていきました。そうすることで社員の方からも業務に関する意欲が伝わってきたと褒めていただき、やりがいを感じながら楽しく働くことができました。自分自身で挑戦したり積極性を持つことで、こんなにも働くことに関する考え方が変わるのだと分かりました。

一番印象に残った学びに関しては、改めて大きな声で笑顔で接客、挨拶することの大切さに気づいたことです。社員の方に、朝食バイキングはお客様が最後にホテルで利用される場であるからこそ、笑顔でお送りできるようにすることが重要であり、ホテルの印象にも繋がるということを教わりました。そこで従業員の明るく元気な接客が大切だと気づきました。

今回の実習を通してこれから活かしたいことはまず、どんな場面でも元気よく挨拶すること、そして積極的に何事も行動することです。これらのことは、インターンシップに行く前から大切なことであるし、当たり前のことであると分かっていた。しかし、改めてこの実習を通して意外と難しく、意識しなければできていないことであると気がつきました。そして、仕事のやりがいを感じて働くことが私にとってすごく大事であると知ることができました。これからの残りの大学生活を積極性をもって、何事にも挑戦し、自分自身のためにたくさんの学びを吸収したいと思います。

〔株式会社ハヤシゴ〕

企業インターンシップを終えて

現代社会学部 社会システム学科 2 年次

今回、インターンシップを終えて、一番感じたことは自分の成長です。最初は将来のやりたいことが明確ではない不安から、少しでも自分のためになればと思うとともに、夏休みを何か意味のあるものにしたいと考え、参加しました。このプログラムに協力してくださる企業様の中で、もともと興味のあったマーケティングについて学べる株式会社ハヤシゴ様があり、漠然と思っていた“好き”を本当の“好き”に変えられるのではと思い、参加しました。いざ参加してみると、私の想像以上に多くの収穫がありました。

まず、嬉しかったこととして、一人の大学生を一人の社会人として扱ってもらえたことです。そのおかげで社会に出た時の緊張感や責任感を知ることができました。そして、チームの一員としての仕事に対するプライドに触れることができました。店舗でお客様に商品を販売する際や、本社で海外の職人の方と会議をする時など、どんな時でも一つ一つの仕事に本気で向き合い、より良い商品をお客様に届けられるよう働いておられる様子を見て、私もこのように誇りを持った尊敬のできる社会人になりたいと思い、自分の目指すものを見つけることができました。また、社会人として働くことに関し、周りへの気遣いや、私たちインターンシップ実習生に対する対応、上司や職場の人との接し方など、大学生である自分と社会で働いている人との経験値の差を身に染みて感じることができ、就職活動に向けて何が自分に足りないのかを知ることができました。

そして、このインターンシップでの一番の収穫は、自分が社会に出た時にやりたいことが発見できたことです。今までは特にやりたいこともなく、将来についてはっきりしていなかったのですが、工場見学で、日本の国産技術に感動し、この技術を後世まで繋げていけるような、そんな会社に就職したいと思いました。自分の中でこれはかなり大きな成長ではないかと感じます。このインターンシップに参加したことで多くの収穫を得ることができ、自分の考えや就職活動に関する姿勢を大きく変えることができました。

最後に、さまざまな場所で、2 年次生のうちからインターンシップに参加すると話すと、そのことにいつも驚かれました。まだ、早めの就職活動に関して、定着していない部分があると身をもって実感できました。しかし、このことを面倒とは思わず、少し勇気を出すだけで、就職、ひいては人生での大きな一歩を踏み出すことができます。そして、そのような学生が私以外にももっと増えて欲しいと感じました。

これからも自分の行動力と積極性を使い、今回の発見や成長を活かして、また新たな自分を見つけ、さらなる高みを目指していきたいです。

〔一般財団法人大阪教育文化振興財団 キッズプラザ大阪〕

企業インターンシップを通して

現代社会学部 社会システム学科 2 年次

私がインターンシップを申し込んだ理由は、将来の理想像である「間接的ではなく直接的に人と関わることで一人一人を幸せにしたい」という志をより深めたいと思ったからです。元々人と関わるのが大好きでした。また小さい頃、テレビで難民や社会的立場が弱い人への報道がされていたのを見て衝撃をうけ、そのような人たちを 1 人でも幸せにできるようなサービスを提供できる仕事につきたいと思うようになりました。そこでこのインターンシップの機会を通して、実際の社会では人と関わる仕事がどのように行われているのかを体験してみたいと思い、一般財団法人大阪教育文化振興財団キッズプラザ大阪様のインターンシップに参加しました。

主な仕事の内容は、子どもたちと関わりながらのワークショップの運営進行や、保護者様に対しての受付、呼び込み、ストリートやマートと言われる買い物の擬似体験ができるような場所で子どもたちと触れ合うというものでした。初めに子ども一人一人が心を開いてくれるような話し方や、聞き方、関わり方ができるようになるという自己達成目標を掲げていたのですが、これが一番難しく思ったより苦戦しました。子ども一人一人の性格や褒め方、タイミングや声の掛け方、会話の引き出しなど、私が思っている以上のことを考えて発言しないといけないのだと考えさせられました。また、ワークショップの司会進行では、普段私たちが当たり前に使っている言葉が当たり前ではない子どもたちにどうしたらわかりやすく説明できるのかということもたくさん考えさせられました。

このインターンシップで学んだ一番大きなことは、働くとは視野をもっと広げるということです。今回のインターンシップに参加して、子どもとの関わり方や人との関わり方は直接的なことだけではないという発見ができました。直接的に楽しい空間を提供するようなワークショップや子どもとの触れ合いはもちろんですが、間接的な部分で子どもが怪我をしないような工夫があらゆる場所でされていたり、意識をしていないとあまり気づかないところまでたくさん配慮されていて、見えていないところでマイナスを出さないようにすることが働くということなのだと実感しました。

インターンシップに実際参加してみて、私がどのような分野が得意、不得意で興味があるのかなど、まだまだ知らないことがたくさんあるという気づきもありました。これからは広い視野を持って、いろんな業界やその働き方を実際に調べてみて、本当に自分のやりたいことを見つけて行動にうつすことが大切だと思いました。また、その為には常に主体的な姿勢や情報収集、自分が思っていることを言語化し、みんなに伝えるといった日々できることの積み重ねで、人としても成長していきたいと思いました。最後に、たくさんのことが学べた今回のインターンシップを、明日からの日常生活に活かして行動していきたいと思います。

〔岸和田市役所〕

官公庁市役所の仕事

現代社会学部 社会システム学科 2 年次

私が今回のインターンシップに参加した理由は、働くということはどのようなことなのか、働くにおいてどのような力を大学在学中に身につけておくべきなのかを知りたいと思ったからです。市役所を選んだ理由は、私たちの生活に近い市役所の方がどのような業務をしているか、気になったからです。今回、実際に8日間で3つの課を回らせていただきました。

私がこの期間で学んだ一番のことは、市役所での仕事はイレギュラーなことにに対して臨機応変に対応する力、市民の方や同僚と話すためのコミュニケーション能力、相手が話しやすい状況をつくる傾聴能力、パソコンのスキルが主に必要とされるということです。市役所は部署によって全く仕事内容や雰囲気異なります。私を受け入れてくださった観光課、子育て支援課、広報広聴課は事務作業もあるのですが、イベントや打ち合わせでの外回りが多くありました。しかし、お話を聞いていると、事務作業をしていて基本的にデスクワークがほとんどの部署もあるようでした。そして、市役所の人事システムでは3～5年で部署が変わり、一から新しいことを覚え直して仕事を進めなければならないため、元々その課にいた人に分からないことを質問する必要があります。その時にうまくコミュニケーションが取れないと仕事が成り立ちません。コミュニケーション能力と並行して、質問しやすいような環境を作ることも同じくらい大切だということに感じました。常に新しい環境、新しい同僚と信頼関係を築き、適応していかなければなりません。

また市役所の大きな業務のうちの一つに、窓口業務があります。市民の方の窓口対応で想定できないことがたくさんありました。それでも相談される市民の方が納得される答えを探し出すために、同僚の人と相談していく必要があります。さらに、私が訪問させていただいた課は比較的外回りが多いのですが、それでもデータ集めや、資料作りのためにやはり皆さんがパソコンを使っておられました。そのためエクセルやワードは使えるようになっておくべきだと思いました。

私は自分の思う強みと弱点を知ることができました。人と話すのが好きで、自分の考えていることを相手に伝えることが得意なので、今回のインターンシップでも会議の際に意見を求められれば考えていることを、しっかりと伝えることができました。そのため発信力が今の自分の強みだと感じています。ですが、私は周りを見て自分がやらないといけないことを把握する状況把握能力と相手の話に耳を傾ける傾聴能力が弱いということにも気が付きました。そのため、これからは大学でのグループディスカッションの際や、友達と話しているときなど、日常から少しずつ周りをよく見て、自分の意見だけを押し付けないように、自分だけが話していることが無いように、相手が話しやすい状況をつくることを心がけたいです。今回のインターンシップでのことを無駄にしないように行動し、日々の生活を少しずつ変えていこうと考えています。

〔株式会社関西マツダ〕

企業インターンシップを経て学んだこと

現代社会学部 社会システム学科 2 年次

私が今回のインターンシップを経て学んだことは沢山あります。

まずは、自動車業界とお客様に向けた営業について、より深く知ることができました。自動車業界の強みは、他の販売業とは違って一人一人のお客様との関係が濃く長く続くということです。自動車を販売して終わりではなく、その後の点検や相談や修理などにも携わることができるからです。そのおかげか、社員の方とお客様の距離がとても近かった印象があります。お客様のことを常に一番に考えておられることがわかりました。

そのことに関連して、この実習に参加するまで営業というお仕事は、売り込む自社の製品について知っていたらいいと思っていました。しかし、製品についての知識だけでなく、お客様の細かな情報までも把握しておく必要があるということ学びました。お客様のご要望はもちろんですが、ご家族のことや趣味、お仕事のことなど小さな会話をすることで、お客様との信頼関係に繋がるのだと実感しました。また、営業はただ会話能力が高いだけでは務まらないこともわかりました。しっかりと話を聞く傾聴力も養わなければならないと思いました。

また、会社というものは当たり前かもしれませんが、それぞれに違った仕事を与えられているので、自分の仕事を効率よくこなしながら、ほかの社員と連携することが大事だと理解しました。実習先では、常にインカムで連携を取られていて、一人一人が今やるべきことをまっとうしておられました。やはり協調性が重要であると思いました。何か頼まれごとをした際に一言「ありがとうございます。」という言葉が多かった印象があり、とても素敵で、私も今後大事にしていきたいです。

また、この実習を通じて社会人に必要な力を見つけることができました。

1 つ目は、意見を述べる力です。改善点はないか聞かれることや、どう思ったか意見を求められる機会が多かったからです。また、会議に参加させていただいたときも、意見をしっかりと伝えられる人がとても重宝されているように感じました。私は、普段から自分の意見がなく、人に合わせる事がほとんどなので、意見を求められたときに焦ってしまいました。このことを受けて、普段から自分の意見をしっかりと持って聞かれたときは伝える努力をしようと思いました。

2 つ目は、主体性です。自分から進んでできることを見つけて、疑問点は聞くといった基本的なことが、自分自身の成長につながる近道だとわかりました。意味のないことだと思わずに、自分にできることはどんどん挑戦することが大切だと思います。私は、失敗を恐れて失敗した場合のことを考えてしまっ、結局何もしないというところがあります。これからは、失敗しても人生が終わるわけではないから大丈夫という気持ちを持って、挑戦する機会を増やしていきます。

これから、インターンシップに参加するときも、せっかくの機会だという気持ちを持ち、積極的に社員の方のお話を伺いたいと思います。

〔株式会社サカイ引越センター〕

社会人と学生

企業

現代社会学部 社会システム学科 2 年次

私は、インターンシップ I A・I B で株式会社サカイ引越センターに行ってきました。5 日間の実習を通じ、学生

の内に身につけておきたいことを見つけました。

1 つ目は、お客様第一をずっと意識しながら行動しているのが社会人だと思いました。お客様のお宅に営業に行く模

擬練習をしたときは売り上げを優先してしまい、お客様のことをおざなりにしていました。お客様に電話をかける練習

をしたときは、お客様のことより自分がミスをしないように気を付けることを優先してしまい、マニュアル通りのこと

しかできませんでした。学生は自分のために日々責任をもって行動しています。しかし、社会人は人のために日々責任

をもって行動しています。自分だけでなく他人の生活を背負っているからこそ、お金をお客様からもらえるということが

分かりました。そして、体験したからこそ分かったことが、お客様のことを第一に考えることはとても難しいという

ことです。初めは気を付けていても、お客様第一が頭から抜け落ちてしまって、本当に難しかったです。

2 つ目は、事務職の方は、引越しスタッフや営業職の方を一番に考えて行動していることが分かりました。社員の方

が気持ちよく行動できるということになると、それはお客様に還元されます。社員の気持ちや環境をコントロールする

ことで売り上げが変わったり、会社の本業をするためには、多くの人たちで支え合って成立していることが分かりまし

た。私たちインターンシップ実習生の対応をしていただいた人事部の方々は働く人のことだけを考えた役職でした。お

客様と接しない役職は今まで接点がなかったので、話を聞くことはとても新鮮でした。大学の授業で人的資源管理論を

受講していたので、人事の方と大学での学びを踏まえつつお話することができたので、とても嬉しかったです。どんな

職種についても、自分ではない他人のために動くことで、お金がもらえるということが分かりました。

3 つ目は、会社は社員同士のコミュニケーションをよくとれていればいるほど、いい会社であるということです。誰

でもいい案や能力を持っていたら上司とすぐに相談して実現へ持っていけます。しかし、コミュニケーション不足であ

れば下の意見は上に行くことがなく、会社は成長することなく継続が難しくなるはずです。私は、縦のつながりがとて

も苦手なので、上手く関係を作れるようになりたいと思いました。

当初は私に足りないところを探そうとしていましたが、足りないところだらけで、むしろ何が学生の内にできるのか

を考えて行動しないといけないと思いました。私は他の学生よりも行動力や話す能力が高いことが強みだと思いました。

社会人と比べると劣るところが多いですが、同じ立場の学生と比べると自分の長所が見えてきました。これからはもっ

と、人のために動けるように努力しようと思います。そして、長所をもっと伸ばせるようにどんどん活用していって、

社会人レベルに学生の内にできるようになりたいと思います。

〔豊中市役所〕

「インターンシップを通して学んだこと」

官公庁

現代社会学部 社会システム学科 2 年次

私は今回のインターンシップを通して、学んだことは主に 3 つあります。

1 つ目は市役所での業務内容について学ぶことができました。私は公務員志望であり、以前から市役所での業務内容

について学びたいと思っていましたが、インターネットで調べるだけでは理解できていない状態でした。今回の実習を

通して、様々な部署の業務内容や取り組みを業務説明やオープンオフィスへの参加を通して学び、業務に対する理解を

深めることができました。また、実際にプレイルームで子どもや保護者の方とお話をしたり、「ほっこりひろば」とい

うイベントにも参加し、市役所での具体的な業務の体験もすることができました。

2 つ目は子育て支援に関して具体的に学ぶことができました。以前から子どもの居場所について興味はありましたが、

詳しくは知らない状態でした。今回の実習で「ななーる」や「おもろそう」など子どもの居場所づくりが行われている

施設を見学し、具体的にどのような取り組みが行われているのかということや、目的、事業者の方の思いなど、貴重な

お話を聞くことができました。また、あしなが会の弁当配布に実際に立ち合い、お手伝いをさせていただきましたが、

現場でしか体験できないような学びがたくさんありました。この弁当配布は、夏休み中に給食がない子どもたちのため

にお弁当を配るというような目的だけでなく、何か困っていそうな子どもや居場所がない子どもを見つけ、積極的に声

掛けをすることも目的の 1 つです。子どもにも弁当配布のお手伝いをしてもらうことで、自然と子どもの居場所づくり

がされているところを見て、子どもの居場所の大切さに気付くことができました。

3 つ目は相手への伝え方を学ぶことができました。例えば、窓口業務の見学をさせていただいたときに、職員の方の

保護者の方に対する説明が適切で分かりやすく、私も相手に対してわかりやすく伝えることができるように専門的な知

識を身に付けたいと思いました。また、私は今回の実習で、質問や意見を求められたとき、緊張してしまい考えていた

ことを上手く説明することができなかったという反省点があるので、表現力や、コミュニケーション能力を高めていく

必要があると実感しました。さらに、実際に自分たちが見学した施設の紹介をツイッターに挙げるというような業務を

任されたときに、何を伝えたいのかを明確にすることや、相手にわかりやすく伝えることの難しさも学ぶことが

できました。

今回の実習を通して、働くということはアルバイトとは違い、指示されたことだけをするのではなく、積極的に質問

することが大切であるということが学べ、実習の中で自分の成長をとても感じるすることができました。また、実習を通し

て、自分の弱みを発見することができたので、改善することができるよう努力し、今回の実習での貴重な学びや体験を、

今後の学生生活や就職活動に生かしていきたいと思いました。

現代こども学科

〔Konomi Kindergarten International〕

「海外インターンシップを通して私が出たもの」

学校

現代社会学部 現代こども学科 2 年次

今回のインターンシップでは、日本とオーストラリアの両方の幼稚園実習をした。そして、日本とオーストラリアの

教育観や教育方法の違いを身をもって感じる事ができた。例えば、日本の教育現場では一斉指導法がおこなわれる、

いわゆる「集団主義」な教育方法であるのに対し、オーストラリアは一斉指導はなく、個人の自由を尊重した「個人主

義」な教育方法がおこなわれていた。また、教育方針や教育制度も比較すると違いが明確だった。自国と他国の教育を

比較することができたことで、それぞれ手法は違っても、それぞれに優れた点があり、日本も他国のいい点などを参考

にしながら日本の教育がさらによりよいものとなればいいと感じた。また、日本人の見た目でも日常会話が英語の子ど

も、外国人の見た目でも日常会話が日本語の子どもがオーストラリアの園には沢山いて、自分は日本人の見た目だっ

たら日本語を話し、外国人の見た目をしていたら英語を話すだろうといった固定概念があったことに気づかされ、多文化

共生の理解を深めることができた。

私は今回の実習で積極的に行動し、客観的に物事を捉える力を身に付けたいという目標を立てていた。園内では英語

が飛び交う環境だったため、積極的に自分から行動することをためらってしまったことが今回の反省点だったが、保育

者の援助の仕方や声かけ、そして子ども一人ひとりの行動や言動を観察し、子どもの気持ちに寄り添い共感することを

意識して子どもと関わる事ができた。学校で幼児教育について勉強していたとはいえ、初めて子どもたちの前で読み

聞かせをおこなったり部分実習をおこなうと、時間の配分ミスや子どもの興味を惹きつけることができないなど苦戦し

た場面が多く、講義を受けているだけではわからない現場の様子や子どもの様子が分かり、実際に現場で経験し失敗し

て自分の課題を知ることの重要性を理解した。このように戸惑い苦戦した場面もたくさんあったが、毎日実習が終わる

たびに「先生ありがとう」と笑顔で伝えてくれる子どもたちの姿を見て、やっぱり自分がしたいのはこの職業だ、と改

めて強く感じ、「働く」ことのやりがいや喜びを知ることができた。

また、幼稚園での実習だけでなく、多民族国家であるオーストラリアで9日間生活したことで、自己主張ははっきり

としたり、プライベートを非常に重視するといった日本の文化とは少し異なる文化に触れることができ、普段あたりま

えだと考えていることが、あたりまえでないことに気づかされた。日本では体験できない新しい刺激を受けることがで

き、多様な価値観に触れ、自分自身の視野も広がった。私は今まで興味があっても勇気が出ず、行動に移せないことが

沢山あったが、今回勇気を出して実習に参加したことで、今まで味わうことができなかった体験を沢山することができ

た。これからもこの気持ちを忘れず色々なことに挑戦していきたい。

〔Konomi Kindergarten International〕

インターンシップで学んだこと

学校

現代社会学部 現代こども学科 2 年次

わたしは今回このインターンシップを通して、日本の幼稚園とオーストラリアの園の違いや先生の子どもたちへの対

応の仕方などを学びました。

まず、わたしが木の実幼稚園に行って 1 番驚いたことは一斉活動が少なく、子どもたちがやりたいことをするコーナー

活動というものがあることです。興味があることを子どもたちが主体的に取り組む環境をつくっているのはとてもいい

と思いました。日本の木の実幼稚園の特徴として、怒らずにほめて伸ばすという方針があり、子どもたちが騒いでいる

ときに怒るのではなく、ちゃんと話を聞いている子を褒めて“自分も褒められたい！”と思わせるようにしていて、す

ごいと思いました。また、先生が面白いことを言って、子どもたちに興味を持ってもらえるように工夫していて、すご

いと思いました。

オーストラリアでは月曜日と火曜日だけ通う A コース、水曜日から金曜日に通う B コース、月曜日から金曜日まで通

う C コースに分かれていることを知りました。その理由としては、日本では月 1 万～5 万で 37,000 円までは無償となっ

ているのに対して、オーストラリアでは 1 日ごとに保育の料金が決まっていて、1 日に 90 ドルから 180 ドルとなってい

るため、値段も高いので毎日幼稚園に通う子が少ないからです。日本では幼稚園教育要領などが基準になっていますが、

オーストラリアでは EYLF というものが基準になっていることが分かりました。また、日本と違ってオーストラリアの

園では園長がふたりいて、スーパーバイザーとマネージメントの役割があるということを知りました。子どもたちがそ

の日にあった出来事や家のことなど好きなことを話す show & tell、テーマについて考える show & think の時間がある

ことが分かりました。オーストラリアの園では勉強という勉強はせずに、遊びが中心で絵本や音楽で文字を学んだり、

ブロックやごはんの数を数えたりすることで数字を学んでいるということを理解しました。オーストラリアでは幼稚園

に 2 歳から 5 歳まで通い、5・6 歳の子は小学校に通うということを知りました。オーストラリアの園では 1 クラスに

3 人の先生がついていることが分かりました。今回実際に実習で絵本を読む機会をいただいて、普通に文字を読むだけ

ではなく、読んでいる途中で子どもたちに声かけすることで子どもたちも楽しみながら読めるし、そこでコミュニケー

ションをとることで話す力や言葉などを身に付けることができると感じたので、絵本を読むときに声かけしながら読め

るように工夫したいと思いました。

またこの実習を通して、最初は子どもたちに恥ずかしがられて話せなくても、話してくれる子どもたちとなると子ど

もたちも知っている子と話しているということで打ち解けてくれるのだと思いました。そのため、これから実習に行く

ときは無理やり全員と話そうとせず、その子にあったペースでゆっくり関わっていこうと思いました。

英語英文学科

「社会医療法人愛仁会 高槻病院」

「社会医療法人愛仁会 高槻病院で学び身につけたこと」

企業 表象文化学部 英語英文学科 3年次

私は8月28日から9月8日までの平日10日間、社会医療法人愛仁会高槻病院で実習させていただいた。病院では様々な業種の方々が働いておられるが、その中でも医療事務の仕事を体験した。病院の事務職はいくつかの部署にわかれており、今回、外来医事科A,B,C,D,E,Fブロック、総合受付、診療情報管理室、病棟医事科、管理科、地域医療部で実習を行った。

今回の実習にあたり、私は自己達成目標を設定した。就職活動をするうえで、一緒に働きたいと思ってもらえる人になることを目標にしている。その目標に近づくため、この実習を自分の長所を伸ばし、短所を克服するための機会にしたいと考えた。具体的な目標として、主体性のある行動を心がけ、課題発見力を身につける。また傾聴力、状況把握力、実行力を伸ばすことを設定した。まず、主体性については、実習に対する姿勢に気をつけたことで目標を達成することができた。病院という大きな組織の中で実習させていただいたため、最初は失敗やご迷惑をおかけしてしまうことを恐れて、自ら意見を言ったり行動したりすることができなかった。しかし、このままでは何も成長できないと考え、常に実習中の仕事の意味を考えるようにすることで主体性のある言動を取れるようになった。そして、課題発見力も自分が行っている仕事の意味を考えながら取り組んだことで身につけることができた力だと考える。例えば、資料作成の課題を与えていただいたときは、なぜその資料が必要なのか、誰がどのように使用する資料なのかを考えながら作業した。そうすることで指示された部分以外で入力が必要な言葉を発見し、資料の完成度を更に高めることができた。傾聴力は仕事理解をする際に発揮できたと考える。私は医療事務にかかわる知識をほとんど持っていなかったため、指導担当の職員の方々に一つ一つ教わった。その時、素直に話を聞き、一度教えていただいたことと関係づけて理解していくことで積極的に質問をするようにした。相手にしっかり話を聞いていることを伝える意味も込めて、教えていただいたことは素直に聞き質問することを心がけ、傾聴力を伸ばすことができた。また、与えられた課題や業務に関する質問をする際には状況把握力を発揮できた。どの部署の事務職員の方もとても忙しくされており、指導担当の方も普段の仕事に加えて私の実習を見てくださった。自分の都合で質問するのではなく相手の状況を考えた言動を心がけることで、今まで以上に状況把握力を伸ばすことができたと考えた。最後に、実習前に設定した自己達成目標を自分なりに工夫して達成できたことは実行力をつけることに役立った。

病院の職員の皆様の貴重なお時間をいただきながらも実習させていただけたことで、人として大いに成長することができた。この実習で得た糧をこれからの学生生活で発揮していきたい。

「岡三証券株式会社」

インターンシップでの学び

企業 表象文化学部 英語英文学科 3年次

私はインターンシップで証券業界についての知識を得ることと自分が身につけている礼儀作法や言葉遣いが社会に出た時に通用するのか確かめ、改善することを目的として参加しました。これらの達成目標として積極的な行動、疑問に感じたことをすぐに質問する、社員の方や参加する学生とのコミュニケーションを取る、メモをたくさん取るなどを心がけました。私は岡三証券株式会社にインターンシップに参加して学んだことが3つあります。

1つ目は証券についての知識です。最初は証券取引について知識の無かった私たちに、社員の方々がとても真摯に分かりやすく教えてくださり、株式とはという基本的なことから詳しい分析の仕方まで理解することができました。参加する前は、ずっとパソコンと向き合って作業しているというイメージでしたが、銘柄選定のワークを通してテクニカル分析・ファンダメンタル分析をはじめ、ニュースや業界全体の動きなどあらゆる視点から考えて選定していることを知りました。学生が一人ずつ選定した銘柄を発表する際にそれぞれが注目しているポイントはバラバラで、証券に誰が正解・不正解というのは無いのだということを学び、株式の難しさと共に奥深さを感じました。

2つ目はニュースの見方です。五日間毎朝、日経新聞の読み合わせの時間があり、そこで一人ずつ気になった記事を挙げて意見交換をしました。その時、社員の方にその記事について感じたことや社会に対してどのように関連するのか、株価の動きにどう影響を及ぼすのかを聞かれました。この経験から、ただ自分の意見を言って終わるのではなく、一つの出来事に対しても深く考察し、社会への影響を考えることが大切だと感じました。「新聞に載っていることは点であり過去のことであるが、記事を深読みし類推することで未来を見据えることができ、点が線、面、立体へと変化する」という社員の方の言葉に感銘を受けました。ニュースからその先を予測し、先んじて株式取引を行う証券会社の社会に対する先見性を知りました。今までは単なる流行だと思っていたファッションや文化が株価や市場を動かす要因であったことに気づき、社会を見る目が変わると思いました。

3つめは証券会社の営業職についてです。最終日には選定した銘柄を提案営業するロールプレイングを体験し、営業の難しさと責任を感じました。特に社長役の方にヒアリングをするのが難しかったです。この経験から、自分の聞きたい情報を聞くだけではお客様の本当のニーズを知ることはできない、一歩踏み込んで関係性を深めることで信頼や安心感を持ていただけたと思います。また、提案営業で相手に良い印象を与える話し方や正しい敬語の使い方は、まだまだ改善する必要があると思いました。

このインターンシップは就職活動を進めるうえでの大きな分岐点となりました。このような貴重な経験をさせてくださった岡三証券株式会社の皆様、機会を設けてくださったキャリア支援部の方々、本当にありがとうございました。

「株式会社ホテル京阪マネジメント」

「インターンシップに行く際に設定した目標と達成度、そしてインターンシップに行って学んだこと、発見したこと、振り返り」

企業 表象文化学部 英語英文学科 3年次

インターンシップに行くにあたり、私自身でいくつか目標を設定していた。そのいくつかの中から特に重要視したものを2つあげようと思う。

1つ目は受け身の姿勢になるのではなく、主体的に動き、自分に何かできることはないか、何ができるのかを考えながら行動すること、そして、2つ目はインターンシップを通して業務内容を理解し、自分のできる範囲で精一杯頑張ることの2つだ。そして設定したそれぞれの目標に関して、自分なりに達成度を振り返ってみようと思う。まず1つ目に設定した目標に関しては、業務を行っていた際、なるべく指示待ちになるのではなく、自分で何ができるか考えてみて、それでも何を行なったらいいか、分からなくなったときに、周囲の人に自分から「何かできることはありますか？」と声をかけに行って、なるべく手持無沙汰にならない状況を自ら作るように心がけて行動することができたと思う。

2つ目に設定した目標に関しては、主に業務はホール作業が多く、自分自身、飲食経験があまりなく、初日のあたりはあたふた焦って行動したことが多々あったが、日程を重ねていくごとに少しずつ業務内容を理解し、行動に移せた場面も多かった。例えば、料理が厨房からあがってきたときに取りに行き、自身の持てる数と量をお客様の元に持って行ったり、お客様が食事をされている最中に食べ終わっているお皿があったら、一言声をかけてお皿を下げるようにしたりと、自主的に動くよう心掛けて、自分なりに精一杯頑張ることができたと思う。

インターンシップが終わってから、自身で色々振り返ってみて学んだことや発見したことが多々あった。その中でも特に重要であると思ったことをいくつかあげようと思う。まず、相手の立場になって考えるということである。もし、自分が客の立場だったとしたら「食べ終わったお皿は早く下げてほしい」「席まで案内されるときに無駄に会場内を歩き回るのはなく、最短距離で行きたい」など、自分を相手の立場に置き換えて考えてみることで、どうすればお客様に快適に過ごしていただくことができるのか、自身の行動のきっかけになると学んだ。そして、挨拶がとても大事であると改めて発見した。自分の中のホテルのイメージは、静かであるべく物音を立てずに行動することが基本なのではないかという印象を抱いていたが、実際は、挨拶の声も大きく、ホール業務をする際、お客様が料理を食べ終わっているかどうかの状況確認など常に行動する場面が多く、静まりかえっている環境を想像していたが、実像は活性した現場で常に動き回っているという印象を受け、自身で思い込んでいるイメージの中で行動するのではなく、その枠組みにとらわれることなく行動するということがとても大切であると発見した。インターンシップで得た多くの学びや知識、視野を自身の生活習慣に取り入れ、一日一日を実りある日にしながら日々生活していこうと改めて実感した。

「株式会社JTB マレーシア支店」

異文化体験とともに見た社会

企業 表象文化学部 英語英文学科 3年次

まずは初めての1 day以外のインターンシップということと異国の地ということで、しっかりと自分は業務をこなすことが出来るのか、そもそも円滑にコミュニケーションをとることが出来るのかなど、期待や楽しみな気持ちが大きい反面、不安な気持ちもたくさんありました。

しかし、そんな不安も吹き飛ぶような充実したインターンシップを終えることができました。私は株式会社JTBマレーシア支店にインターンシップへ行ったのですが、業務を任せられるより前に感じたことはマレーシアは多民族国家であるということでした。

マレー系や中華系、ヒンドゥー系など、たくさんの民族が当たり前前に共生していました。私自身は旅行業界に就職がたくてこのインターンシップに参加を決めたので、海外勤務に関しては興味があるというくらいのふわっとした気持ちだったのですが、このインターンシップでの1番の学びは、マレーシアという国で海外勤務の体験が出来たことです。1番の理由としては業務体験とともに異文化体験をすることが出来たからです。

私は、会社での業務に対して私語は慎むべきだとされている印象だったのですが、実際に社内を見渡してみるとコミュニケーションが盛んに行われていました。多民族国家なので、それにともないマレー語や中国語、ヒンドゥー語や英語など様々な言語が飛び交っており、とても新鮮な気持ちになりました。このように多文化が共生している環境に身を置くのも初めてでしたが、みんながお互いを尊重しあっているのが会話などから伝わりました。盛んにコミュニケーションが行われていることで普段から業務内容の共有が行われており、部署間のつながりが強く感じられました。そして私自身が感じたメリットとして、とても質問がしやすい環境であるということでした。和気あいあいとした雰囲気なので疑問や不明な点がある場合には即座に指示を求めることが出来ました。作業を丁寧にすることや、真面目にたくさんやり遂げることももちろん重要ですが、それと同じように、コミュニケーションをとりやすい雰囲気づくりもより良い仕事をするうえで、とても必要なのだと改めて分かりました。

そして業務内容に関して、アウトバウンドの表であったにも関わらず、観光地から観光地への移動時間、予算、どこにホテルを取るのかなど考慮すべき点がたくさんあり、作成に大分時間を要しました。この経験から旅行業界に就職するには日ごろから色々な場所の観光地をリサーチしたり、季節ごとのイベントを確認しておくなど情報に敏感で、しかも効率よく満足のできる旅行プランを立てられるような人である必要があるのだと学びました。異文化の交流をしつつ、旅行業界の仕事を体験できたとても充実したインターンシップでした。

官公庁

〔彦根市役所〕

インターシップを通して

表象文化学部 英語英文学科 3年次

今回のインターンシップに応募した理由は、公務員という職業に興味があり、実際に体験することにより、公務員という職業に関する理解がさらに深まると考えたからです。また、彦根市は滋賀県の観光地でもあり、私は観光にも興味があったため、彦根市役所の文化振興課で実習がしたいという面もありました。今回のインターンシップでは、8月30日から9月18日の期間のうち、10日間参加し、彦根市美術展覧会の運営補助に携わりました。職員の方や、会計年度の方、他大学の実習生とともに、搬入から搬出までを行う中で、大きく分けて2つのことを学びました。

1つ目は、1つのイベントを開催するにあたり、開催するまでの期間、思う以上に、たくさんの準備があるということです。地元の市の美術展覧会に行った時に、市役所の職員の方が受付をされており、そのようなイメージしかなく、開催するまでの裏の部分を知ることがありませんでした。しかし、今回のインターンシップを通して、開催にあたり、たくさんの業務があり、とても大変だということが分かりました。1年以上前から、美術展覧会を開催するための会場の予約や、作品を飾るためのパネル設営、また、作品を持ってきてくださった方の名前や住所の確認を複数人で何回も行うなど、想像していた以上に、様々な準備があることを学びました。このような準備から、市民の方に美術展覧会を楽しんでもらいたいという思いや、業務に関する責任感が随所に見受けられ、社会人として働くということの重みを感じました。

2つ目は、地元を拠点とした働き方の面白さということです。就職活動をするにあたり、どの地域で働くかということとは、大きな選択ですが、まだ、その部分をしっかりと決められることができていませんでした。実際にインターシップを通して、美術展覧会を楽しみにして来られる方がたくさんおられました。作品を展示するために持ってこられた方の中には、毎年美術展覧会を楽しみにしていて、作品を描くことが生きがいだと言っておられる方もたくさんおられました。このような市民の方の声を直接聞き、市民の方が快適に過ごせるような仕事をしたいという思いが芽生えると同時に、地元で働くことの面白さを感じることができました。

今回のインターンシップを通して、公務員として働くということを具体的に想像することができました。職員の方々の仕事に対する思いや姿勢を間近にし、社会人として働くことの責任感を改めて知ることでもできました。また、今回のインターンシップを通して、自分が将来なりたいと思う姿を具体的に想像することができました。今回のインターンシップを通して学んだことを、今後の就職活動や、残り少ない学生生活に活かしていきたいと思います。最後になりますが、10日間という長い期間、貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

官公庁

〔守口市役所〕

インターンシップ学を通して学んだこと

表象文化学部 英語英文学科 2年次

守口市役所で10日間のインターンシップをさせていただきました。このインターンシップに応募した理由は、将来、公務員として地域の発展や活性化に携われる仕事がしたいと考えていましたが、具体的な仕事内容が分からなかったため、実際の現場に立って経験したいと思ったからです。このインターンシップを通し、公務員という職業に対する理解や仕事をする上で大切なことを学ぶきっかけになりました。

実習を通して、公務員に対するイメージが大きく変わりました。実習に参加する前は、1人で業務を黙々とこなしていくようなイメージがありました。しかし、実際は、職員全員が社会の現状を知るために様々なことにアンテナを張り巡らせ、市民の暮らしやすい街づくりを考えておられ、会議の際は積極的に意見を出し合っておられました。また、職員の方々に仕事内容について話をお聞きすると、全員が自分の業務に誇りややりがいを感じておられるようでした。

実習期間で学んだことは、チームワークの大切さです。私が配属された企画財政部魅力創造発信課では、市民対応や守口市の魅力を市民の方や市外の方に知ってもらうためにイベントを企画したり、SNSや広報などで情報を発信していたりしており、その仕事は多岐に渡っていました。仕事は分担して行われていましたが、個人で抱えきれない問題があれば、職員の方々と話し合い、助け合っている姿を目の当たりにしました。私自身与えられた仕事で手一杯でしたが、職員の方々が何度も声をかけてくれ、アドバイスをいただきました。チームワークを高めることで、1人で達成することが難しい仕事でも、力を合わせればやり遂げることができるということを改めて感じるすることができました。

反省点としては、仕事をする上でパソコンスキルが足りておらず、職員の方々に迷惑をかけてしまったことです。前年度の実習生の記録として、WordやExcelが使いこなせるようにと書かれていたので、事前に練習して実習に臨みましたが、作業をしてみると、記入ミスがあったり、やり方を聞いたりすることが多くありました。この反省を生かし、大学在学中にパソコンを使いこなせるようにすることで職業選択の幅を広げていきたいです。

今回のインターンシップに参加するまで、自分自身が社会で「働いている」イメージを持つことができませんでした。しかし、様々な業務を体験させていただき、一つ一つの業務が社会に貢献していることが分かり「働いている」実感を持つことができました。また、実習に参加しなければ得られなかった多くの学びや、また、自分自身の未熟さを感じることもできました。これらの経験を大学生活や就職活動に生かしていきたいと思います。

最後になりましたが、守口市役所の皆様、お忙しい中、あたたかく指導してくださり大変感謝しています。初日は不安もたくさんありましたが、充実した10日間を過ごすことができました。ありがとうございました。

企業

〔株式会社ノバレーゼ〕

インターンシップを通して学んだこと、気づいたこと

表象文化学部 英語英文学科 2年次

私はブライダル業界のレストラン部門で、8日間インターンシップに参加させていただきました。その中で、本場のスタッフの方々のサービスを間近で見ることができたことと、そして、それを現場で実践できたことは非常に大きな学びとなりました。ドリンクを注いだり料理をお出しするという、一見シンプルに見える仕事1つでも、多くのお客様がいつどう動くか分からない中、接触したり場の雰囲気や壊したりせずに、かつスピードも意識したスマートなサービスをするのはそう簡単ではありませんでした。お客様と話す時の表情や言葉遣い、綺麗なお辞儀や拍手の仕方なども洗練されていました。また、最初は気づきすらできなかったのですが、実習の日数を重ねるにつれ、もっと細かいスタッフの接客技術を拝見することができました。どのシルバーやグラスを使うかやメニューの説明をする際、すんなり理解できるようにお客様の視線を身振り手振りで誘導していたり、婚礼中に行われる様々な演出を完璧に把握し、常にお客様に邪魔にならない場所にいられるようにサービスの順番を工夫していたりなど、徹底したお客様への配慮には驚かされました。このように、想像以上に細かな点まで学ぶべきことがたくさんありました。サービス業界を目指す私にとって、具体的かつ確実に自分の糧になっていることを実感しています。

また、インターンシップを通して新たに気づいたことは、良いサービスの根本には、お客様に心から満足してもらいたいという思いがあるということです。サービス業なのだから、お客様を思うのは当たり前というように感じるかもしれませんが、その当たり前をするのがどれほど難しいかを実感することができました。接客にはある程度決まった型がありますが、必ずしもそれが正しいとは限らないのだと思います。ときにはマニュアルよりも優先すべきことがあって、そして、それは全てお客様の快適さを考えた故でのことでした。スタッフの方々のその場の状況に合わせて臨機応変に対応する力は素晴らしいかったです。私ができるようになるにはまだまだ経験が浅いですが、インターンシップを通して、これらの技術を間近で見ることができて自分の未熟さや足りない部分を自覚できて良かったです。

また、今回現場に入らせていただいて、これほど私たちの働きが直接お客様の役に立っていることを直に感じられる仕事は他にないのではないかと思います。私はブライダルの仕事をさせていただくのはもちろん、結婚式にも参加したことはありませんでした。実習生というそこまで深くお客様と関わるのがない立場の私でさえ、お客様の嬉し涙や笑顔を見るととても心が温まり、幸せを感じるすることができました。お客様の幸せをサポートする素敵な仕事だなと思います。貴重な経験をさせていただいたことを感謝しています。私はキャビンアテンダントを目指していて職種は違うのですが、ためになる部分は多くあると思います。この経験を生かしつつ就職活動に励みたいです。

日本語日本文学科

〔SMBC日興証券株式会社〕

「10日間の学びと「働くこと」について」

企業

表象文化学部 日本語日本文学科 3年次

この実習での一番の収穫は、自分の中での「働くこと」についての考え方が変わったことです。10日間、様々なプログラムをご用意いただき、今までにない貴重な経験をさせていただきました。新しい知識を習得し、様々な人と関わる中で、新しい考えや今までの自分の意見に変化が生まれました。

実習に参加するにあたって、私はふたつの目標を掲げました。1つ目は、「大学の講義では学ぶ機会のない金融の知識を身につけ、今後の就職活動や人生設計に役立てること」です。この目標は、毎日の日経新聞読み合わせや金融基本講座での知識習得により達成することができました。毎朝、日経新聞を読み、国内だけでなく世界で何が起きているのか、それが社会にどんな影響を及ぼすのか考えることは、就職活動の企業選びにも役立つほか、資産運用をするときにも必要だと思います。今後も日経新聞を読み続けて、社会への興味を絶やさず、実習で得た知識を定着させるとともに、実際に役立てていきます。

2つ目は「グループワークにより、様々な人の意見を吸収し自分の考えに活かすこと」です。グループワークでは「10年後、時価総額の上昇率が最も高い企業」というテーマで、限られた時間の中で発表準備を進めました。金融の知識がほとんどなかった私は、チームに貢献できるかととても不安でした。しかし、発表準備を始める前に金融ボードゲームでのアイスブレイクを用意してくださり、早い段階でメンバーと打ち解けられたので、最後まで良い雰囲気で行進することができました。最終的なプレゼンテーションの順位では上位に入ることはできませんでしたが、自分にできることを見つけて、最大限の貢献ができたと思います。話し合いの中では、自分の考えを発信すると異なる意見が徐々に出てきて、今後の自分の考えにも活かせることを吸収できました。

目標に設定したこと以外にも、得られた知識やスキルは多くあります。今回の実習を担当くださった法人部法人課の皆様、若手社員体験談や部署・業務紹介で登壇してくださった皆様、合わせて10人以上の社員の方々のお話を聞く機会がありました。実習先の社員の方々に共通することは、年齢やキャリアに関係なく常に成長を追い求めていることだと、私は感じました。止まることなく変動する市場に敏感に反応することが求められる証券会社だからこそ、次は何ができるか、何をやってみたいかと常に考えて仕事に向き合っているんじゃないかと感じました。また、その変化や成長を楽しんでおられるようにも見えました。私はこのような働き方に憧れを抱き、成長し続けられる企業に就職したいと考えるようになりました。

最後になりましたが、法人部法人課の皆様には、長い間大変お世話になりました。お忙しい中でご準備いただいた素晴らしいプログラムにより、充実した実習期間を送ることができました。10日間、貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

〔京田辺市役所〕

官公庁

「市のために働くという仕事」

表象文化学部 日本語日本文学科 3年次

この実習を通して学んだことは大きく分けて2つある。1つ目は、市のために働く仕事がどのようなものなのかだ。実習の中で補助金対応の事務作業を手伝わせていただく機会があったのだが、その1つの補助金にしても、市や公共のためになっているか否かが申請の基準となっている。事務職というと、ただ淡々と事務作業をやり遂げていくというイメージがあったが、これは市や公共のためになっているだろうか、これは規定されたものに基づいているだろうかなど、考える機会が多くあり、そのひとつひとつの手順を蔑ろにせずに丁寧に遂行しており、事務職のイメージが変わった。

また、市民参画課は「市民協働」という考え方をとても大切にしている。市民協働とは、市役所と市民だけではなく解決できない問題を、市民活動団体を通して市役所に伝えてもらい、市役所が市民活動団体をサポートすることで解決に繋げていく、市役所・市民活動団体と同じ目的を持つものが、ともに協力しあってより良いまちづくりを目指すというものだ。これを実感したものとして、今年初開催であったお祭りがある。お祭りは市役所外の団体が中心となっており、それを市役所がサポートすることで、団体の方も安心して動くことができ、今回の経験を生かして、次も中心となって動いてみようと思うことができる。全面的に市が仕切るのではなく、地域に根付いた方々と共に、というのが今の時代にはとても適していると感じた。

2つ目は何のために働くかだ。京田辺市の南部にあるまちづくりセンター「ミライロ」に出入りする機会が多かったのだが、ここで学ぶことはとてもたくさんあった。まず、この「ミライロ」は他のまちづくりセンターと違って、そこへ出入りする人たちが中心となって動いている。これもまた市民協働の一環とも言えるが、そこでは中学生が新聞を作成していたり、イベントを企画していたり、同志社大学、同志社女子大学の学生がカフェを経営していたりする。それぞれがみんな「誰かのために」しているのだ。就職活動をしていく中でぶれそうになっていた「私が、何のために働きたいのか」を見直す機会となった。それは人によってたくさんあると思うが、私も人のためになることがしたいと思っている。なかでも現在大学で学んでいる日本語教育を通して、外国人児童のためになることができたらしと思っている。就職活動やインターンシップをする上で一番大切にしなければいけないことを思い出させてくれる機会になり、誰かのために動く熱量を肌で感じることで、とても貴重な機会になった。

インターンシップに行くまでは現実的ではなかった働くことについて現実的になり、自分に対しての理解も深めることができるとても良い経験となった。これからの大学生活を通して、今しかできない経験をしながら、今回学んだことを活かしていきたい。

〔岸和田市役所〕

官公庁

「インターンシップでの学び」

表象文化学部 日本語日本文学科 3年次

岸和田市役所での8日間のインターンシップ実習を終え、市役所の仕事について学ぶことができたと感じています。岸和田市役所を志望した理由は、公務員という仕事に興味があり、実際に仕事内容を自分の目で見て体験したいと思ったからです。

今回は、「子育て支援課」「市民課」「広報広聴課」の3つの課で実習を行いました。子育て支援課ではチビッコホームについて知ることができました。支援員の方が不足している時には、子育て支援課の方が補助として現場に行くこともあると教えていただきました。チビッコホームの設備が壊れた時には修理を行ったり、業者の方に連絡を取ったり、そして、支援員の方のお給料の計算も行っていると教えていただきました。市民課ではマイナンバーカード・戸籍・住民・パスポート・総合窓口担当の業務を体験させていただきました。直接市民の方と関わりを持つ課だからこそ、間違いがないように、必ず二人以上で確認を行っていたことが印象的でした。実際に発券機の前で案内を行い、その方に適した案内をすることができました。また、スムーズに案内するためには、次の行動まで考える必要があると感じました。広報広聴課ではSNSの更新、「広報きしわだ」の作成、岸和田の特産品の取材に同行、「広報きしわだ」の表紙決め会議に参加させていただきました。「広報きしわだ」は、レイアウトから考えていると教えていただいたことが印象に残っています。実際に作成してみると記事に使える大きさが決まっているので、場所内に上手く収めることが大変でした。広報誌の作成に携わったことで今後は広報誌を読みたいと思いました。取材では、話を聞く時の姿勢や話を広げるための話題の出し方などを学ぶことができました。

これらを体験したインターンシップで3点のことを学びました。1点目は様々なことに気を配って幅広い知識を持つ必要があるという点です。子育て支援課で突発的に起こった出来事に対して迅速に対応されている職員の方を見て、私もそのように行動できるようになりたいと思いました。2点目は周りの人とコミュニケーションをとることの大切さです。特に市民課では担当の方に仕事をお願いしたり、確認をしてもらうためにコミュニケーションが活発であったと感じました。この取り組みが、間違いを起こさないために大切なことであると理解しました。3点目は新聞を読むことの大切さです。広報広聴課では、他の市町村の取り組みを知るために新聞を読んでいると教えていただきました。新聞には、参考にしたいと思う取り組みが多く掲載されていると今回知ることができました。市役所各課は、市民の方がより良い暮らしを送れるように様々な方向からサポートを行っていると思うと学ぶことができました。今回のインターンシップで学んだことを活かし、今後の大学生活を送りたいと思います。

〔近江八幡市役所〕

官公庁

「インターンシップを通して」

表象文化学部 日本語日本文学科 3年次

私は図書館司書になるという夢があります。そのために図書館司書資格を履修しているのですが、「自分は図書館司書に向いているのだろうか、仮に夢が叶ったとして現場とのギャップに苦しむことにならないだろうか」と就職活動を進めていくうちに考え始めました。そんな中、このインターンシップを知り、図書館司書の仕事を学び上記の悩みを解消するために参加を決めました。

図書館の仕事とはとにかく多忙を極めていました。配架や書架整理、カウンター業務などの基本的な業務はもちろん、新書本の処理作業や特集展示、講演会の準備など臨時業務もたくさんあります。さらに近江八幡市は広いため、移動図書館で市内を周って本を届けなければならず、そのため、そこでのカウンター業務はもちろん、持っていく本を選書して車に積み込む作業もあり、私はこれが特に印象に残りました。これは、私の住んでいるところに移動図書館が無いため新鮮だったという理由もあるのですが、なによりも同行させていただいた際に、暑い中でも笑顔を絶やさず対応する司書の皆様の姿勢や、午後の就業時間丸々使っても、本を届けるという使命感に惹かれたことが大きいです。移動中にお聞きした、月に一度は離島に本を背負って届けに行く話や移動図書館業務は息抜きみたいなものだとおっしゃっていたのにも感銘を受けました。

また、レファレンス業務も印象に残っています。最初は不慣れなこともあり、利用者様からの質問にうまく応えられず司書の皆様に頼ってしまっていました。しかし、このままではいけないと思い、配架や書架整理を率先して行い、どこにどんな分類番号が振られているかを覚えるようにしました。その結果、後半の3日間は不慣れながらも、このジャンルの本はどこにあるかなどのレファレンスには応えられるようになり、利用者様に感謝される機会も増えてきて、自分の知識で人の役に立てることの嬉しさを感じられて、とてもモチベーションが上がりました。また、これはレファレンス以外にも言えるのですが、特定の本を所望された際にコンピューターを使うことがあったりデータを入力をする機会がそれなりにあったりしたのですが、あまり上手くできなかったのも、情報系の勉強をしなければならないと思われました。

図書館司書の仕事は思っていたよりもたくさんあって忙しく、身体を使うことも多かったのが大変でしたが、そのどれも苦痛だとか嫌だとかの不快感情を抱くことはなく、楽しんで行えたので、やっぱりなりたいのだと改めて思わせてくれました。図書館司書は公務員だということもあり、中々に競争率の高い職業です。そこで私はこれからの大学生活を通して、勉学に励み資格を取得するのももちろんのこと、学内での納架アルバイトや図書館サポーターなど、今だからこそできる図書館に関する体験を全力で取り組んでいきたいです。

〔茨木市教育委員会（三島中学校）〕

学 校

「インターンシップを通して気づいたこと」

表象文化学部 日本語日本文学科 2年次

中学校のインターンシップを通して、様々なことを学ぶ機会を得ることが出来ました。その経験から以下の4つの点が特に印象に残りました。

まず、実際の職場で働くことの重要性についてです。学校の授業では、理論的な知識や概念を学ぶことが多いですが、インターンシップでは現実の職場に身を置くことで、実践的なスキルや仕事の流れを学ぶことが出来ました。次に、職場でのコミュニケーションの大切さです。私はその中で、実習生の先輩方や先生と円滑にコミュニケーションを取ることが、仕事の効率性やチームワークを高める上で重要だということに気づきました。また、実際に問題が生じた際には、柔軟な思考力や解決策の考え方が求められることもありました。その様な経験を通して、チャレンジングな状況に臨んだり、自分の考え方を柔軟に変えたりする必要性を学びました。次に、自己管理能力の重要性です。中学校のインターンシップでは、決められた時間内にタスクをこなすことや、自分自身を効果的に管理することが求められました。また両立も必要であり、時間の使い方や優先順位の付け方に気を配る必要がありました。これらの経験を通して、自己管理能力の重要性を実感し、自分自身を効率的に管理する方法を学ぶことが出来ました。最後に、職業意識の向上を図ることが出来たことです。インターンシップでは特定の職業や業界についての知識を深める機会がありました。具体的な仕事内容や役割に触れることで、将来の進路やキャリアについて考える良いきっかけとなりました。また職場での先輩方の経験や姿勢を見ることで、自分自身の職業観や働く意義についても考えることが出来ました。この経験を通して、自分の将来についての目標を見つけることや、自身の興味や適性にあった職業を模索することの重要性を学びました。

これらのことから、私は今回の中学校へのインターンシップを通して、実践的なスキルや考え方を学び、職場でのコミュニケーションや問題解決力、自己管理能力の重要性を実感し、自分自身の将来についても考える機会を得ることが出来ました。この貴重な経験を通じて、将来の進路選択や自分自身の成長についての考え方を深めることが出来たと感じています。

今回のインターンシップは将来の選択肢を広げるために参加しました。大学2年生からアルバイトではなく、一社会人として企業で働かせていただくことで、社会の中で生きていくことの大変さや今まで感じたことの無いような達成感を得られました。このインターンシップを通して、自ら行動する力を身につけられたと思います。何かわからないことがあれば質問をし、難しいなと思ったことも出来なくても挑戦する心は大切であると実感しました。

〔岡三証券株式会社〕

企業

「インターンシップを通して学んだこと」

表象文化学部 日本語日本文学科 2年次

私はインターンシップを通じて、4点のことを学んだ。

1点目は、社会で働くとはどのようなことなのかについて学んだ。インターンシップに参加する前は、社会で働く具体的な姿を想像することができず、不安が大きかった。今回、インターンシップに参加することで社会で働く姿具体的にイメージできるようになったことが、最も良かったことだと考える。私は、以前は働くということをとて難しく考えていた。しかし、仕事も専門的な要素こそ強くはなるが、学校の勉強の延長のようなものだというのに気がついた。岡三証券株式会社では、専門的な知識を細かく教えていただいた。初めてのことはどのようにすれば良いか教わりながら、専門的な知識を自分自身で自分のものにしていき、仕事に繋げるという「勉強」で「仕事」も成り立っているのかと感じた。

2点目として、マナーやルールの重要性を学んだ。岡三証券株式会社では、マナーについても教えていただいた。アルバイトなどで身につけたつもりになっていても、社会の土台のようにあたりまえとされていることでも、いかにできていないかを痛感した。そして、マナーやルールがどのように仕事に関わってくるかを理解することができた。今までマナーやルールは大切にしようという程度の考えだったが、少しの言葉や所作の違いで接客の雰囲気が大きく変わり、それが仕事に直接関係することを実際に感じることで、マナーやルールが社会においていかに重要で守るべきものなのか考えるきっかけとなった。

3点目は、証券会社についてである。インターンシップに参加をする前は、証券会社について調べてみても、具体的にどのようなことを行なっている業界なのかがあまり理解できていなかった。しかし、丁寧に証券会社とはどのようなものなのかということから、その役割、また専門的な知識を細かく教えていただくことで、証券会社について正しく理解することができ、金融業界についてのイメージも明確になった。また、私は株や投資について勝手なイメージを持っていたことで、自ら調べてみても正しい見方をできていなかったが、実際に証券会社の方のお話を聞き、自分の中の株や投資に対するイメージが大きく変わり、経済に対する関心が高まった。

最後に4点目として学んだことは、社会の動きと経済の関係についてである。岡三証券株式会社では、毎日その日の日経新聞朝刊を使用し、読み方を教えていただいた。実際に最近起こったニュースをもとに経済の動きについて考えるのは、経済の動きをとて身近に感じる事ができた。また、お金の動きについても詳しく知ることができた。社会の動き、経済の動向、お金の動きの知識は、今後社会人として生きていくうえで身につけておくべき大切な内容であるので、それを知ることができたことで社会を見る目が広がったと感じる。

〔株式会社ハヤシゴ〕

企業

インターンシップ実習で学んだこと

表象文化学部 日本語日本文学科 2年次

今回、株式会社ハヤシゴで5日間のインターンシップに参加させていただきました。5日間の主な実習内容は、営業トークセッション、サンプル撮影、集結セール準備、商品説明会、工場見学、トップセミナー、履歴書・エントリーシート添削です。

まず、参加を決めた理由は2つあります。1つ目は、ものづくりに興味があり、商品企画の仕事に就きたいと考えているということです。私は、以前からものづくりに興味があり、商品説明会や工場見学からものづくりについてより深くまで学べると思いました。2つ目は、社会に出るということとはどのようなことなのか知ることです。実際にインターンシップに参加することで社会に出るということを経験するのではないかと考えました。

インターンシップで学んだことは、コミュニケーションを取ることの大切さです。それを実感したのが、集結セール準備と商品説明会です。集結セール準備では社員の方々同士が積極的にコミュニケーションを取ることで、円滑に準備を進めていました。また、実習生に対しても細かいところまで指示を出し、コミュニケーションを取っているのが印象に残っています。商品説明会では、各店舗で働く社員の方々を招き、コミュニケーションを取っていました。また、各店舗で働く社員の方々同士もコミュニケーションを取ることで、情報を共有していました。そうすることで、今店舗で売れている商品や伝えたい商品の特徴などを、実際に店舗で働く社員の方々の声で聞くことができます。本場で働く社員の方々から各店舗で働く社員の方々まで、全員が同じ方向を向き、同じ目標に向かって進んでいるのだと感じました。私自身も、学校生活やサークル活動、アルバイトでもコミュニケーションを取ることを意識し、行動しようと思いました。

さらに、このインターンシップを通して、商品企画の仕事にという夢が強くなりました。商品説明会では、社長様が自ら商品の特徴やポイントについて伝え、1つの商品に対する工夫が良く分かりました。工場見学では、素材である革を触れ、その革が靴になっていく過程を1から見ることができました。工場で働く職人さんから話を聞く機会もあり、貴重な経験をさせていただきました。1つの商品ができ、私たちの元に届くまでには、商品企画の方や商品を作る職人の方、その商品を販売する方など様々な人の手加わっているということが良く分かりました。そして、その経験から、多くの人が喜んでくれる商品を作りたいという更なる夢を持つことができました。

最後に、私はこのインターンシップに参加することで、新たな夢を見つけることだけでなく、今後の自分の課題をたくさん見つけることができました。良いところは今後の学校生活や就職活動に生かし、見つけた課題にはしっかりと向き合い克服します。5日間という短い期間でしたが、多くのことを学べる濃い時間になりました。ありがとうございました。

〔一般財団法人大阪教育文化振興財団 キッズプラザ大阪〕

企業

インターンシップを通して学んだこと・気づいたこと

表象文化学部 日本語日本文学科 2年次

私がインターンシップを通して学んだこと、気づいたことは大きく分けて4つあります。

1つ目は、コミュニケーションの大切さです。普段の友人や家族とのコミュニケーションと社会人としてのコミュニケーションは、もちろん違います。分かっていましたが、初めての経験ということもあり一つ一つが新鮮で学びでした。例としては、年齢層が全く違う人との会話の仕方です。社員の方、ボランティアの高齢者の方、お客様である子ども、お母様、お父様など幅広い方達と関わらせていただきました。全員に丁寧に接することはもちろんですが、話す口調や速度などは変えていかななくてはなりません。普段フランクな言葉遣いが多いですが、それだけではなく、敬語はもちろん丁寧とフランクの中間での口調など難しいと感じることがありました。しかし、これらは慣れであり、最終日にはスラスラと話すことができたと思います。普段なかなか経験できない方達とのコミュニケーションは、良い経験になりました。

2つ目は、積極的に動かないと何もできないということです。指示待ちでは経験が積めません。せっかくの機会を無駄にしないためには、自分から積極的に質問し、輪の中に入っていくことの大切さ、難しさを学びました。もちろんインターンシップということもあり、皆さん優しくどんどん指示を出していただきましたが、忙しくなると自分で周りを見て今すべきことを考え、自分の役割を見分け、行動に移すことはとても困難でした。しかし、日が経つにつれ声かけやすることが判断できるようになり、自分自身成長を感じました。また、それがやりがいにも繋がると感じました。

そして3つ目に気づいたこととして、普段、接客する側ではなく、される側の立場からしか物事を見たことがなかったので、お客様の挨拶、感謝、世間話はこんなにも嬉しいものだと知りませんでした。これからも感謝の気持ちを忘れることなく生活していこうと改めて思いました。

最後に4つ目は、仲間との協力の大切さも学びました。今回行かせていただいたインターンシップ先では社員の方だけでなく、ボランティアの方たちと主に仕事をさせていただきました。ボランティアの方たちとは休憩時間も一緒に過ごさせてもらったので一日中一緒にいました。仕事中はもちろん休憩の際も気にかけていただき、たくさんのお話を聞かせていただきました。休憩時間も話していただいていたため、仕事でわからないことがあっても躊躇することなく、聞くことができました。また、ボランティアは高齢の方が多いため、親しくなったら積極的にしんどい作業を任せさせていただきました。このことから普段からのコミュニケーションは大切であり、助け合いがよりできるということが分かりました。

今回インターンシップに参加させていただき、普段できない貴重な体験ができて、とても良かったです。自分の至らないところ、得意なところに前より気づくことができ、学びに繋がったことは自分の中で素敵な経験でした。

●インターンシップ事前指導講義「目標・課題設定」



〔株式会社きんでん 京都支店〕

企業 「刺激的な日々の中での学び」

生活科学部 人間生活学科 3年次

株式会社きんでん京都支店で、8日間のインターンシップに参加させていただき、得たことや感じたことは大きく分けて3点あります。

1点目は会社全体で「安全」への意識統一を行なっていることです。社員の方々が毎朝安全の唱和を行ったり、VRを用いた安全体感教育で意見を交わしたりして、現場で作業している人だけでなく、事務社員も含めた全員で「安全」について考えている姿がとても印象的でした。インフラを支える最前線の会社としての真の姿がとてもかっこ良く、大変感動致しました。

2点目はパソコンのスキルアップの必要性です。どの部署においても資料作成があり、パワーポイントとエクセルの使用が必須でした。「相手に見せる」ことを意識すると、見やすく理解しやすい資料が求められることを再認識し、より良いものを作るために技術のスキルアップに取り組んでいきたいです。資料の中身も重要ですが、それと同時に作業時間にも気かけ、クオリティとスピードの両方にこだわって、資料作成が出来るように努力していきたいと考えています。また、エクセルに関しては、MOSなどの資格取得を目指したいと思うきっかけになりました。

3点目は会社全体の雰囲気の良いさです。部署の内外を問わずコミュニケーションが活発で、頻繁に意見が飛び交う現場を目撃し、より良い方向へと持っていく姿勢が何度も見受けられました。実習を通して、改めて一人で解決する仕事は無いと感じましたし、様々な掛け合いの連動の先に、人々の豊かな暮らしを守る仕事繋がっているのだと思いました。そして、社員の方々がやりがいと自信を持って、とても楽しそうに仕事をされていたことが印象的でした。社会人の目標にしたい方々に出会え、一緒に過ごさせていただいたことで、自分自身の働いている像を想像し、モチベーションアップにも繋がりました。

8日間という短くもとても充実した刺激的な日々の中で、楽しく過ごすことが出来ましたし、多くの学びもありました。インフラ業界を支える株式会社きんでん京都支店で実習させていただいたからこそ、私は多くの人と繋がりをもち、人々の豊かな生活の根源を支える仕事に就きたいと強く思うようになりました。実習を通して自分を見つめ直し、やりたいことを考えるきっかけになったのは、私にとって大きな成長だと思います。学生生活では経験出来ないような貴重な体験をさせていただき、感謝の気持ちでいっぱいですし、自分の人生の大きな財産になりました。今後もこの経験を糧にし、学生生活や就職活動、社会人になってからの将来にも活かしていきたいです。

〔株式会社IMAGICA Lab.〕

企業 インターンシップレポートで学んだこと

生活科学部 人間生活学科 3年次

私は株式会社IMAGICA Lab.のインターンシップに参加しました。実習前は不安もありましたが、無事に終えることができました。5日間ではありましたが、学べたことは多かったです。

私がお世話になったウエストクリエイティブグループでは、CM制作を行なっています。インターンシップ初日は、業界や会社の説明と会社見学でした。私は大学で住居関係の学問を専攻しているため、畑違いの企業ではありましたが、そのことを踏まえて、担当の方が業界や会社について詳しく説明してくださり、理解することができました。また、私が質問したことに関してとても丁寧に答えてくださり、感謝しています。

2日目以降は主に試写日の見学でした。試写日とは、編集し終えた映像をクライアントや企業の方を数人ずつお呼びして、準備した映像を見もらう日のことです。これは最終放送されるCMが出来上がるまでに何回か行われるそうです。私は最終試写日を見学して驚いたことがありました。それは15秒や30秒のCMに数時間かけて取り組んでいたことです。最終試写日まで何度か手直しをしているはずですが、最後まで細かい部分を修正し、納得のいくCMになるまで作業されていました。録画でテレビを見ている時は特に飛ばされがちなCMですが、その短い映像に、どの立場の方たちも最後まで妥協することなく取り組むプロ意識に感銘を受けました。最近はテレビ需要の低下もあり、私自身もテレビのCMは録画だと飛ばすことがほとんどでしたが、この現場を知ってからは、じっくり見るようになりました。また、試写日で興味深かったのは、企業によってエディターの方に注文することが異なっていたことです。ある洋服店のCMでは、実際の服の色味と映像の色味を近づける注文があったり、テロップのサイズや色の変更を注文したりする企業もありました。その注文にその場で対応しているエディターの方やアシスタントの方は、本当にすごいと思いました。

5日間のインターンシップではありましたが、指導担当の方や、アシスタントの方にお話を伺ったり、いくつかの試写日を見学させていただいたりなど仕事内容を十分知ることができるプログラムでした。初日に、入社するまでに行っておいた方がいい勉強や取得しておいた方がいい資格を伺った際、「PhotoshopとIllustratorをある程度使えること」と仰っていました。私はほとんど見学でしたが、この2つを扱うことができれば、少しパソコンを触らせてもらえたかもしれません。また、今思えば、見学時間にもう少し質問したり他の事務作業をお手伝いしたりなど、できることがあったのではないかと反省しています。しかし、右も左も分からなかった私が、ポストプロダクションについて理解することができたのは、株式会社IMAGICA Lab.の方々が短い期間のなかで、たくさんのお話や見学をさせていただいたからだと思います。とても充実した5日間でした。このプログラムに参加して得られたものはとても多く、参加して良かったです。

〔株式会社共立メンテナンス〕

企業 インターンシップを終えて

生活科学部 人間生活学科 3年次

8月21日から5日間、株式会社共立メンテナンス様でインターンシップに参加させていただきました。寮業界という初めて知った業界に興味を持ったこと、そして、私自身の就職活動の視野を広げることが主な参加理由です。

寮にはどこか閉鎖的なイメージを持っていた私にとって、今回の参加は非常に有意義なものになりました。2日目にフィールドワークで学生寮を訪問し、実際に生活する学生にお話をお伺いすることができました。その寮は学生主体で地域との交流イベントを開催するなど、自由で開放的な活気のある場所でした。皆がいきいきとしている姿を見て、イメージが180度変わり、私自身も寮生活をしてみたいと思いました。この経験から、実際に見ないとわからない、イメージだけで考えることは、物事の本質を捉えることができないと気づきました。まずは行動し、自ら知ろうとする気持ちがこれからの就職活動や社会に出てからも重要であると考えます。

最も難しかったことは、価値観の全く違う人と議論することです。今回のインターンシップの最終目標はグループワークで新たな寮を企画、提案するというものでした。私のほかに4人参加しており、5人で一つのグループでした。出会ったばかりの仲間と議論することは想像以上に難しく、論点が逸れ、意見がまとまりませんでした。短い期限の中で効率よく議論を進めるためにどうしたらよいのか考え、

1. 物事の優先順位を明確に共有する
2. 自分の役割を瞬時に理解し全うする

という2点を意識することが重要だと気づきました。1.はグループの方向性をまとめ、皆が同じ方を向くことが大事だと考えたからです。グループ初日はこれができず、意見が出るだけでまとまりませんでした。次の日から優先順位を皆で共有することを提案しました。すると軸が確立し、論点が逸れても、すぐに軌道修正をすることができました。

また2.は私がグループ内でどのように行動すれば良いかを考えました。私はリーダーなのか、支える側なのか。意見を出す側なのか、まとめる側なのか。周囲の様子をみて適切な行動をとるという判断力が必要なのではないかと思いました。今回、私は支える側に回り、軌道修正や意見をまとめたり、補足したりすることで議論が順調に進みました。

5日間のインターンシップを通して、寮業界という私にとって新たな業界を知ることができ、他にもいろいろな業界を見て知りたいたと感じました。視野を広く持つことで新たな発見が沢山ありました。そして、社会で必要な力とは何か、自分の適性とは何かを自分なりに深く考え、行動できたことで、自分自身の成長に繋がったと思います。

最後になりましたが、株式会社共立メンテナンスの皆様、お忙しい中5日間大変お世話になりました。たくさんの貴重な経験、温かいご指導すべてに感謝致します。非常に有意義な5日間となりました。ありがとうございました。

〔株式会社テレビ高知〕

企業 インターンシップを通して学んだこと

生活科学部 人間生活学科 3年次

今回、株式会社テレビ高知の2週間のインターンシップに参加して、自分の興味のなかった分野まで知ることができました。配属されたのは報道制作部で、実際に取材に同行させていただき、短い時間の中で取材で得た情報を取捨選択し、原稿を書くことをしました。ニュースの生放送の時間になるとリハーサルからスタジオで見学し、カメラを実際に扱ってみました。アナウンサーの方に発声練習や読み方の工夫なども教えてもらい、大変貴重な経験ができたと感じています。また、自分の調べた情報を自分の言葉、原稿で誰かに届けられている感動と、その分影響力が強く、間違った情報は流せないという責任があるお仕事なのだと知ることができました。

そんなたくさんの学びの中で理解したことは、取材は自分の世界を広げられるということです。高知県の県民ニュースから全国共通のニュースなど、さまざまな取材に同行し、時には裁判や知事選出馬会見、時には旬の魚などの取材に行きました。取材には事前に知識をつけることが大事だと感じました。特に裁判などは、今どういう状態でなにの事件の裁判か知らないと浅い内容になってしまいます。現に、取材に同行した初日で事前知識なしの原稿と、最終日の事前知識をつけた原稿では大きな差があります。このように、取材に行くことで自分の知らなかった世界や情報を深堀し、現地で取材することで興味が広がりました。実際に、高知県で取材した裁判は今でも情報を追っています。以上のことから、自分の興味のなかったことを深く知ることができるインターンシップだったと思いました。

また、私はこのインターンシップで自分について分析してみました。例えば、挨拶やお礼など当たり前のことはできること、2つの選択肢がありどちらか選べと言われると曖昧に回答せず、はっきり答えられること、初対面の人には声が小さくなってしまいますこと。この夏、いくつかの対面インターンシップ、Webインターンシップに参加しましたが、学生同士でのグループワークがほとんどで、社員の方と接することはあまりありませんでした。しかし、このインターンシップに参加したことで、初対面の社員の方には緊張して声が小さくなるということが分かり、これは他のインターンシップでは気づくことはできなかったと思います。これは改善もできるため、自分の成長にもつながりました。

今まで、テレビ局で番組制作をしたいと考えており、報道制作は興味がありませんでしたが、報道制作も一つの選択肢となりました。このように実際に体験してみないと自分のしたいことを探すことは難しいと思います。加えて、仕事を続けるために、自分のしたいことも大事ですが、自分のできることが活かせるかも重要となってきます。そういった客観的に自分を分析できるという点でも、インターンシップへ参加することは大事なと改めて思い、この経験を活かして自分の就職活動や将来が有意義なものになるよう頑張りたいです。

この度、株式会社さんでん京都支店でインターンシップ実習に参加させていただきました。大学でまちづくりや都市計画を学ぶ中、快適に生活し過ごすことができ、台風などの自然災害が起きても安心していただけるのは、インフラ設備を整え、それらを支えてくださる方がいるからだと感じていました。そのため、インフラ設備がどのようにして支えられているのか興味を持ち、今回のインターンシップ参加に繋がりました。

8日間、総務、統括、経理の3つのチームで実習をさせていただき、大きく分けて3つの学びがありました。まず1つ目は、他者の視点から考えることや一緒に働いている方々への心配りの重要性です。これは仕事とは一人で行うのではなく、人と関わりながら行うものであること、取引先や次の作業を行う方々など人に届けるものであることを強く実感したことで得た学びです。そして、人と良い関係性を築いていくことが、良い職場環境へとつながっていくことを学びました。続いて2つ目は、言葉の一つ一つを丁寧に理解することの重要性です。このようにすることで物事を深く理解することができ、今まで気がつかなかった問題点や疑問点が浮き上がってくることを教えていただきました。最後の3つ目は、自分なりの方法を見つけることの大切さです。これは実習を受ける中で、一つの仕事にかけられる時間が決まっているということを強く感じ、自分のやりやすい方法を見つけ、その方法の中で作業の効率化を行うことが重要だと考えたことから得た学びです。そして、自分なりの方法を見つけるために、周りの人たちを参考にすることも必要だということを教えていただきました。

上記の学びの他、今回の実習では自分自身に関する2つの気づきと改善点を見つけることができたと感じています。まず1つ目の気づきは、一つの作業に集中すると視野が狭くなる傾向があるという点です。そのため、こまめな確認と今の自分の作業を他の人の視点から考えることや他の人に聞いてみるなど、自分の視点から離れる工夫が必要だと感じました。続いて2つ目の気づきは、一つのことを考えるのに時間をかけ過ぎてしまう点です。そのため、事前に一つの作業にかける時間を決めることや時間がかかり過ぎる場合は誰かに相談してみることなど、限りある時間を有効に使う工夫が必要だと考えました。

このように今回のインターンシップで、実習担当の方々そして社員の方々が親身になってご指導していただき、自己成長につながる発見や改善点を見つけることができました。そしてなにより、この8日間は多くの学びと気づきを得ることができた実りある時間であったと感じております。今回の実習で得たものを今後の大学生活や就職活動で活かし、より成長できるよう努めて参ります。

私が、このインターンシップを通じて成長出来たことは、営業と就職活動に対する認識が大きく変わったという点にあります。

まずは、営業についてです。私は、今回の実習に参加するまでは、営業とは苦しいものだという認識がありました。しかし、実際に営業のロールプレイングをさせていただくことが出来、営業はとても身近なものであるということを知ることが出来ました。まず、お客様との関係を構築し、お客様の情報を聞き出し、その上で、お客様にとって最適な商品を契約に繋げるということが必要であることが分かりました。専門的な営業トークなどがあるのかと考えていましたが、とてもシンプルなことだということが分かり、営業職に対するハードルが大きく下がったと感じています。また、一流のセールスマンは、商品に付加価値を加えることが出来る人であると伺いました。そして、その価値は自分なりに見つけばよいというお話をいただきました。例えば、冗談が苦手ならば、こまめに連絡を取る、商品を徹底的に勉強してお客様の課題を解決できるような提案をするなどです。自分なりに商品に加えることが出来る付加価値とは何かということを意識しながら、どんな商品を売りたいのか、売ることが出来るそうなのか、ということを知れらるることも嬉しく感じています。このように、自分にとってとても身近なものに営業という職種を感じる事が出来たことが、とても大きな成長であったと感じています。

次に、就職活動についてですが、私は自分にも出来る仕事はないかという視点で就職活動を行ってしまっている部分がありました。しかし、仕事は自分が初め出来なかったことが出来るようになったときに、楽しさを感じるものだという言葉がとても心に残っています。私にも出来る仕事なのかという視点ではなく、私の特性をある程度踏まえた上でどんな社会人になりたいのかという視点で、就職活動を行っていきたいと考えています。

また、グループワークについても大きく成長することが出来たと感じています。私は、グループワークの中で、アイデアを出すことが苦手で、上手く話すことが出来ず、大きく悩んでいました。しかし、5日間の中で、自分なりにグループの中で果たすことが出来る役割は何なのかということを見つけることが出来ました。それは、グループのメンバーが話したことに對して適宜細かく確認を行う、グループの話題がそれそうときには修正を行う、時に皆の話題をまとめる、ということです。実習の初めは、アイデアをグループに発言することが苦手で悩んでいました。しかし、社員の方に相談をしてみると、自分なりに出来るような役割を探してみたらどうかと話していただき、自分なりに出来る役割について発見することが出来ました。これからは、苦手な部分を克服しつつも、自分の長所を伸ばしていけるような活動に取り組んで参ります。

私は今回のインターンシップ I A・I B で、木津川市役所の危機管理課での実習に10日間参加させていただきました。木津川市役所のインターンシップを通して、実際に働いている職員の方々と交流することで、市役所での事務の仕事内容がどのようなものなのか、社会人としてのマナー、職員の方の仕事に対する姿勢を学び、自信を持ってより積極的に行動ができるようになりたいと考え、このインターンシップに応募しました。

危機管理課での実習内容は、主に防災に関する講義と各種研修、防災ジュニアリーダー講座の企画と実施、職員の方等との意見交換、木津川市の防災行政に対する女性・若者視点での提言発表でした。1日目は危機管理課の職員の方々により、木津川市の特色、防災に関する講義が行われました。職員の方のお話を聞き、木津川市の現状、災害状況、問題点を知り、防災に関するお話では、災害が起きた際には自助、共助、公助の中で自助・共助の意識を高めることが大切だと学び、私が今まで過ごしてきた市の現状、取組について知らないことが多いのだろーうと思いました。2日目は木津合同樋門、防災行政無線等の防災施設に研修に行き、1日目の講義で学んだものを実際に見ることで、より理解を深めることができました。それら施設を回る際に、職員の方の公助の取組が昔よりも充実してきたことで、人々の自助と共助の意識が薄れてしまっているのではないかというお話を聞き、ただサービス、制度等を充実させるだけでは、ひとつの問題が解決したとしても、その周りにある関係している要因が新たな問題の元になってしまうということがわかり、自分たちが行っている取組を知ってもらい、理解を得ることでが大切だと考えました。5日目の防災ジュニアリーダー講座は数日前から準備と打ち合わせを行い、市としても初めての取組に職員の一員として参加することができ、ひとつの企画を成功させることが大変さ、多くの人々の支えがあって実施することができるということを学び、仕事を行う上で信頼関係を築くことが大切だと感じました。

危機管理課や木津川市、防災に関するお話を聞く機会や危機管理課の職員の方と交流する機会に恵まれましたが、7、8、9日目は私が体調を崩してしまい、防災訓練研修、タイムラインWS研修、女性職員や危機管理課職員の方々との意見交換の実習に参加することができませんでした。別の課の業務や職員の方のお話を聞くことができるよう、もっと積極的に行動することができたのではないかと思います。今回の実習で学んだことは、私が今、興味を持っている人とつながりの分野に関係していると思います。今後さらに学びを深めるとともに、他のインターンシップ実習生とのグループワークや啗嗟の質問に自分の意見を伝えることができなかったこともあり、グループワークの講義に参加し、多くの人と関わることで、発信力や傾聴力を高めていきたいです。

●インターンシップ事後指導講義「実習ふりかえり」



食物栄養科学科

【株式会社グルメ杵屋】

企業「苦手と向き合った5日間」生活科学部 食物栄養科学科 3年次

私は、株式会社グルメ杵屋様のインターンシップに参加させていただきました。インターンシップを通して学んだことは、大きな目標と小さな目標の2つを持つことの重要性です。

私が株式会社グルメ杵屋様のインターンシップに参加することを決めた理由の1つとしてスピーチ研修があり、人前で話す機会が多かったからです。私は、人前で話すのが苦手です。社会人になるとプレゼンテーションなど知らない人の前で話す機会はたくさんあると思います。大学生のうちに、自分が苦手と感じているスピーチなどの人前で話す機会をたくさん経験できるインターンシップに参加することで、少しでも克服しようと思いました。

いざインターンシップに参加して、初めて会う人の前でスピーチを行った際、緊張で震えが止まらず、頭が真っ白になってしまい、自分の考えたことを言い切れず、最悪のスピーチをしてしまいました。悔しく思うと共に、もうしたくないと正直初日からとても苦痛に感じました。しかし、せっかく5日間参加するなら、何か自分自身で成長できたらと思っていたため、残りの日々をどうすべきか考えました。その際に、管理部人事労務課の方が「毎日目標を持ちましょう」とおっしゃっているのを聞き、「相手に伝わるようなスピーチを堂々で行えるようになる」という最終的な理想となる大きな目標を決めました。これだけでは、大きな目標達成のために必要な日々の行動や意識が曖昧になってしまうと感じたため、大きな目標達成のためにすぐに実行・意識できることを小さな目標として毎日決めて、インターンシップに挑みました。管理部人事労務課の方からのスピーチ研修でのフィードバックや自分がスピーチをしてみても課題と感じたことをもとに毎日小さな目標を決めました。

この2つの目標を決めたおかげで、自分がすべきことや考えるべきことが毎日明確だったため、1つ1つの大きな目標を達成するための課題をクリアできていることが実感できました。また、小さな目標を達成できると嬉しくなり、自然と向上心に繋がることで、何事も前向きに取り組む姿勢になり、チャレンジ精神も芽生えました。完全に緊張しなくなったとは言えませんが、最終日のスピーチでは自分の頭の中で伝えるべきことを整理しながら、相手にしっかり伝えることが少しできるようになったと思いました。管理部人事労務課の方にも良かったと褒めていただき、嬉しかったです。

5日間、毎日目標を考え、意識し続けることは難しく感じることもありました。しかし、2つの目標があったからこそ目的が明確になり、毎日苦手と思うことを乗り越えられたと思います。また、自己成長にも繋がりました。5日間、苦手と向き合い続け、自己成長に繋げることができた経験は、今後の就職活動にも活かされると思います。これからも目標を持ち続け、それに向かって自ら行動、意識し続けられるようにしたいです。

【株式会社平和堂】

企業「従業員を大切に作る温かい職場で学んだこと」生活科学部 食物栄養科学科 3年次

株式会社平和堂の5日間の実習では、会社概要やフレンドリーサービス、チェーンストア理論について学んだことをもとに、店舗でグループワークや販売体験に取り組みました。実習の成果をまとめ、最終日に本部で15分間のプレゼンテーションを行いました。実習先を決めるにあたって、私は、大学の講義で学んでいることが社会でどのように活かせるのかを知りたいという思いがありました。そこで、小売業の中でも主に食品を取り扱う株式会社平和堂に興味を持ちました。

この実習で働くことに対する印象が大きく変わりました。以前は食品を売るためには、食品に関する知識や技術を備えておくことが必要だと思っていましたが、それ以上に、人と人とのつながりやコミュニケーションが大切だと感じました。特に平和堂では、お客様を大切にすることはもちろんのこと、従業員を大切に作る姿勢が印象的でした。バックヤードでの何気ない会話のやりとりや上司の部下に対する声かけ、ミーティングの雰囲気などから、お互いを思いやる温かさが感じられました。株式会社平和堂には「創意工夫を凝らし、地域の皆さんの生活を支えるなくてはならない店へ」という理念がありますが、販売体験を通して、まさに、創意工夫を発揮しやすい職場だと実感しました。私たちのグループでは、新商品であるわらび餅を70個売るという目標がありました。販売促進の中で、動画づくりや試食を行うために、管理職の方々に沢山の無理な要望や相談をしましたが、積極的に実現させてくださり、的確なアドバイスをいただくことができました。また、儲けるために商売はするものではないという考え方を知りました。働くことには必ずお金の利益が求められると思っていましたが、株式会社平和堂では、地域社会への貢献として、琵琶湖のゴミ拾いや、地域スポーツ大会の開催の他に、足湯や家庭の電球取り替えなどのホームサポートサービスまで行っていると知り、驚きました。これらは、小売業の域を超えて、お客様の暮らしの不便をなくしたいという思いから存在すると知り、地域を中心として広がるリージョナルチェーン店ならではのと思いました。全体発表では、プレゼンテーション資料に書いたことをただ読むだけでなく、重点的に伝えたいことを明確にし、聴き手の気を引く発表に仕上げようと試みました。私は情報処理の講義で学んだグラフ作成技術が身についていたおかげで、短時間で精度の高いグラフを作ることができました。講義を受けていた当時は、難しい課題やレポートに苦しみましたが、社会に出ると、情報がメインの業種に限らず、役に立つ場面があるということを知りました。このように、大学で学べることは、自分の進路に関係のない分野でも、学んでおいて損はありません。大学では上回生になると必修科目が減りますが、視野を広げて、触れる必要のなさそうな分野の学びにもあえて挑戦してみたいです。

【亀屋良長株式会社】

企業「今後すべきことが明確になったインターンシップ」生活科学部 食物栄養科学科 3年次

亀屋良長株式会社のインターンシップに10日間参加させていただきました。参加した理由は、2つあります。1つ目は幼少期から将来、食に携わる仕事がしたいと思っており、実際体験し、私が想像する食品の仕事へのギャップを理解するためです。2つ目は授業で日本の伝統文化を学び興味を持ち、京都を代表する和菓子屋ということもあり、応募させていただきました。

実習内容としては、主に和菓子の簡単な製造補助および和菓子の袋入れ、箱詰めをさせていただきました。その中でたくさんのことを学ばせていただきましたが、特に今回のインターンシップを通して、就職活動（私の未来）をより良いものするために深く丁寧に自分と向き合う必要性、食に携わる仕事を目指すうえで、大前提に大事にするべきことを身をもって学びました。

実際、食に携わる仕事を体験させていただいている中で、自分がどういう仕事に向いているのか不向きであるかが少し理解できた気がします。しかし、どの仕事も自分にとってメリット、デメリットは存在します。人生100年時代と言われ、私たちは生きていく中で、働く時間が大部分を占めることになるかとされています。自分の将来を長い目で見て業界・職種・企業をどのように選択するのか、就職活動（私の未来）を今まで以上に深く丁寧に、自分と向き合う必要性を強く感じました。

食品会社の製造業は、お客様と直接関わるわけではありませんが、商品が届けられるお客様のことを常に考え、1度に大量に生産する1つ1つの商品に対して、和菓子のみならず、容器や乾燥剤、包装に対しても衛生面、見た目に細心の注意を払われていることを体感しました。授業でも衛生面、見た目によりおいしさが左右すること、盛り付けについて学んできましたが、改めてその大切さを理解しました。

参加する前の私は、就職活動を甘くみて真剣に取り組んでおらず、忙しいことを言い訳にしていました。そんな私にとって、これらを3年次生の夏に深く実感できたことは就職活動を進めていくうえで、とても大きな収穫となりました。

今回インターンシップで得られたことを糧に、課題をさらなる自分への成長に向けて、今後の学生生活、日々精進して、私の人生を豊かにしたいと思います。

最後になりましたが、お忙しい中、10日間という長い期間、温かくご指導してくださった亀屋良長株式会社の方々、このような機会を設けてくださったキャリア支援部の皆様に、心より感謝申し上げます。とても貴重な経験となりました。本当にありがとうございました。

【亀屋良長株式会社】

企業「インターンシップで学んだこと」生活科学部 食物栄養科学科 3年次

亀屋良長株式会社で10日間のインターンシップに参加させていただきました。参加した目的は、将来食品業界に関わる仕事につきたいと考えており、実際に食品業界の現場で働き、自分の目で見て肌で感じ、業界のことや今自分に足りないものや身につけるべきスキルなど、新たな気づきを得たいと思ったからです。

実習では、製造補助や仕上げ、包装などを行いました。職人の方々の技術や各部署で働かれている方々の様子を知ることができたことは、大きな学びでした。しかし、それ以外にも、自分の強みやこれから直すべき反省点など自己分析を深める機会になったと思います。毎日何千もの量を商品として作られており、そのため丁寧かつ作業ペースが早いことを肌で感じました。最初は作業を効率よく、かつ丁寧に行うことに苦戦しました。作業を行う上でのポイントやコツを丁寧に教えてくださり、段々と作業ペースを上げることができました。先々の行動を意識して動くことや集中力などが身についたと思います。インターンシップ期間中は毎日日誌を記入しており、そこに反省点を書き、それを改善するためには次どのようにして行動したら良いのか考え、行動に移すことで自分自身の成長に繋げることができました。

実習を終えて、「働くこと」とは人と人との連携があって成り立っていると考えました。インターンシップを通して、色々な部署を経験させていただきました。その中で、私は新たに気づいたことが2つあります。1つ目は働く上で、コミュニケーション能力や協調性が大切なことです。菓子を製造する人、そのできた商品を仕上げる人、包装をする人、手続きを行う人、販売する人など、多くの人が1つの商品に関わっていることを理解しました。また、別々の部署の方々が密に連絡を取り合っていることも実習を通して知りました。よって、働くためには、協調性やコミュニケーション能力が必要だと思いました。2つ目は安心、安全な商品がお客様のもとに届くよう、衛生面や不備がないかのチェックを徹底して行っていたことです。お店を営む上でお客様との信頼関係はとても大切であると考えます。そのために、身だしなみや消毒など衛生面での配慮や商品に不備がないか、どの部署でも人の目で何度も確認していました。食品を扱う中で商品の安全性の確保はとても大切だと思いました。10日間の実習で、多くのことを学び成長に繋がったと思います。また、自分自身の長所や短所について考える良い機会となりました。この経験を今後の学校生活や就職活動に活かしていけるよう努力していきたいと思います。

オープンインターンシップ(大学協定型) 体験レポート ●●●

音楽学科

企業

「インターンシップを終えて」

学芸学部 音楽学科 3年次

LOOKABE GLASS 株式会社

私は今回OOKABE GLASS株式会社にて、5日間のインターンシップに参加させていただきました。今回のインターンシップでは2つの目標を設定しました。1つ目は、今まで学ぶことの出来なかった情報通信業界とはどのような業界であるかについて、知ることです。2つ目は、物事を考えるうえで必要となる力は何であるか見つけることです。

5日間のインターンシップでは、顧客調査と商品開発を行いました。OOKABE GLASS株式会社ではガラスと鏡の販売を主に行っており、今回のインターンシップでは、どのような方が商品を購入するか、また、どのような方がその商品を必要としているか、そして、まだ販売されていない商品を生み出すとしたら、どのようなものを生み出すのかについて考えることが出来ました。私は今までに顧客調査や商品開発を行った経験がなかったため、まず、販売サイトの特徴を掴むことを行いました。サイトでは商品の種類、場所・用途、お悩みという項目を使用して、商品を紹介していることが分かりました。ガラス商品の名称を知らなくても「ここの窓を防音にしたい」や「窓を清潔に保ちたい」など、購入者目線でサイトが作成されていることに気づくことが出来ました。紹介ページは、色がカラフルで見やすく、重要なところは文字が大きくなっていたり、下線が引いてあったりと表示に工夫がされており、他者に情報を伝えるためのポイントについて学ぶことが出来ました。

私は、今回「ステンドグラス+防音ペアガラス」という商品を開発しました。近年、住宅街にある保育園や幼稚園の子ども声がうるさいという意見が、多く入るということを開き、子ども施設向けの商品をガラスを使用して作れないかと考え、この商品を提案しました。まず初めに、いくつか選択した全国の子どもの施設の苦情報告書を調べ、読みました。どのくらい騒音に関する意見が上がっているか調べることで、現在の状況を把握しようと思いました。しかし、思った通りに情報が出てこず、この調査でかなりの時間がかかってしまいました。インターネットで検索する単語を変更したり、単語の組み合わせを変えてみたりと検索するときの工夫を行うことで、少しずつ情報を得ることが出来ました。この地道な情報収集と普段行っているピアノの練習は似ていると思い、練習をするときも、諦めずに方法を変えて練習していくべきだと改めて感じる事が出来ました。

今回の顧客調査と商品開発を経て、情報通信業界について知ることができ、物事を考える上では、商品を必要とする人の目線やその施設を利用している人の目線になる多角的な視点が必要であるということを理解しました。商品を購入したい方が本当に求めている情報は何か、視点を変えることで商品の考え方や発信の仕方を考えなおすことが出来ました。これからの大学生活でも物事を異なる方面から観察し、必要となるものは何かについて考え続けていきたいと思いました。

学校

「インターンシップで学んだこと」

学芸学部 音楽学科 3年次

【学校法人金井学園】

学校法人金井学園で、5日間のインターンシップをさせていただき、学んだことが2つあります。まず1つ目は、学校職員がどのようなものであるかということです。私は以前より学校職員という職業に興味があり、今回のインターンシップに参加出来ることをとても楽しみにしていました。普段学校で関わる学校職員の方は、教務課やキャリア支援部の方が多いため、学生対応が主な仕事内容だと参加するまでは考えていました。しかし、5日間で社会連携推進課、学務課、庶務課、就職支援課、経営企画課、中高事務課の6つの部署を体験するなか、学校職員という大きくくくりにには多くの役割があり、学生と多く関わる課と関わりが少ない課があることを知りました。

2日目に、学務課において、「学生の居場所について考える」というテーマでグループワークを行いました。初めに学内を見学し、学生が勉強したり、休んだりする場所がどのようなところであるかについて知りました。学内を見学し、私を含めた3人のインターンシップ実習生で、話し合いを行いました。私はそこで、学生ロビーにホワイトボードを置くという提案をしました。机と椅子だけでなく、ホワイトボードを置くことで、学生の学習の場が確保されると感じました。ホワイトボードを使用することで、多くの学生同士での話し合いや意見の共有がしやすくなると考えました。これは学生という立場になり、1日の生活を想像することで生み出すことが出来たアイデアです。学生のためを考えるとすれば、学生目線になるということが重要であるということを経験を通して理解しました。

2つ目は、毎日の振り返りをする事は自分を伸ばすということに必ず繋がるとことです。今回のインターンシップでは、残りの1時間が振り返りの時間であり、毎日研修日誌を書きました。研修内容、今日の反省と明日への改善点、そして明日の目標を書くことで、明日の体験先ではどのようなことをしようと考えることが出来ました。「今日は意見をまとめて話すことが出来なかったから、明日は簡潔に話せるように頭の中で意見をまとめることを意識しよう」や「明日は今日より積極的に質問をしよう」など具体的な目標を持つことが出来ました。何か1つ目標を持って挑むことは常に高い意識を持つことが出来るため、活動がより活発なものになりました。他のインターンシップ実習生も目標を持って活動しているため、お互いの意識を高めることが出来ました。取り組んだことをそのままにしておくのではなく、きちんと自分で反省することで、自分の力を伸ばすことが出来ると実感しました。

5日間のインターンシップを経て、自分に必要な力を見つけることが出来ました。視点を変えて物事を考えたり、振り返りをしたりすることをこれからも忘れず、大学生活を送っていきたいです。

企業

「インターンシップを終えて」

学芸学部 音楽学科 3年次

【株式会社グランディア芳泉】

私は、実際の体験によって、元々関心のあったサービス業、観光業、宿泊業、旅館業に対して理解を深め、自分の適性を確かめることと、自分に必要な能力を知り、磨くために行動することを目標として、旅館である株式会社グランディア芳泉のインターンシップに参加しました。

そこで理解できたことは、主に次の5つです。1つ目は、旅館業はサービス業の中でも、地域のPRや周辺の観光地の案内といった観光業の性質をもち、同じ宿泊業であるホテルの仕事と比べ、お客様との関係が密接だということです。2つ目は、来年の北陸新幹線開通によって、関東や海外とのつながりを強める福井県や日本の経済に対し、大きな影響を与える観光業として、特に株式会社グランディア芳泉には本格的な日本文化を伝える役割があるということです。3つ目は、株式会社グランディア芳泉では、人手不足の中、若手職員が中心に活躍する体制やマルチタスクなどによる生産性の向上に取り組み、勤務時間帯を含めた一人一人の働き方の改善に努めているということです。4つ目は、株式会社グランディア芳泉では、デザインのス킬がパンフレット作成に生かせたり、漫画やアニメへの知識が企画になったりするなど、語学力に限らず自分の得意なことや好きなことを仕事につなげられるということです。5つ目は、旅館業に向いているのは、自分でなくお客様の喜びを優先すること、毎日違うお客様を相手に新鮮な気持ちで仕事をする事、一日の中で同じお客様と何度も接して関係を深めること、お客様の喜びを間近で見ることなどを、魅力的に感じられる人だということです。

また、インターンシップを通して、お辞儀の角度やタイミング、お客様に伝わる表情や声での挨拶、立ち居振る舞い、言葉遣いなど、社会人として必要なマナーを身に付けることができました。初めての客室業務やフロントサービス、料飲サービスなどの体験では、自分に不足している素早さや体力だけでなく、お客様が快適に過ごせるよう気を配る丁寧さがまさに求められるのだとわかり、その部分は自分に合っていると感じました。5日間の振り返りをレポートにまとめて発表した際は、他の学生よりも限られた時間で書ける文章の量や質が足りていないと感じ、文章を書く能力も磨かなければならないと思いました。

さらに、「お客様の心待ちにしてきた一生に一度の思い出作りのため、スタッフは自分の状態をコントロールし、毎回上質のサービスを行う必要がある」という言葉が印象に残りました。そのことやお客様のご様子から、私は、幼い頃からたくさん旅館での宿泊を楽しんだことが、この仕事への興味につながっていたと気づき、旅館業を含めた宿泊業は、非日常的なくつろぎや楽しみ、思い出をつくることに貢献し、人々の生活をより豊かにするという役割を持つと理解しました。

以上のような意義のある経験をさせていただいたことに感謝し、これを今後の就職活動などに役立てていきたいです。

官公庁

「インターンシップを終えて」

学芸学部 音楽学科 3年次

【福井市役所】

私は、公務全体及び市役所の仕事の意義や内容、それに対する自分の適性について理解を深めることと、自分に必要な能力を知り、磨くために行動することを目標として、福井市役所のインターンシップに参加させていただきました。

初日には福井市の概要説明、グループでの話し合い、最終日には各所属での就業体験内容の共有、福井市職員に求められるものなどに関するワークショップ、先輩職員との意見交換会といった集合研修を受けさせていただきました。2、3、4日目は市民協働・ボランティア推進課にて、地域の団体や新幹線プロモーション課と連携したボランティア講座などの打合せへの参加や、自分たち学生によるボランティア講座企画の体験などをさせていただきました。

そこで理解したことは、公務員の仕事は市民の一生に寄り添うものであるということ、多くの他の部署や団体との連携が必要なこと、SNS などでも発信するものは公文書であるため、その決裁に時間がかかること、職員の能力開発・活用のため約3年ごとに人事異動があること、特に市役所では県庁と比べて、苦情を含めた窓口対応が多く、仕事の成果が市民の生活に直結することなどです。

また、グループワークでは自分がどのようにしてチームに貢献するのかを意識すること、発表の場では、即座にまとめ、説得力のある伝わりやすい話をできるようにするため、事前に十分に準備して話す練習を重ねることが必要だと思いました。

職員の方々によるボランティア講座企画の打合せでは、企画の目的の再確認から、仕事における目的意識の重要性を実感し、その後の自分たちによる講座企画では、社会問題を広く知ること必要だということに気づき、ニュースや新聞などを積極的に見ていこうと思いました。また、今回は音楽療法という自分が専門的に学ぶ分野の講座を企画したのですが、音楽療法を市民のQOL向上に役立てるにあたり、仲間と正確に考えを共有することはとても難しく、それを行うためには自分自身がさらに音楽療法への理解を深めることが必要だと思いました。一方で、他の人と共に考えると企画の客観性が高まるということに気づき、パートナーがしてくれたように、互いの考えの共有のため、「あなたが言いたいのはこういうことではないか」との声かけも行っていきたいと思いました。実際に自分たちで、市民のためのより良い企画を考えるという体験をすることで、公務員のもつべき責任感について学び、自身がそこで働くというイメージもできたように感じます。

その他にも日報作成の体験では、excelなどを使えるようにしなければならないという意識が強まり、職員や参加学生との相談では、試験対策に役立つ情報を得ることができて、試験勉強への熱意が高まりました。

このようにして、自分が今後努力すべきことにたくさん気づくことができました。また、仕事の内容や職員の方々について、少しでも知ることができるよう、強く関心をもってお話を聞き、簡単なことでも気になったことを質問しようと努めることで、仕事への理解を深めるだけでなく、職員の方々との関係づくりもうまくなったと思います。そして、利益追求にとらわれず社会貢献に専念できることや、責任感をもって働くということが、自分にとって魅力的だと感じ、公務員に対する自身の適性を見つけることができました。

貴重な経験をさせていただいたことに感謝し、これを今後の就職活動などに生かしていきたいです。

【兵庫県警察】

「インターンシップを終えて」

官公庁

学芸学部 音楽学科 3年次

私は3日間、兵庫県警察本部のインターンシップに参加させて頂きました。今回参加を決めた理由は、実際に体験しながら警察の業務を学び、その学びから自身が目指す警察官像を固めていきたいと考えたからです。

私がこのインターンシップから学んだことは、大きく分けて3つあります。

1つ目は、「臨機応変に対応する能力の必要性」です。臨機応変さは全ての業務において必要なことですが、1日目のロールプレイングでの学びが印象深く残っています。このロールプレイングは無線の情報を頼りに、現場に急行して被害者・被疑者の対応をする、という業務を想定したもので、想像以上に難しい体験でした。一人一人反応は様々で、激しい感情表現に圧倒される場面やかけるべき言葉が出てこなくなる場面が多くありました。また、性別や特技等、自身の特性を把握して現場で立ち回り、チームで最前の対応をすることも重要でした。瞬時に状況を判断し、柔軟に対応する難しさや大切さを改めて学びました。

2つ目は、「団結力、そして気持ちの大切さ」です。最終日、私たちは兵庫県警察学校で実際に行っている訓練を体験する機会がありました。重い装備を持ちながら坂道を走る訓練では、無理かもしれないと思う瞬間が何度もありました。しかし、警察官の方を含め参加者全員がやりとげるといって強い意志を持ち、団結してやりとげた時には、大きな達成感がありました。今振り返ると、この訓練は1人では絶対に完遂できなかったと思います。掛け声を合わせ、全員が本気で取り組むからこそ、出来たことであると感じています。

3つ目は、「話を聞く難しさ、傾聴の大切さ」です。警察官の業務では職務質問する際や事件が起こった時の聴取等、市民と会話をする機会が多くあります。その機会ごとに必要なコミュニケーションの取り方は違い、とても技術がいるものであると学びました。相手が話すのを拒んでいても、必要なことはどうにかして聞き出さないといけない、ですが、自分の一言で相手が心を閉ざしてしまうこともあります。また、一刻も早く被疑者について情報を得る必要があるなかでも、決して被害者の心に寄り添う姿勢は忘れてはならないと理解しました。

今回のインターンシップは、警察業務の多様性や魅力を存分に知ることが出来ただけでなく、厳しい部分にも触れることが出来た本当に貴重な機会でした。様々な学びの中で自身の目指す警察官像がより明確になり、警察官になるという意志が確かなものになりました。

最後になりましたが、お忙しい中、温かく迎え入れ、丁寧にご指導してくださった兵庫県警察の方々、貴重な機会を設けてくださった同志社女子大学キャリア支援部の皆様、本当にありがとうございました。

【OUTDOOR TRIP株式会社】

「仕事を通して、結ばれる」

企業

学芸学部 音楽学科 3年次

私は、和歌山県にある「In the Outdoor 白浜志原海岸」という施設にて、14日間に渡りインターンシップを行いました。テーマは「コミュニケーション能力を育てる実践インターンシップ」。和歌山県でのIターン就職を目指していながら、和歌山県の方々と関わる機会を持つことが難しかった私にぴったりでした。

施設では、通常業務や社員ミーティングを体験させていただきました。その中で、社員の方のホスピタリティを学んだ場面があります。私が宿泊体験をした際、隣の棟のお客様が規定時間を過ぎても大声で騒いでいて、それが夜中の3時まで続きました。社員の方にその話をすると、「記念日にここを選んでくれたお客様がいるかもしれないから、スタッフは絶対に注意しないといけない」と言われました。インターンシップ実習生だからと言って、自己判断でのお客様への注意を躊躇したことを後悔しました。迷った時は、「他の人ならどう思うか?」「お客様ならどう思うか?」という考えの下、行動するべきだと感じました。

また、社員ミーティングでは社長や幹部以外の社員も専門外の知識を広く持っていることで、アイデア出しやアイデア検討等の作業が円滑に、かつ多面的に展開できるのではないかと考えました。幅広い知識を持っていることは働き、人とコミュニケーションを取る上で武器になると感じました。その点で、私が大学にいる間は、総合大学であるという強みを生かして、興味のあることはなんでも幅広く学び、未来に繋がりたいと思いました。

社長の気遣いで、この施設以外の方々と関わる機会もいただきました。和歌山大学の起業サークルの学生や、他企業の社長様との懇親会に参加しました。起業という、私が考えたこともないような大きな夢を持つ学生とお話する中で、私が将来の夢の規模を自ら制限していたことに気づきました。ある社長様とお話をして、教わったことがあります。活気溢れる場所を作るには、光・食事・音楽が必要であることです。私の専攻する音楽は「実用性がない」と言われることもあります。地域を盛り上げるために大いに役立つかもしれないと気づきました。このことから、自分の学んだことに自信を持ち、それを生かして地域を盛り上げ、社会と関わりたいと考えるようになりました。

インターンシップを通して、ただ仕事を体験するだけでなく、和歌山県にゆかりのある多くの方々とのコミュニケーションを取り、自分の将来や人との関わり方について見つめ直すことができました。また仕事を通して、懸命に学んだことはいつかどこかで繋がる日が来ると実感しました。学生時代に打ち込んだことがどう生きるかはまだわかりません。私は出来る限りのことをして、残りの大学生活を充実させ、社会でも活躍したいです。

メディア創造学科

「株式会社ケイ・アール・ワイ・サービスステーション」

企業

学芸学部 メディア創造学科 3年次

私は、将来デザインに関わる仕事に就きたいと考えているのと、大学生時代に培った力を地元で発揮したいという思いがあります。そのため、3年次の夏休みの間に地元の企業を知りたいという思いで、インターンシップに参加しました。

3日間の中で、普段の大学生活では経験できないことをさせていただきました。社内の打ち合わせに同席した際は、クライアントの依頼に関する情報共有の方法やデザインの方向性の決め方などを、実際に見て、知ることができました。また、グラフィックデザイン業務では、チラシ制作を手伝わせていただきました。その中で、クライアントから受け取った情報を紙面にレイアウトする作業の難しさを学び、デザインをする上では、クライアントの目的を反映しながらデザインを形にしていく「柔軟性」が求められると感じました。

このインターンシップを経て、広告業界や企業についての理解が深まったのはもちろんですが、社員の皆様とお話したことで私の考えが広がり、良い方向に変わったことが特に印象深いです。大学が京都にあるので、なぜ京都や大阪で就職しないのか?と聞かれることがあります。インターンシップ前の私は、地元に戻りたいから、地元が好きだからなどと答えることがほとんどでした。しかし、「自分のデザインが全国で評価され目の目を浴びることは、地方からでは無理というイメージを変えたい」というある社員の方のお言葉と社長様が仰っていた「地域の『元氣』を作っていくカンパニー」という企業ヴィジョンを聞いて、心を動かされました。ここでしかできないことがあるのに気づき、私は無意識に「山口の方がいい」理由を探していたのですが、“山口がいい”理由があるのだと思うようになりました。それと同時に、デザインで地域を「元氣」にするのに貢献したいという新たな目標ができました。また、自分は何がしたいか、作りたいのか1番大切であるという学びは、これからの就職活動に活かしていきたいです。

さらに、インターンシップの参加を通して、自分の課題とこれからの目標を見つけるという目的も達成できました。クリエイティブな仕事をする上で、アイデアの引き出しを多く持つておく必要があると感じたのと、社員の皆様が大学の勉強だけでなく、今しかできない経験を積んでおいた方が良いということを共通して仰っていました。そのため、大学で学び、スキルを身につけることだけに囚われず、学生のうちにしか、京都でしかできないことに挑戦して、視野の広さとアイデア力を兼ね備えた人になりたいです。また、改めて働く上でのコミュニケーションの重要性を実感し、社員の方からも、学生時代に会おう人との繋がりの大切さを教えていただきました。今の自分にはコミュニケーション能力が足りていないと感じるため、積極的に人と話せるよう努力していきます。

【大村印刷株式会社】

「より良いものを作る」

企業

学芸学部 メディア創造学科 3年次

私は、将来デザインに関わる仕事に就きたいと考えているのと、大学生時代に培った力を地元で発揮したいという思いがあります。そのため、3年次の夏休みの間に地元の企業を知りたいという思いで、インターンシップに参加しました。

今回、企画デザイン課で他のインターンシップ実習生と共に、飲食店のPOPデザインとイベント企画の提案をするという課題に挑戦しました。POPのデザイン制作を通して学んだことは、3つあります。1つ目は、「目立たせる情報を決める」ことです。POPには、フェアの告知や新商品の紹介、イベントの説明など、記載しなければならない情報が多くあったため、私は紙面に情報を詰め込むのに集中し、情報の内容については考えていませんでした。しかし、社員の方から絶対に必要で目立たせたい情報はどれなのかを考える必要があると教えていただき、必ず目立たせたい情報とそうではない情報の取捨選択をした後、デザインをし直しました。すると、デザインにメリハリが生まれ、見る人へ情報が伝わりやすいものに改善できました。2つ目は、「視線誘導を意識する」ことです。私は情報を詰め込むのを意識しすぎていたため、関連する情報が紙面に散らばっている箇所がありました。POPのようにどこからでも読めるものは特に、見る人の視線があちこちに飛んで混乱してしまわないよう、関連する情報を近くにレイアウトするなど、作り手が読み手の視線を誘導することが重要であると学びました。3つ目は、「ヒアリングの大切さ」です。なぜヒアリングが大切なのかというと、クライアントの目的によって、提案する際に目立たせる情報やデザインの雰囲気が変わってくるからです。デザイン力だけでなく、クライアントの思いを正確に汲み取るヒアリング力も働く上で必要な力であると知りました。

課題を進める中で、アイデアや意見が思い浮かばなかったり、レイアウトに苦戦したりと様々な問題に直面しました。しかし、社員の方に何度もアドバイスをいただき、5日目には、無事発表することができました。

今回、企画デザイン課で働かれている社員の方々を目の当たりにし、より良いものを作っていくために努力を惜しまない姿勢や、積極的に互いにコミュニケーションを取り合う姿が強く印象に残りました。読み手が欲しい情報を伝えるために、より具体的に分かりやすいデザインに変えることを提案されていたり、配色が異なるデザインを何パターンも作って比較されていたり、飽きのこないデザインになるように日々新しいデザインを勉強されていたりと、このような姿勢がより良い仕事に繋がっているのだと理解しました。また、他の部署や印刷工場、撮影スタジオなどの見学を通して、作り出されるものには、多くの人の力と努力が詰まっているのだと感じられたことが良い経験になりました。

国際教養学科			
〔経済産業省〕			
官公庁	「国規模で考えるやりがい」		
	学芸学部	国際教養学科	3年次

私は8月の最初に5日間、経済産業省本省にて政策立案を体験するインターンシップに参加した。経済分野にはともと興味がなく、日本という規模で何か考えることもほとんどなかった。しかし、留学先のイギリスにて開発学を学び、経済発展、国の発展に非常に興味を持つようになり、日本はどのようなだろうという関心が湧き、今回応募し、参加するに至った。

最初は経済産業省のスローガンでもある「国富の拡大」という、非常に規模が大きなものを取り扱い、日本経済のかじ取りを行う場所に私なんかがインターンシップに行ってもよいのだろうかと思ったが、せっかく貴重な経験をさせてもらえるならばしっかり学ぼうと気を取り直した。インターンシップの内容は、主にグループに別れ、マクロ課題、ミクロ課題という2つの課題が与えられ、どのような企画、政策を打っていくかグループで考えたのち、スライドにまとめて発表するというものであった。事前に読み込み、知識に入れておくべき資料や、データ、情報が非常に多く、また、扱ったことのない技術系分野の現状も把握をして現状分析する必要があるし、想像していたよりもはるかに時間を要し、仲間との協力が不可欠であった。誰にとって良い社会を目指すのか、具体的な案は何なのか、懸念点はあるのか、しっかりと吟味していく過程は楽しくもあり、議論が行き詰ったときは頭が思考停止してしまうなど、山あり谷ありの5日間であった。職員の方々は普段からこのような過程を踏んで政策を打ち出し、日本の世の中、時には世界に向けて発信しているということが、とても身近な立場から感じることができ、責任感や、達成感は相当なものだろうと思った。職員の方と座談会をさせてもらったとき、どの方も、自分たちが作った政策や、方針が新聞の一面に出ることもあるので緊張感と責任感を持ってできることがやりがいでもあり、楽しみでもあるとおっしゃられていた。確かに一人間の考えが日本を動かすということは非常に貴重なものであり、真摯に向き合った人でしか成し遂げないものであろう。さらに、日本の持続的な経済発展、安定的な通商貿易を続けるためには、国内だけではなく、外国との関係性も考慮しなければならない、国内であっても企業側とも交渉しなければならないという経済産業省内だけではなく、外部との繋がりが非常に強い省庁であると感じた。官公庁と民間は区別して考えることが多いが、積極的に協力し合わなければならない関係であると理解した。実際に政策立案体験中も企業ヒアリングを行い、様々な人の意見を聞くことができた。よって、国を動かすためには自己完結型ではなく、様々な意見を取り入れることが重要であり、目指すべき姿は何なのか、はっきりさせることが非常に大切であると感じた。今回のインターンシップでは毎日頭をフル回転させて、課題に向き合う楽しさと、意見を取り入れる柔軟さを身に付けることができた。

〔国土交通省国土地理院〕			
官公庁	「好きなことを仕事にするとは」		
	学芸学部	国際教養学科	3年次

私は8月の終わってから9月の初めまでの5日間、国土地理院研究管理課においてインターンシップを行った。このインターンシップに応募した理由としては、昔から地図を見るのが大好きであり、それが派生して、地理全般に興味関心を抱いたからだ。寧ろ、仕事の体験をしたい、公務員の仕事とは何かを知りたいというのではなく、私自身の興味関心分野を現場で更に学びたいという向上心の一環で応募したと言えるだろう。

インターンシップ初日、私は研究管理課という、地震予知連絡会等の会議の運営、企画を行う部署に配属された。ちょうど数日後に地震予知連絡会を東京で控えていたため、職員の方々も忙しくされており、緊張感のある空間であった。一人一人が淡々と仕事を進めておられ、プロフェッショナルの現場を拝見し、感心したのもつかの間、これから5日間で職員の方に馴染めるか、上手く業務をこなせるか不安になってしまった。

まず、担当した業務は、地震予知連絡会における資料の校閲である。誤字脱字がないか、データの不足はないか、確認作業を行った。そこで出てきたデータや文章は非常に専門的なものであり、どこが間違っているのかさえ分からない、理解が追いつかない箇所もあり、職員の方に沢山アドバイスを頂きながら何とか終えることが出来た。この作業を通して分かったことは、世の中に正しい情報、地震予測を届けるためには沢山の方々による準備が必要だということだ。それは会議当日も例外では無い。朝から会場設営等を行い、スムーズに会議が遂行されるように適宜必要な作業をしていく、本当に多くの方々の労力により、ひとつの会議が行われているということを理解した。

また、今回のインターンシップでは地殻変動のデータを分析したり、実際にデータを作成するという体験もさせて頂いた。私の住んでいる地域のデータを取ってみたり、分析したりすることは大変興味深く、また、過去にどのような災害があったかなどを知ることでも出来た。私は最初に述べたように地理という分野が大好きである。地殻変動等のデータで災害のことを知ることが出来るということは、地理分野に興味関心があれば、その分野を突き詰めると自ずとこれから起こる災害等に対する予測や、防災の知識を習得することに繋がるのではないかと思った。自分自身の好きなことや興味のある分野を仕事にした時、それは一見自己本位のように見えるかもしれないが、実際は社会を支える基盤となりうることを知った。実際職員の方々も山登りが好きで地理が好きで、などと元々興味があったことが派生して、現在国土地理院で働いている方が非常に多い。その方たちが行っている業務研究は全て、日本の国土の安全のため、これから来るであろう災害の対策と非常に結びついている。つまり、好きなことを仕事にすることは素晴らしいことであると感じた。これから、就職するにも、進学するにも、何をするにも選択をしなければならないことが沢山ある。その時に興味関心があること、大好きなことを今一度考えて、決断していくことが重要であると今回のインターンシップより理解した。

社会システム学科			
〔内閣官房内閣人事局〕			
官公庁	「霞が関で働く女性」		
	現代社会学部	社会システム学科	3年次

内閣人事局が主催する、女子学生霞が関体験プログラムに参加いたしました。参加した理由は、国家公務員の仕事に興味があり、就職したいと考えているからです。昨年度もこのプログラムに応募しましたが、落選してしまったため参加することは叶いませんでした。しかし、幸いなことに、今年度通過することが出来たため、チャンスをいただけたと思い、このプログラムを有意義なものにしようと思参加しました。また、京都在住の私は、中々霞が関にて説明会等聞く機会を持つことが出来ないため、本プログラムで霞が関を訪れることが出来たのは貴重な機会であったと思います。このプログラムは5日間に渡り開催され、1日目に内閣府による働き方とキャリアデザインのご講演がありました。2日目以降は自分が希望する各府省庁を訪問します。私は、2、3日目に特許庁、4、5日目に防衛省を訪問しました。

5日間の大きなテーマは「霞が関で働く女性」です。内閣人事局が主導して行っている産休育休の制度、各省庁が行っているテレワークや時差出勤等、多様な働き方があることを教えていただきました。私が特に印象に残った点は、この多様な働き方を男性、女性問わず、多く利用されていることです。特許庁、防衛省でのプログラムの際、女性職員による座談会を開いてくださいました。その際に制度の利用について質問をすると、多くの方がテレワークを利用し、自分の効率の良い仕事の仕方を確立させていました。一見、国家公務員は激務で中々家に帰れないというイメージを持たれますが、確かに忙しい時期もありますが、テレワークやフレックスを利用してプライベートも充実されていると教えていただきました。

また、働き方だけでなく、霞が関で働く意義についても多く学べたように思います。本プログラムでは多くの職員の方からの講義がありました。各省庁での仕事内容や、その仕事に対する思いや、考えをお話してくださいました。働く場所や環境は違いますが、皆さまは仕事に対する信念を持っておられ、生き生きと職務をされている印象を受けました。特に印象に残ったのは、防衛省の座談会にて、やりがいを感じた出来事はあったかについて質問した際に返ってきた言葉です。それは、「毎日やりがいを感じて仕事をしている。コピーをすることさえにもやりがいを感じている」という言葉です。気にもしない職務、人によれば嫌だと思う職務に対してもやりがいを感じ、責任をもって仕事されている姿に感銘を受けました。国家公務員になるには、厳しい試験を乗り越えないといけないため、その仕事に就きたいと思う気持ちが強いのではないかと思いました。私も試験に向けて勉強をしますが、試験を乗り越えた先には、私が出会った女性職員の方のように生き生きとやりがいと責任をもって働く姿があるのだと実感しました。

〔内閣官房内閣人事局〕			
官公庁	「2年次の経験を経て」		
	現代社会学部	社会システム学科	3年次

私は昨年、この女子学生霞が関体験プログラムに参加させていただきました。将来のことについて考え始め、早い段階から動こうと思い、興味を持った国家公務員のインターンシップに挑戦しました。昨年の経験から早くも1年が経ち、周りも就職活動に向けて本格的に動き出しています。私は昨年のプログラム参加後、ほんやりとしていた興味から強い意志に代わり、現在は国家公務員を目指して勉強を進めています。この一年間、改めて自分は何に興味があるのか、何をしたいのかとじっくり自分と向き合い、またこのプログラムに参加させていただきたいと思いました。

今回は、警察庁と文部科学省を2日間ずつ訪問させていただきました。前半の警察庁では、警察庁の概要説明や職員の方々との座談会、女性や子どもの安心安全を守るための政策体験、基調講演などがありました。警視庁をはじめとする都道府県警察や全国の警察署を束ねる警察庁ですが、実際の業務内容はほとんど知らなかったのも、とても興味深いお話を聞くことができました。特に、在オーストラリア日本国大使館で勤務されている職員の方と、ズームをつないでお話させていただいたことが印象に残っています。大使館勤務ならではの業務の大変さややりがいを聞き、仕事のスケールの大きさに圧倒されるだけでなく、異国での単身子育てのお話も聞かせていただき、人としての強さや生き方に感銘を受けました。また政策体験のグループワークでは、大学の授業でDVやストーカー、性被害や児童虐待について学んでいたため、積極的に意見を述べることができ、自分の学びを活かすことができたと思います。

後半の文部科学省では、警察庁と同様に概要説明や職員の方々との座談会、基調講演、政策体験、加えて省内見学もありました。文部科学省は大きく教育、科学技術、文化、スポーツの4つに業務が分かれており、今回のプログラムでは教育と科学技術に関するお話を多く聞きました。特に印象に残っているのがグループで行った政策体験で、「少子高齢化により18歳人口が減少している日本社会において、2040年以降の大学が抱える課題と、それに対して実施すべき施策とは」を考えるものでした。この政策体験を通して、行政機関は民間企業ではアプローチできない部分や人々に対しても、利益を求めずアプローチできることが一番の魅力だと改めて思いました。しかし、予算は限られているため理想論で語るのではなく、税金を使って行う施策だからこそ、他省庁や国民に納得してもらえるような政策立案が必要であり、そこがやりがいでもあると実感しました。

今年もこのプログラムに参加させていただき、国家公務員について新たな発見と魅力の再確認ができました。また、職員の方々とお話や実際に働かれている姿を見学させていただくことで、試験勉強のモチベーションにもなり、有意義な時間を過ごすことができました。

英語英文学科

〔兵庫県警察〕	
官公庁	「憧れ」 表象文化学部　英語英文学科　３年次

私は幼いころから「警察官になりたい」と思い、憧れていました。このインターンシップに参加した目的は、その「憧れ」が本物なのか確かめるためです。

他府県では警察のインターンシップは一日で行われることが多いことに比べ、兵庫県警では実際の業務の基礎を体験することができるなど、自分が将来働いている姿を想像しやすく、職務に適しているか判断できるのではないかと考え参加させていただきました。警察官という職業は私たちの生活のすぐそばにあり、身近な職業です。しかし、今回実際の職務体験をさせていただき、様々なことを学ぶことで、初めて警察官という職業を知ったのではないかと思います。その学びの中で、私が印象に残ったことは２つあります。１つ目は、警察官には何よりも市民を守りたい、助けたいという気持ちが大切だということです。プログラムの中で担当の警察官の方が何度も「守る」という言葉をおっしゃっていました。全てのことが誰かを守るためにすることで、たとえ直接的に市民を守ることに結びつかないと思えることで、最終的には誰かを守ることにつながります。また、守ることだけでなく、守れなかった被害者遺族の支援など、誰かの助けになることも警察官の重要な職務です。実際の被害者遺族の講話を聞き、助ける方法はひとつではないのだということに気付くことができました。これは私にとって大きな気付きでした。守るなど警察官であれば当たり前のことだろうと多くの人が思うことかもしれません。しかし、私には３日間この言葉を通して、警察官になることの覚悟を問われていたように感じます。２つ目は、同じく警察官を目指す仲間が存在です。私の周囲には警察官になりたいと思っている人がいません。さらには女性となれば、今まで同じ目標を持つ人はいませんでした。しかし、今回参加者の半数近くが女性で、３日間様々な話をしました。警察学校の学生の方にお話を伺った際に、「仲間と一緒に頑張れるのでなんとかなります」とおっしゃっていたことがとても印象的でしたが、実際にそのとおりだと感じました。警察学校での授業体験は体験とはいえ、とても大変でしたが、共に活動したことで乗り越えることができました。

警察官は憧れだけではなれないのかもしれません。しかし、私はこのインターンシップを通して憧れも大切であると考えました。どんなに厳しい訓練や時に市民の方から心無い言葉があったとしても、心の中に憧れがあるから折れずにまた頑張ることができるからです。

兵庫県警察本部で２日間、警察学校で１日間という全部で３日間という短い期間ではありましたが、プログラムも含め、担当者の皆様は私たちに、まるで警察学校の生徒のように厳しく、優しく接してくださいました。そのおかげで上下関係だけでなく、他の学生との結束力が強まりました。同じ志を持つ仲間と出会えたことにとても喜びを感じると同時に、担当者の皆様には心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

日本語日本文学科

〔和歌山県〕	
官公庁	「インターシップを通して学んだこと」 表象文化学部　日本語日本文学科　３年次

私は、和歌山県庁行政企画課のインターシップに参加させていただきました。和歌山県庁では実際にどのような仕事が行われているかを、今回のインターシップを通して学びたいと思い、５日間のインターシップを選択しました。

私が参加させていただいた行政企画課は、デジタル技術やデータの活用によって県民に対する行政サービスの向上を目指すとともに、和歌山県庁で働く職員の業務効率化を進めることで、県民のより良い暮らしのためにできることは何かについて深く考えさせられる場所でした。私自身、行政DXという言葉に馴染みがなく、はじめのうちは理解できるかどうか不安な部分がありました。しかし、実際の会議や研修に参加させていただくなかで、県民により近い存在として行政企画課があることを実感することができました。デジタル化を進める中で、様々な障壁があったとしても、解決方法を見つけるために職員同士で話し合う姿は、社会人として働くうえでの姿勢を学んだように思います。

また、職場全体が明るい雰囲気ながらも、メリハリがあって、話し合いが比較的し易い場であったことも非常に印象的でした。有田振興局においても職員の方々との交流の場を設けていただき、和歌山で働くことや県民との交流についても質問するなど、充実した時間を過ごさせていただきました。それぞれが県として県民のために何ができるかを考えられており、県側として働くことの責任を感じました。

行政企画課では、デジタル化を進めるうえで、和歌山県庁として市町村と関わりを持つだけではなく、デジタル化のために必要な力として、外部のアドバイザーや企業などの活用を積極的に行っていることも興味深いと思いました。新しいことを始める時に、できないと考えるのではなく、どのようにしたらできるか、今、すべきことは何かを念頭に置くことで、より強いつながりで仕事ができ、それが県民の暮らしにつながっていくと理解しました。

そして、最終日には、５日間のインターシップを通じて「学生が考える行政DX」として発表を行いました。行政DXについては市町村DXや市町村BPRなど行政企画課で実施しているものを学んだうえで、学生としてできる提案を考えました。実現できるかどうかなど難しい面もありましたが、職員の方が真摯に向き合ってくくださったおかげで、発表を終えることができると同時に、フィードバックをくださったことで自身の課題に気づくきっかけを与えられたことは、今後の就職活動を見直すものとなりました。

最後に、それぞれのお仕事がお忙しい中で、インターシップという貴重な機会をいただき、ありがとうございました。和歌山県庁行政企画課での体験を大きな糧として、今後の就職活動に望むとともに、公務員として働くことについて常に考えていきたいと思います。

食物栄養学科

〔沼津市役所〕	
官公庁	「インターンシップで学んだこと」 生活科学部　食物栄養科学科　３年次

私は、沼津市役所の観光戦略課で3日間のインターンシップに参加しました。応募した理由は、公務員という職業に興味があり、インターンシップを通して具体的な市役所の仕事を知り、職員の方々から働く姿勢を学びたいと思ったからです。

１日目は沼津市の観光地を巡り、知らなかった沼津市の魅力に気づきました。２日目は主に倉庫の片付けで、３日目はハイキングコースの倒木調査などをしました。実習前は、市役所では事務仕事が主なイメージでしたが、実際は現場に出ること、他の課や業者などと連携をとって仕事を進めていたことを知り、目立った仕事だけでなく多岐に渡る業務を行っていることがわかりました。また、職員の方々が様々な問題に対し、冷静かつ丁寧に対応している姿に憧れを抱きました。これらのことから実習を通し、様々な人と関わるためのコミュニケーション能力や、どんなことが起こっても臨機応変に対応する柔軟性の大切さを学びました。

そして、主体性についても職員の方に仕事をする上で大切なポイントだと教えていただきました。そのため、主体的に動くことをこのインターンシップでの目標とし、指示をただ待つだけではなく、分からないときは聞いて解決するなど積極的に行動することができました。このとき、何が分からないのか聞く前に整理して、自分の考えと共に聞くとう良いと教えていただいたので、これからの生活でもそのポイントを意識したいと思いました。また、仕事に対する公務員としての考え方や沼津市の観光のあり方についても、職員の方々に質問して理解を深めることができ、自分の視野が広がったと感じました。

今回のインターンシップではお忙しい中、職員の方々に多くのことを丁寧にご指導いただき、大変感謝しております。ここで学んだことを、これからの生活の中で意識していきたいと思います。そして、市役所の具体的な業務内容や職員の方々の仕事に対する考え方を学び、実際に働くという経験を経て働くイメージを持つことができました。沼津市役所の職員の方々の明るく生き生きとした姿やチームワークの良さ、人柄の良さを感じ取り、公務員になりたいという気持ちが強まりました。また、私は人の役に立つ仕事に対してやりがいを感じるということを見つけることができました。今後もこの経験を学生生活や就職活動、将来に活かしていきたいと思います。

〔津市役所〕	
官公庁	「インターンシップを終えて」 生活科学部　食物栄養科学科　３年次

私は、三重県津市の市役所のインターンシップに参加し、栄養士の業務を体験させて頂きました。参加した理由は、栄養士の業務を把握し、地域の人にどのように貢献することができるのか、実際に働く場合のイメージを確立するとともに、職場の雰囲気を感じ、自分の将来について見つめたいと思ったためです。

主な業務として、「市民の健康状態の維持・向上に向けた取り組み」「保育所等の給食業務」「学校給食業務」の３つがあり、前２つを体験させて頂きました。

「市民の健康状態の維持・向上に向けた取り組み」では、食生活改善推進活動に参加しました。食生活改善推進員の方や活動に参加した地域の方からは、「栄養士さん、栄養士さん」という声が飛び交っておりすごく頼っていただける印象を受けました。このように信頼してもらうためには、幅広い正しい栄養の知識と、地域の方の理解が必要だと感じました。栄養に詳しくない方からは、思ってもみなかった質問を受けることがあるため、個人に合わせた説明や対応力も身に付ける必要があると思いました。栄養のこと、調理のことだけを話すのではなく、世間話も挟みながら活動をしており、とても温かい場所でした。私達が市民の健康状態の維持・向上を図るには、まず参加してもらえるような環境づくりも必要だと理解しました。

「保育所等の給食業務」では、献立を考えますが、保育所等との連携をととても大切にしていると思いました。参加前は、栄養士が一人で机上で献立を立てるイメージでしたが、実際は、保育所等を訪ねて食事摂取状況を観察したり、保育士・調理士の意見を取り入れる検討会を開催する等、何度も練り直していました。このように、地域の子どものために思い、他職種間で連携し、より良い献立を作り上げる栄養士に魅力を感じました。また、衛生管理の徹底のために、給食現場等のチェックも行います。そこでは、衛生状態が悪い部分があれば注意する必要があるため、普段からなんでも話せるような人間関係を確立しておく必要があり、コミュニケーション能力が必要だと考えました。

そして、津市役所で栄養士として働いている方は少ないため、どんどん自分の調査したいこと、やりたいこと等に踏み出すことができることも、魅力的に感じました。あらゆることを挑戦することも、全て地域住民のことを考え行動しているように思いました。

最後に、インターンシップに参加して、それまでは知らなかった大変さややりがい、市役所で働く職員さんの思い等を知ることができ、とても貴重な体験になり、今後の職業選択に繋げていきたいと考えます。

アンケート結果 ●●●

このアンケートは2023年度インターンシップⅠA・ⅠBに参加した学生と参加企業を対象に行いました。

☆参加学生へのアンケート結果

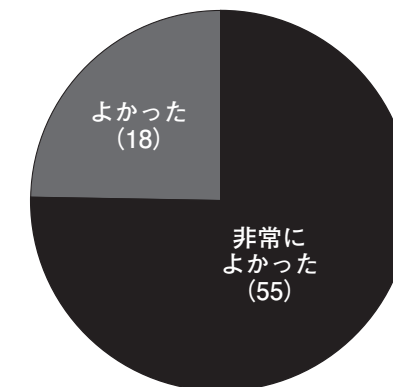
1 参加動機(複数回答可)

1. 職業観を養うため	39
2. 自分の職業適性を知るため	49
3. 将来の就職先として希望している業界・職種を実体験するため	37
4. 職業社会において必要な力を養うため	34
5. 大学で学んだことを実際の社会で体験するため	11
6. その他	4
	174

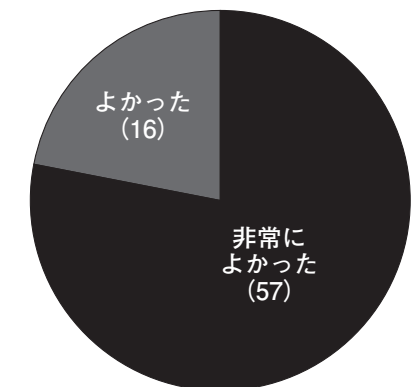
2 実習先の選択基準

1. 就職を希望する業界または職種で選んだ	35
2. 実習内容で選んだ	28
3. 有名企業・団体だから	2
4. 就業体験できればどこでもよかった	4
5. その他	4
	73

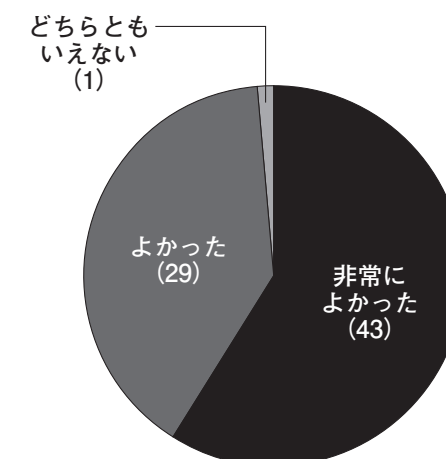
3 インターンシップ実習に参加して



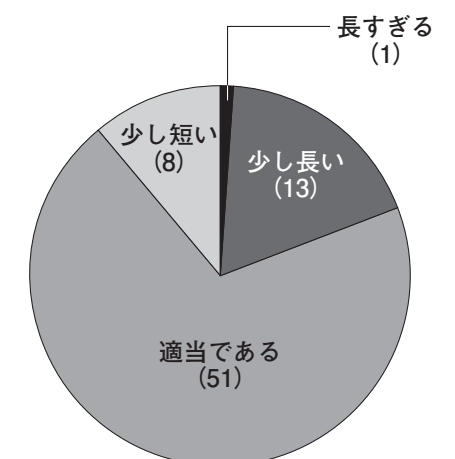
4 実習先



5 実習内容

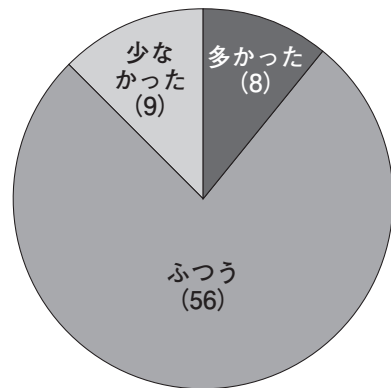


6 実習日数

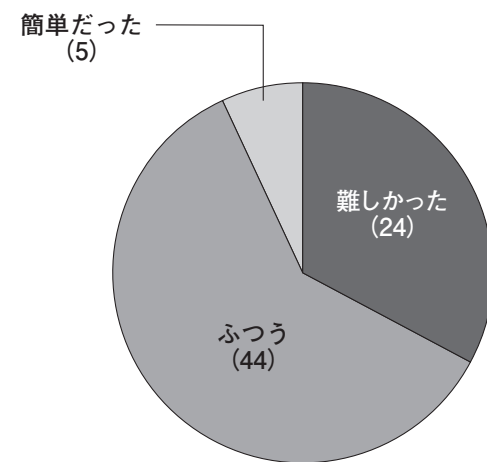


※()内は人数を表しています。

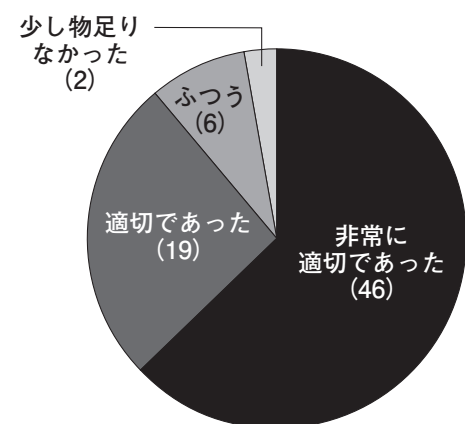
7 仕事の量



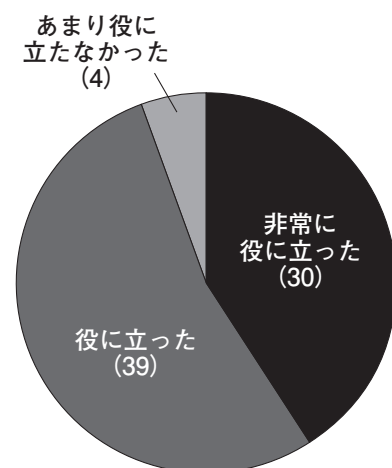
8 仕事の難易度



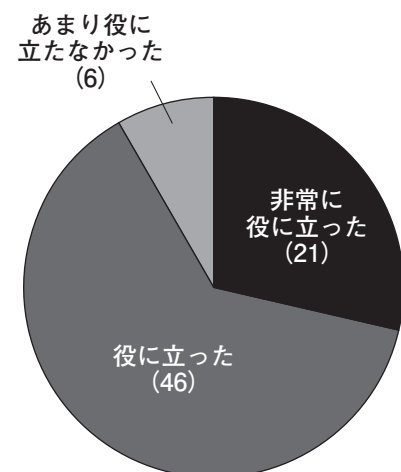
9 実習における指導



10 実習簿

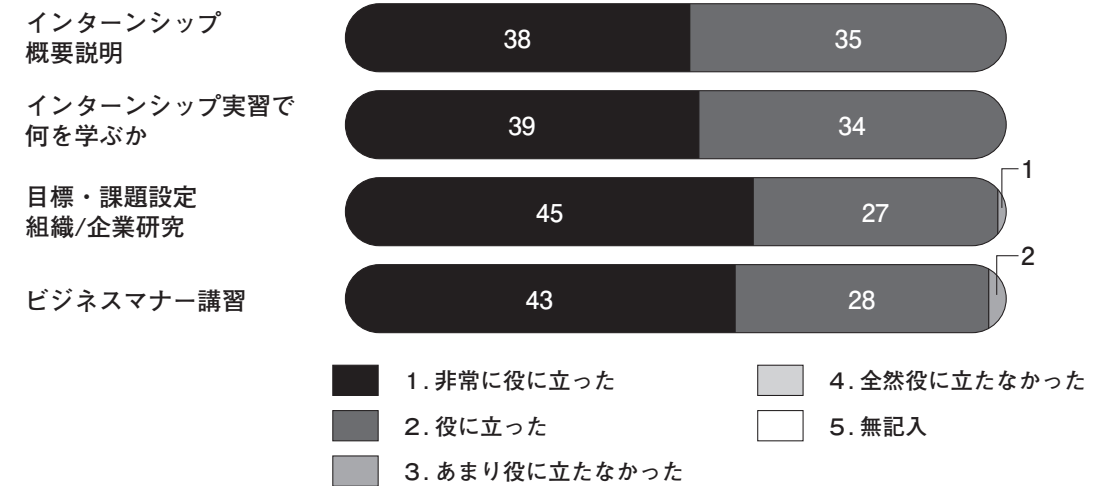


11 事前課題

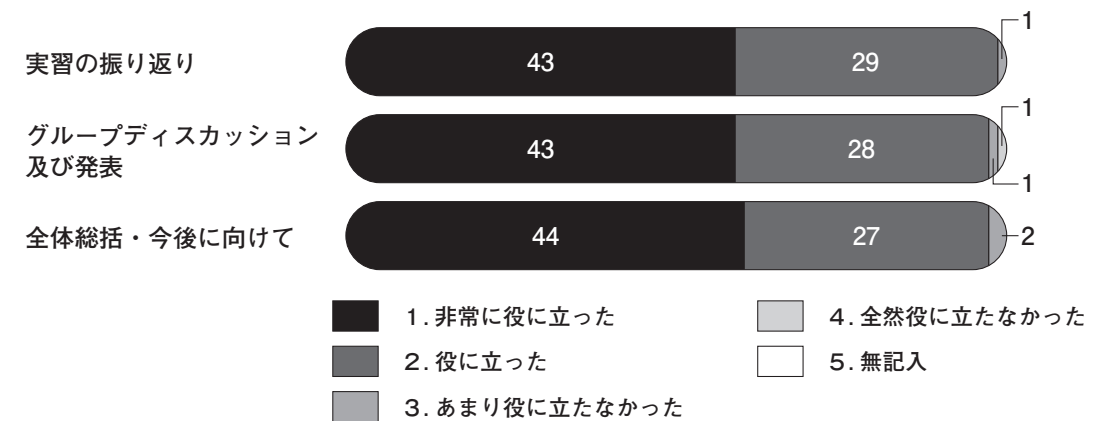


※()内は人数を表しています。

12 事前指導講義（該当するものに○印をつけてください）

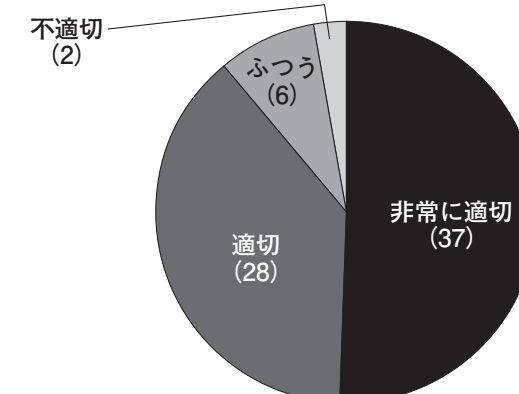


13 事後指導講義（該当するものに○印をつけてください）



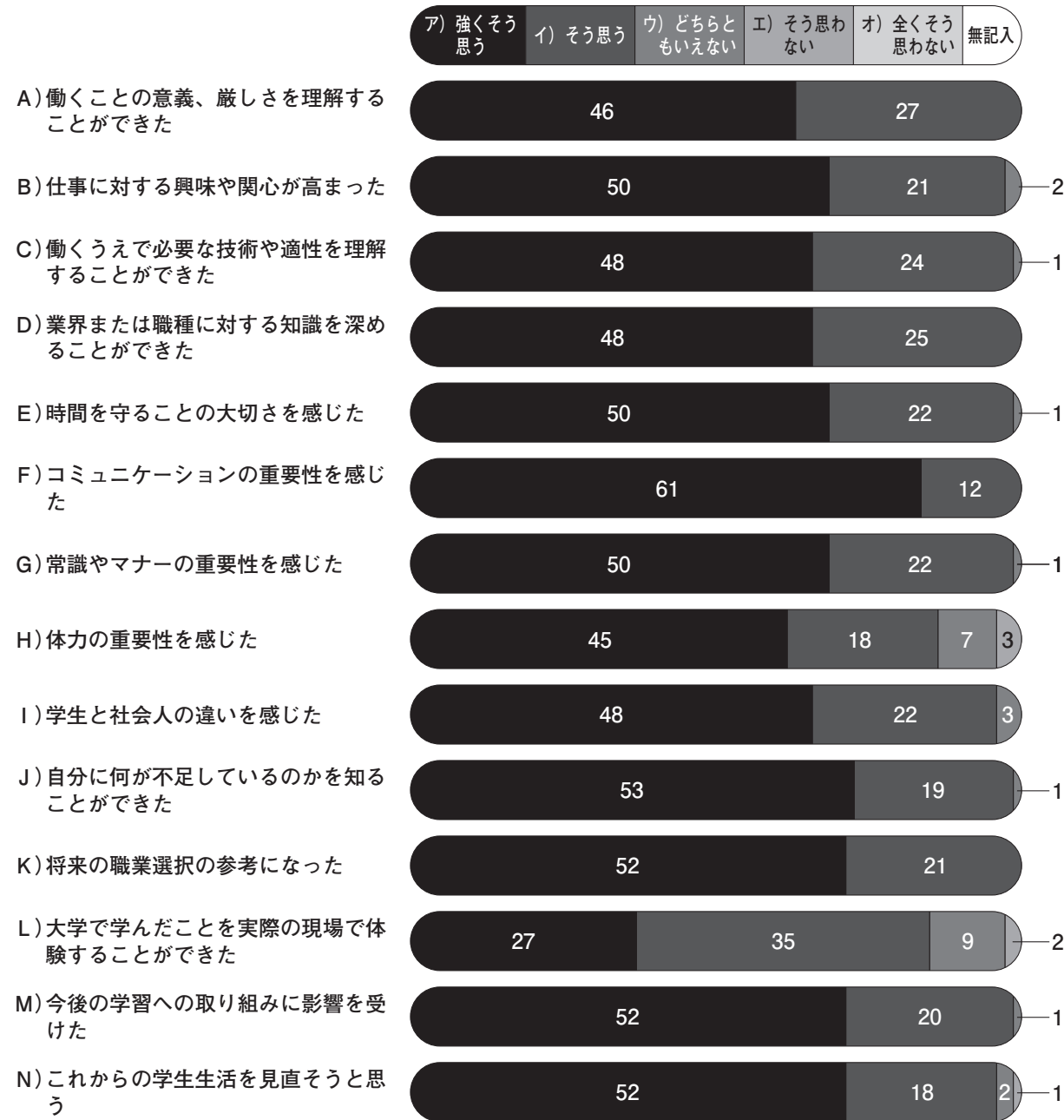
※グラフ内の数字は人数を表しています。

14 インターンシップ期間中（事前指導講義～実習～事後指導講義も含む）の大学のフォロー体制について



※()内は人数を表しています。

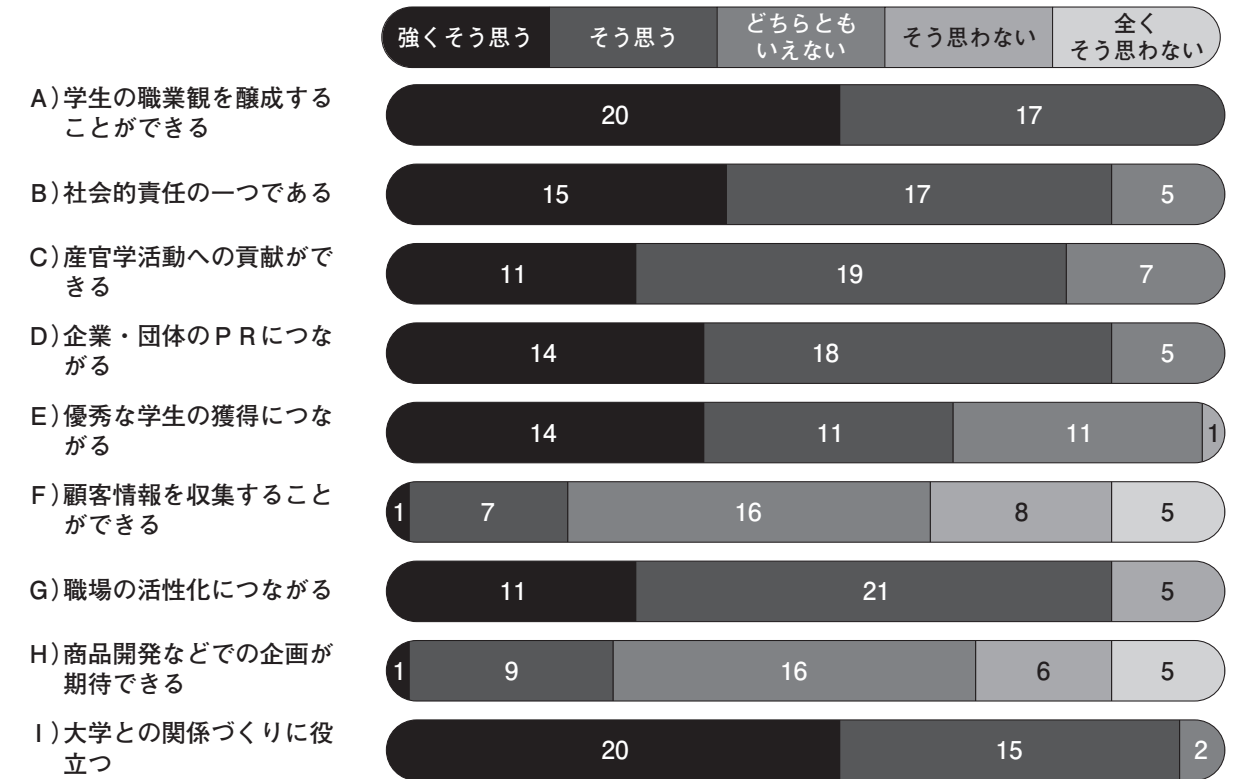
15 次のA～Nの項目について右欄の該当するものに○印をつけてください



※グラフ内の数字は人数を表しています。

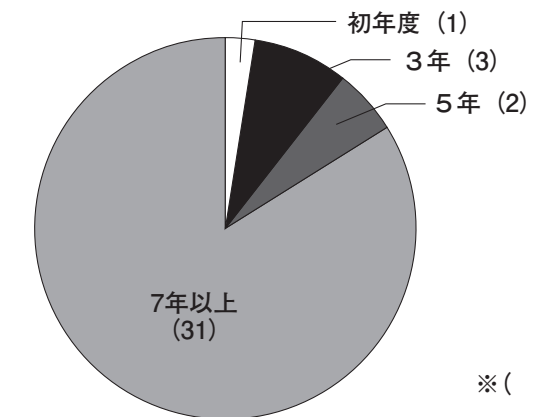
☆参加いただいた企業（37社）へのアンケート結果

1 インターンシップに対してどのようにお考えですか



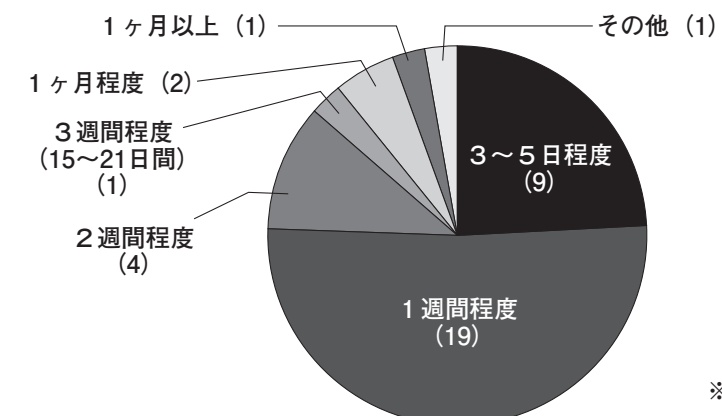
※グラフ内の数字は人数を表しています。

2 インターンシップ実習生の受け入れは何年目ですか（本学以外の学生の受け入れを含む）



※（ ）内は人数を表しています。

3 今年度のインターンシップをふまえて、実習日数はどの程度が望ましいですか

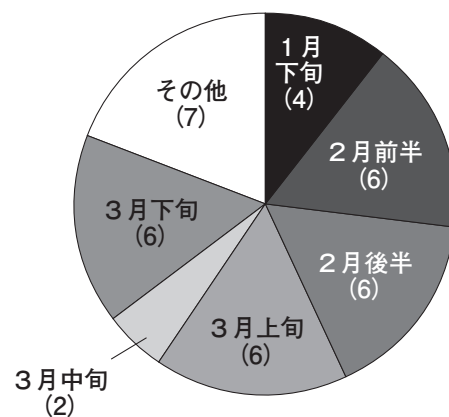


※（ ）内は人数を表しています。

4 貴社・貴団体がインターンシップを実施される上での、課題・問題点としてあてはまるものがあれば選択してください（複数回答可）

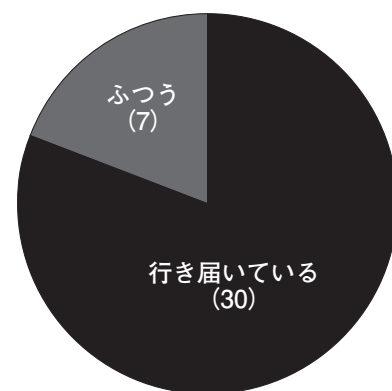
1. 受け入れのためのコスト負担	1
2. 受け入れのための人的、時間的負担	21
3. 受け入れのノウハウ不足	5
4. 社内受け入れ現場での理解	10
5. 実習部署の設定	9
6. 実習内容の設定	13
7. アルバイトとの差異	3
8. 書類等手続き等の煩雑さ	5
9. 事故発生時の対応	3
10. その他	2
	72

**5 事前準備に関してお聞かせください
本学からの受け入れ依頼時期について、いつ頃が適当とお考えですか**



※（ ）内は人数を表しています。

6 本学での事前指導についてお聞かせください



※（ ）内は人数を表しています。

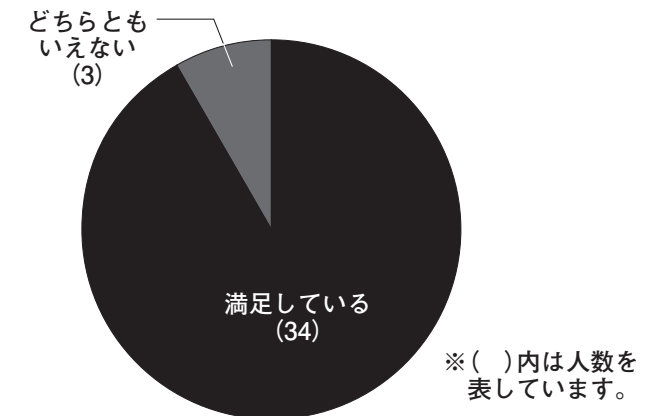
7 受け入れていただいた学生の実習態度はいかがでしたか

1. 非常に意欲的であった	25
2. 意欲的であった	11
3. ふつう	0
4. その他	1
	37

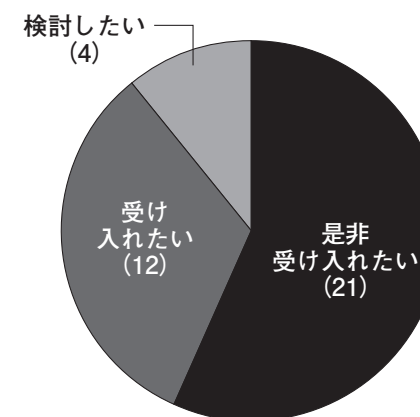
8 実習参加にあたり、学生に望まれることは何ですか（複数回答可）

1. 参加への目的意識	32
2. 取り組み意欲	30
3. 基本的なマナーの習得	20
4. スキル修得（PC、語学等）	1
5. 事前学習（受入企業、業界研究等）	5
6. その他	0
	88

9 今年度のインターンシップは満足いくものとなりましたか

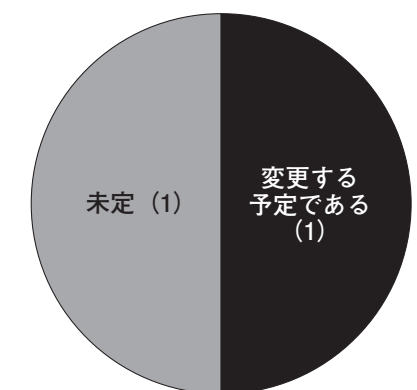


**10 次年度の受け入れについてお聞かせください
次年度の受け入れ可否について**



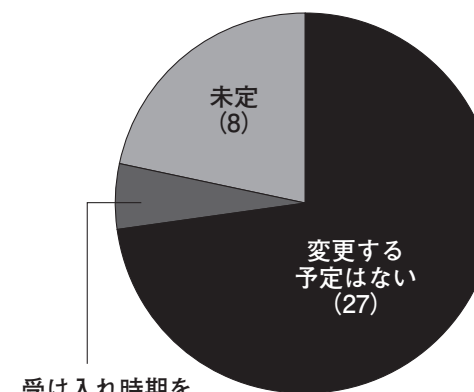
※（ ）内は人数を表しています。

11 受入期間（日数）を変更される予定はございますか



※（ ）内は人数を表しています。

12 2024年度のインターンシップの時期を、現行の夏期休暇中から変更される予定はございますか



※（ ）内は人数を表しています。

受入時期を変更・追加する予定である
（受入予定時期全てを選択してください）

4月	5月	6月	7月	8月	9月
0	1	1	0	0	2
10月	11月	12月	1月	2月	3月
2	1	0	1	1	1

2024年2月発行

編集・発行 同志社女子大学 キャリア支援部キャリア支援課